

SUSTAINABILITY REPORT 2025

株式会社 TOA XIBLE

小さな羽ばたきが、未来を変える。

地球はいま、気候変動、生物多様性の損失、
資源の枯渇など、さまざまな課題に直面しています。

このままでは、未来の景色は変わってしまうかもしれない。

だからこそ、私たちは小さな一歩を止めない。

一人の気づき。一つの行動。一つの羽ばたき。

小さな変化がつながれば、やがて大きな変化になる。

蝶の羽ばたきが、遠くの未来を変えていくように。

地球を守る。緑豊かな明日を創る。

その一歩を、私たちから。

フレキシブルな発想で、
インポッシブルをポッシブルに。



シブルな会社です!

Index

Our Story

企業情報

02　編集方針
03　トップメッセージ
05　企業理念
07　TOAシブルのあゆみ
09　会社概要
10　財務ハイライト
11　TOAプロダクト
13　非財務ハイライト

Sustainable Management

サステナビリティ経営

15　サステナビリティ基本方針・推進体制
16　ステークホルダーエンゲージメント
17　経営理念とサステナビリティの位置づけ
19　価値創造モデル
21　役員鼎談
　　柔軟な発想で、磨き続ける。
　　～本業を進化させ、人・地域・未来をつなぐ2030ビジョン～
23　5つの戦略的重要課題
25　外部環境分析(環境・経済・社会)
27　重要課題とバリューチェーンとの関わり
28　重要課題とSDGsへの貢献
29　外部評価・主要参画団体
30　所属・参画団体および認定制度

Sustainable Initiatives

サステナビリティ活動（ESG）

環境（E）

31　限りある資源を大切に
41　地球環境をクリーンに

社会（S）

53　地域社会との共存共栄
59　豊かな未来を創る組織の実現

ガバナンス（G）

76　揺るがない経営基盤の確立

グループ会社紹介

81　株式会社アールズファクトリー
89　株式会社大池
95　株式会社エナジートランスポーター
96　浅野運輸株式会社

97　GRIスタンダード対照表

編集方針

「TOAサステナビリティレポート」は、株式会社TOAシブルのサステナビリティに対する考え方、中長期ビジョン、SDGsの取り組み方針や事例、パフォーマンスデータを紹介しています。当社の包括的な取り組みについて知っていただくため、適切な情報開示を推進してまいります。

対象期間

52期(2025年5月～2026年4月)

対象範囲

株式会社TOAシブルでの取り組みと活動事例

発行時期

2026年9月　次回発行予定：2027年9月

参考ガイドライン

「GRI Standards」(GRI)、SDGコンパス
※この報告書は、GRIスタンダードを参照して作成されています。

報告内容の信頼性の確保について

サステナビリティレポートに記載した取り組みの内容や実績データについては、担当部署において適切な測定および集計確保に努めるとともに、可能な限りその方法を開示しています。

お問い合わせ窓口

〒276-0022 千葉県八千代市上高野1728番地5
株式会社TOAシブル サステナビリティ推進室

Top Message トップメッセージ



株式会社TOAシブル

代表取締役社長兼CEO

安池 慎一郎

持続可能な成長と企業価値の向上を目指して

社会の変化を成長の機会へ

創業77年を迎えた当社グループは、「自然と共に生きる未来を創造する」というビジョンのもと、グループ4社、約200名の社員とともに、資源循環を通じた持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指してまいりました。
近年、気候変動への対応、循環型社会への移行、生物多様性の保全、人口減少や労働力不足への対応など、企業を取り巻く経営環境は大きく変化しています。一方で、GXやサーキュラーエコノミーへの期待の高まりは、資源循環を担う当社グループにとって、新たな成長の機会でもあります。
私たちは、こうした変化を受け身で捉えるのではなく、自ら新しい価値を創造する機会と考えています。「フレキシブルな発想でインポッシブルをポッシブルに」というスローガンのもと、既成概念にとらわれることなく挑戦を続け、社会課題の解決と企業価値の向上を両立する経営を推進してまいります。



次の成長を見据えた経営戦略

持続可能な企業であり続けるためには、社会の変化に柔軟に対応し、自ら変革していくことが重要です。当社では、資源循環を中核事業としながら、新規事業の創出や営業戦略の見直し、DXの推進など、経営基盤の変革を進めています。デジタル技術の活用による業務効率化や情報の高度活用を図ることで、生産性の向上とサービス品質の向上を目指しています。
また、一般貨物運送事業を展開する企業をグループに迎え、物流機能を強化しました。産業廃棄物収集運搬ネットワークの拡充により、グループ全体のシナジーを高め、お客様への提供価値の向上と事業継続力の強化を実現しています。今後も積極的なM&Aを成長戦略の一つとして位置付け、持続可能な事業基盤の構築を進めてまいります。
さらに、社会や市場の変化を見据え、受入品目の見直しや資源循環率の向上を図るとともに、将来的な焼却炉の廃止を視野に入れた事業ポートフォリオの転換を進めています。環境負荷の低減と企業競争力の向上を両立しながら、循環型ビジネスのさらなる発展を目指してまいります。
私たちは、社会課題への対応を「コスト」ではなく「未来への投資」と捉えています。収益基盤を強化し、その利益を人財育成、設備投資、脱炭素、生物多様性保全、新たな事業への挑戦へと還元することで、企業価値を継続的に高める好循環を創出してまいります。

資源循環を核とした価値創造

私たちは、廃棄物処理を単なる「処理」ではなく、「資源循環」と捉えています。限りある資源を有効に活用し、新たな価値へと生まれ変わらせることは、循環型社会を支える私たちの使命です。廃棄物処理業は、社会インフラを支える重要な産業であり、環境価値と経済価値を同時に創出できる可能性を持つ産業であると考えています。
その実現に向け、当社では、「限りある資源を大切に」「地球環境をクリーンに」「地域社会との共存共栄」「豊かな未来を創る組織の実現」「揺るがない経営基盤の確立」の5つをマテリアリティとして定め、事業活動と一体となったサステナビリティ経営を推進しています。
再生燃料の製造による資源循環、脱炭素経営、生物多様性の保全、水資源保全をはじめ、環境教育や地域イベントへの参画、行政・教育機関・地域団体との連携など、地域社会との共創にも積極的に取り組んでいます。
本年度は、Scope3排出量の算定、J-クレジットの創出、養蜂プロジェクトから生まれたはちみつの販売開始、絶滅危惧種保全活動の推進、千葉県男女共同参画・多様性社会推進事業所表彰の受賞など、多くの成果を積み重ねることができました。これらは単なる活動実績ではなく、環境・社会・経済価値を同時に創出する経営を実践してきた成果であると考えています。

人財が企業価値を創る

企業価値を創造する最大の原動力は「人財」です。
当社では、多様な人財が能力を最大限に発揮できる環境づくりを進め、女性活躍の推進、高齢者が活躍できる職場づくり、人財育成への継続的な投資、健康経営などを推進しています。
こうした取り組みを積み重ねた結果、サステナビリティへの考え方は社員一人ひとりに着実に浸透し、自ら考え、主体的に挑戦する企業文化が育まれてきました。その結果、当社の理念に共感し、新たな仲間として加わる社員も増えています。
社員が仕事に誇りを持ち、自らの挑戦が社会への貢献につながっていると実感できること。それこそが企業の持続的成長を支える最も大切な基盤であると考えています。



100年企業への挑戦

企業の使命は、利益を追求することだけではありません。社会から託された責任を果たし、その結果として企業価値を高め、次の世代へより良い環境と豊かな社会を引き継ぐことにあると、私は考えています。
私たちは、資源を循環させる企業であると同時に、人を育み、地域と未来をつなぐ企業でありたい。その挑戦こそが、100年企業への礎になると確信しています。
創業77年という歴史は、多くのお客様、お取引先、地域の皆さま、そして社員一人ひとりに支えられて築いてきた財産です。この歴史に感謝するとともに、現状に満足することなく、次の100年を見据え、変化を恐れず挑戦を続けてまいります。
これからも当社は、柔軟な発想と確かな実行力をもって、社会課題の解決と企業価値の向上を両立し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。
本レポートが、当社の価値創造に向けた考え方と取り組みをご理解いただく一助となり、皆さまとの対話を深める契機となれば幸いです。

Philosophy 企業理念

「Keep Doing 繋げよう未来へ」のスローガンのもと、
持続可能な社会の形成のため、環境保全・安全への配慮など
自然との共生を基本方針とする従来の理念を継承しつつ、
未来をつなぐ企業として、ますます社会の発展に貢献してまいります

▶Mission 存在意義

わが社は、緑豊かな明日を創るため、廃棄物の再資源化並びに環境保全に向けた技術革新に取り組みます。また、豊かな人間性の醸成のため、安全で健康な職場環境の形成に努めるとともに法令遵守を徹底し、広く地域・産業社会に貢献いたします。

▶Vision 実現したい未来

「自然と共に生きる未来を創造する」
～フレキシブルカンパニー TOA～

▶Value 強み・価値

・技術革新
・知識と見識
・ホスピタリティマインド
・安全・安心

Credo

大切にすべき7つの精神

1. おもてなしの心で、最高のサービスを提供します。
2. 時代の変化を先取りし、新しいアイデアの創出に挑戦し続けます。
3. 人間力・技術力・創造力に磨きをかけ、主体的に行動します。
4. 自己研鑽を心掛け、努力を惜しまず成長し続けます。
5. 情熱・誠実・感謝をもって行動します。
6. 多様性を尊重し、互いに助け合います。
7. 共に働く仲間と家族のため、常に安全と健康を最優先します。

History

TOAシブルのあゆみ

【movie】TOAのあゆみ



東京都台東区において
廃油回収業を開始

1950



有限会社
東亜オイル興業所 設立

1968



株式会社 東亜オイル興業所 設立
東京都中間処理業許可取得

1975



コンクリート剥離剤の
製造販売を開始

1982

千葉県八千代市に工場を竣工

1980



大型焼却炉竣工工事

1990





創業者

長谷川恵一

社長任期
創業～1973年12月



2代目

長谷川孝江

社長任期
1974年1月～1980年4月



3代目

長谷川信也

社長任期
1980年5月～2001年2月

BWFプラント竣工

2009





2010

環境省より中国での
油性廃棄物リサイクル
事業の市場調査を受託

株式会社アールズファクトリーの
全株式を取得し、完全子会社化

2012







2015

インドネシアでの
NEDO実証実験

2021

エマルジョンプラント竣工





4代目

長谷川純也

社長任期
2001年3月～2007年4月



5代目

碩　孝光

社長任期
2007年5月～2018年7月



6代目

安池 慎一郎

社長任期
2018年8月～現在



「株式会社TOAシブル」に社名変更



浅野運輸株式会社の全株式を取得し、
完全子会社化

2025



株式会社エナジートランス
ポーターの全株式を取得し、
完全子会社化



有限会社大池の全株式を取得し、
完全子会社化

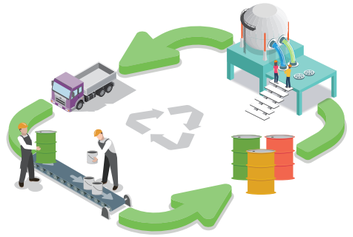
2023

Overview 会社概要

社　　名	株式会社TOAシブル　TOA Xible Co., Ltd.
代 表 者	安池 慎一郎
所 在 地	本社・工場：千葉県八千代市上高野1728-5 北関東営業所：栃木県佐野市朝日町790-1
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び中間処理 再生重油の製造・販売 エマルジョン燃料の製造・販売 メンテナンス事業

創　　業	1950年（昭和25年）3月
創　　立	1968年（昭和43年）12月
資 本 金	8,000万円
グループ会社	株式会社アールズファクトリー 株式会社大池 株式会社エナジートランスポーター 浅野運輸株式会社
従業員数	115人（2026年4月時点）
売 上 高	49億円（52期：2025年5月～2026年4月） ※連結売上

再資源化事業

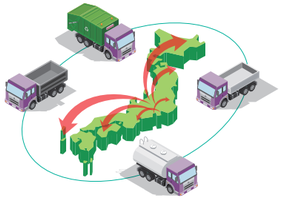


中間処理・リサイクル事業

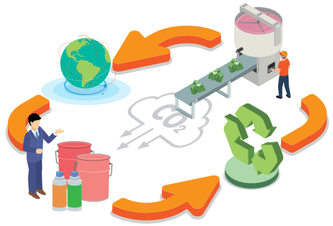
- BWF
- MOF
- ROF
- BWSE



収集運搬事業



環境保全事業



メンテナンスサービス



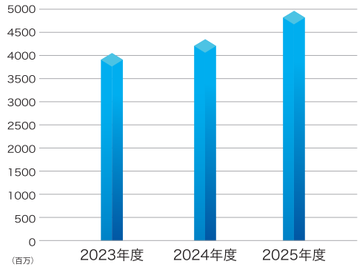
環境商品販売サービス



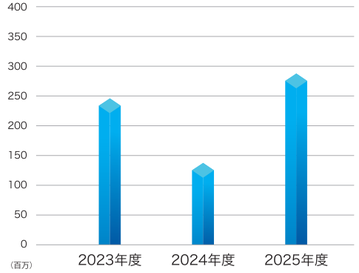
Financial Highlights 財務ハイライト

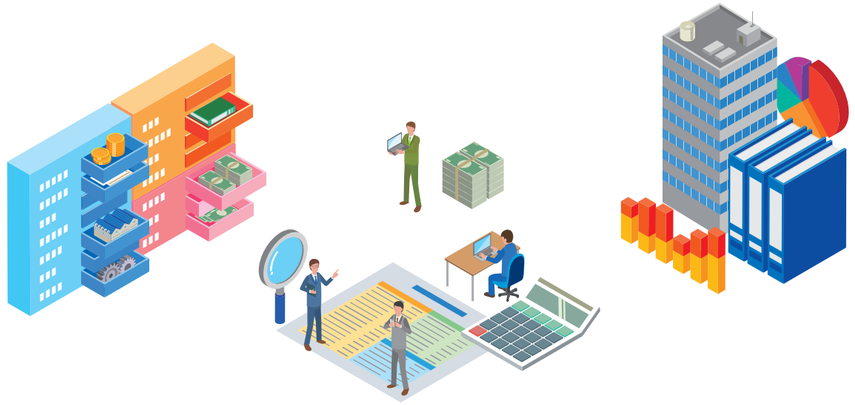
財務ハイライト

グループ連結売上高



グループ連結営業利益





Biomass Waste Fuel 【 BWF 】

製　　品：再生固形燃料
処理方法：セメント固化



その製造技術は特許を取得（特許番号：5078628号）

廃油
（インク・塗料・グリス）
汚泥
廃プラスチック類
▶
・混錬
・選別
・振動ふるい
▶
主にセメントメーカーへ
燃料として出荷

Mixible Oil Fuel 【 MOF 】

製　　品：エマルジョン燃料
処理方法：混合



特別管理産業廃棄物の処理が可能　2021年製造開始の新商品

廃油
（溶剤・含油水）
燃えやすい廃油
▶
撹拌・混合
▶
石灰メーカー
セメントメーカーにて
焼却時の再生燃料
として 利用

Reco Oil Fuel 【 ROF 】

製　　品：再生重油
処理方法：油水分離



当社で一番歴史の古い再生燃料　JIS規格を超える高品質製品

廃油
車のエンジンオイル
工場の作動油潤滑油
▶
油水分離
スラッジ除去
▶
石灰メーカー
ガラスメーカーの
ボイラー燃料として
利用

Birther Waste Steam Electric 【 BWSE 】

製　　品：電気・蒸気
処理方法：焼却

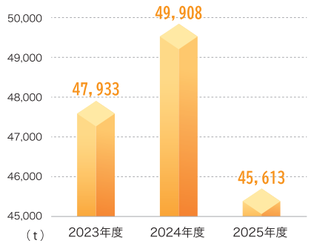


電気と蒸気を生み出す適正処理と有効活用

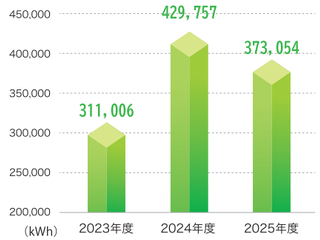
廃油(溶剤)
雑芥物
廃酸 他
▶
一次焼却
二次焼却
▶
油水分離施設
自家発電施設で
エネルギーに

Non-Financial Highlights 非財務ハイライト

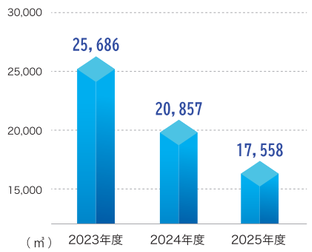
廃棄物受け入れ量



発電量



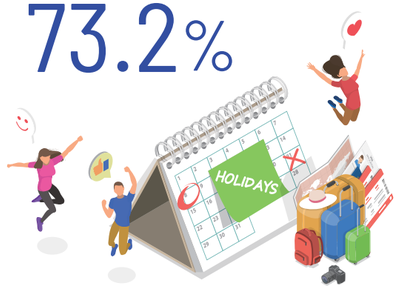
水の使用量





有給取得率

73.2%



女性役職者比率

14%



環境教育受講人数

1,174名



献血活動人数

155人



サステナビリティ経営

自然と共に生きる未来を創造する

↕

サステナビリティ経営

↕

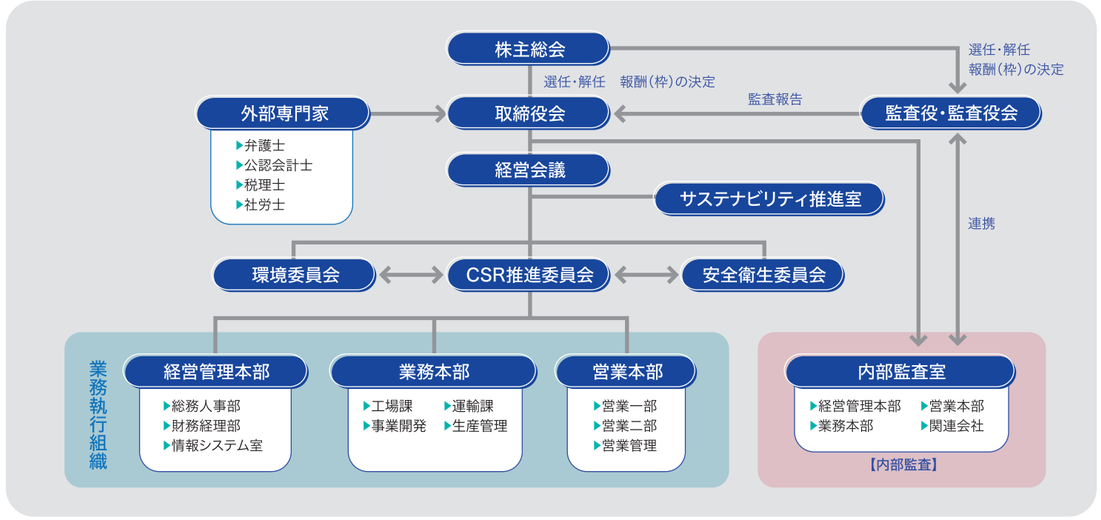
社会課題解決力・当社独自の再生
エネルギーメーカーとしての位置付け

サステナビリティ基本方針

TOAシブルは、当社のVISIONである「自然と共に生きる未来を創造する」ために、経済的・環境的・社会的な各側面に配慮して事業活動を行い、さまざまなステークホルダーとよりよい信頼関係を構築し、サステナブルな社会の実現に貢献することを基本方針とする。

サステナビリティ推進体制

当社のサステナビリティ推進体制として、下図のように各部署、各委員会が自社の課題を顕在化し、解決方法や今後の方向性について連携しています。特にCSR活動や外部環境分析を行っているサステナビリティ推進委員会、ISO14001を運用・管理する環境委員会（サステナビリティ推進委員会内）、社員の安全・健康を守るための安全衛生委員会を設置し、社員全員でサステナビリティ推進体制を構築しています。当社は「緑豊かな明日を創るため」、そして「環境保全に向けた技術革新」の実現を目指すため、事業活動を通じ、社会課題の解決に取り組むことにより、企業価値の向上を図ります。



サステナビリティ推進における役割

CSR推進委員会

・啓蒙活動を通じた
　社内コミュニケーション活動
・地域との連携
・CSR活動の目的や意義の共有

環境委員会

・ISO14001
・各部門における課題抽出
・マネジメントシステムに関する運用管理
・環境方針の定期的見直し

安全衛生委員会

・健康経営に関する事項
・労働環境向上に関する企画立案及び実行
・工場及び事業所内における安全衛生上のリスクアセスメント評価
・安全衛生方針の定期的見直し

※各部門から複数名参加

サステナビリティ推進室

・サステナビリティ全般の戦略立案
・各指標分析
・サステナビリティの動向にかかる情報収集
・長期方針、目標、達成のシナリオの策定
・外部環境分析
・パフォーマンスデータ管理
・広報活動

ステークホルダーエンゲージメント

当社が応えるべき、ステークホルダーの皆さまからの期待を毎年確認しております。それを糧にさらなる価値の提供へ邁進しております。

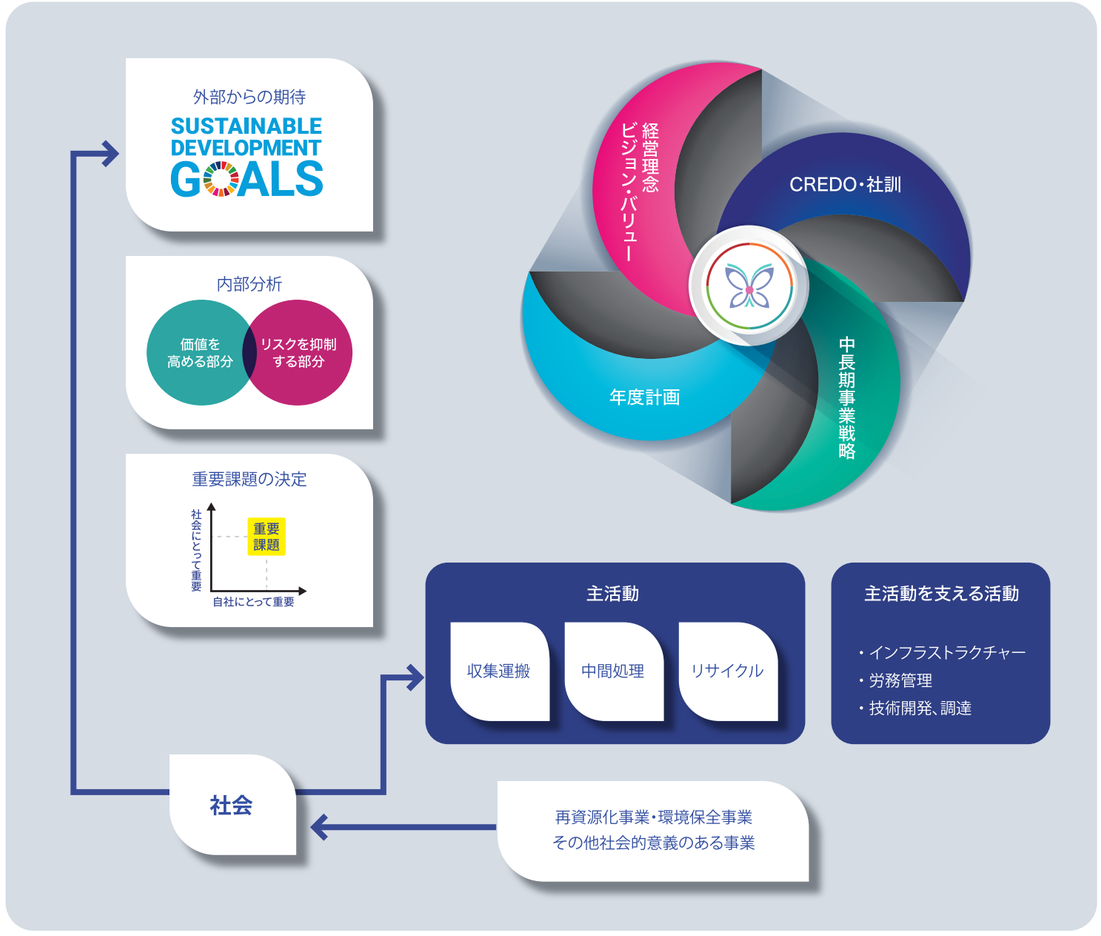
ステークホルダー	主なコミュニケーション方法・頻度
お客様	●営業活動（随時） 営業活動の遂行において、お客様からの要望を確認 ●お客様相談窓口（随時） お電話や、問合せ窓口においてお客様からのご提案、ご意見を集約 ●自社ホームページ、SNS、Activity Report等（随時）、サステナビリティレポート 自社の事業内容や具体的な活動についての発信、「産廃情報ネット」による企業情報の開示
お取引先様 金融機関	●SDGsをテーマとしたセミナー等での情報発信（随時） 関連する業界団体や取引先が参加するセミナーにて、持続可能な取り組みを共有、意見交換 ●ミーティング（随時） 自社の事業に関する情報発信の実施、意見交換
地域の方々	●近隣住民へ事業説明会（随時） 自社の事業への理解促進、情報発信の実施 ●普及啓発活動（随時） 近隣学校への環境教育実施・SDGsカードゲームの実施 ●地域交流（随時） イベントへの招待、季節毎のご挨拶の実施
社会（広域）	●NGO、NPOとの協働 社会のニーズを把握した上で、SDGsに資する取り組みについて連携 ●官民連携 社会のニーズを把握した上で、SDGsに資する取り組みについて連携
地球環境	●業界団体への参加（随時） 関連する団体にて情報開示の対応や意見交換 ●工場見学会実施（随時） 工場見学の受け入れを実施
一緒に働く仲間	●ミーティング（随時） 社名変更やSDGs実装等、会社の重要な情報が開示される場合には、必ず研修会を実施 ●社員総会（年1回） 決算報告や今後の事業戦略について全従業員に周知。部門間での意見交換や相互理解を促進

TOAシブルのこれまでの社内SDGs浸透に向けた取り組み



経営理念とサステナビリティの位置づけ

経営理念を体現化するために社会的責任を自覚し、企業としてそれに向き合う必要があると考えております。事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献する取り組みを推進していくことで、より多くの価値を創出し、これまで以上に皆さまから信頼される企業であり続けるために成長してまいります。



課題の抽出（リスクと機会の洗い出し）

社会的な課題について、SDGsや日本国内外のマクロ的な動向、サステナビリティ報告書の枠組みを策定しているGRI（グローバル・レポーティング・イニシアティブ）等を参照しました。

外部的な視点での評価

各省庁の政策、業界の動向、主な拠点である千葉県八千代市の自治体の総合計画、顧客が掲げているマテリアリティ（重点課題）を参照しました。

自社の今後の方針・期待に応えることができる部分を整理

本業のバリューチェーン上（主活動と支援活動の両側面）について、正のインパクト最大化および負のインパクト最小化について検討しました。

すべてのプロセスを考慮し、戦略的重要課題を確定

本業のバリューチェーンを越えて、社会全体における機会や潜在的に抱えるリスクについても考慮し、主力事業である廃棄物処理事業だけでなく、包括的に社会課題にアプローチできる部分を検討しました。

目指すべき方向性

当社は「自然と共に生きる未来を創造する」というVISIONのもと、当社のリサイクル事業を通じて、持続可能な成長と社会課題の解決に取り組んでいます。また、以下の特定プロセスにより、5つのテーマとそれに基づく重要課題を設定しています。

地球環境

- 重点テーマ①　限りある資源を大切に
  - 廃棄物の適正処理
  - 再資源化の推進
  - 省資源化の推進
- 重点テーマ②　地球環境をクリーンに
  - 環境汚染の撲滅
  - 脱炭素
  - 生態系保全
  - 水資源の管理

ガバナンス

- 重点テーマ⑤　揺るがない経営基盤の確立
  - コンプライアンスの徹底
  - ガバナンス強化

地域社会

- 重点テーマ③　地域社会との共存共栄
  - 共に生きるプロジェクト
  - 社会貢献活動の推進
- 重点テーマ④　豊かな未来を創る組織の実現
  - ダイバーシティ・インクルージョン
  - 社員の成長

価値創造モデル

INPUT

価値創造の源

財務資本
TOAシブルが
保有する資産

製造資本
廃棄物の適正処理やリサイクルを
実行するために必要な設備

人的資本
一緒に働く仲間たち

社会・文化資本
地域社会や行政との信頼関係をはじめ
TOAシブルがこれまで培ってきた
ステークホルダーからの理解とご支援

知的資本
処理困難物への対応や
処理効率向上の追求

自然資本
事業活動をする上で
必要な水資源やエネルギー



限りある資源を大切に
サーキュラーエコノミーの達成に意欲的に
取り組み、廃棄物の適正処理継続による
リサイクル燃料の提供を通じ、マテリアル
リサイクルの加速化を推進する
会社の実現



地域社会との共存共栄
誰一人取り残さない
地域共生社会の実現

豊かな未来を創る組織の実現
すべての社員が誇りを持って仕事に取り組み
穏やかな生活を営むことができる会社の実現

揺るがない経営基盤の確立
常に安心・安全を提供できる企業として
ステークホルダーから認められる会社の実現

OUR VISION
自然と共に生きる
未来を創造する

TOAの強み・価値

安全・安心

ホスピタリティマインド

知識と見識

技術革新



財務資本・人的資本・知的資本

製造資本・社会・文化資本・自然資本

OUTCOME

TOAのありたい姿

①限りある資源を大切に
②地球環境をクリーンに
③地域社会との共存共栄
④豊かな未来を創る組織の実現
⑤揺るがない経営基盤の確立

事業活動



再資源化事業



中間処理・リサイクル事業



収集運搬事業



環境保全事業



メンテナンスサービス



環境商品販売サービス

SOCIETY

自社を取り巻く外部環境

環境
・気候変動対策の加速化
・サーキュラーエコノミーの浸透
　マテリアルリサイクルの加速化、化石燃料需要の減少
・地域の生態系保護に対するより一層の対応

経済
・インフレーション
・戦争
・技術革新によるビジネスモデルの変化

社会
・人口動態及び労働環境の変化
・パンデミック
・責任ある企業行動の遵守強化
・情報漏洩



地球環境をクリーンに
カーボンニュートラルの達成に
積極的に取り組み、イノベーションを継続的に
創出するとともに地域の課題解決を担う
会社の実現

TOAシブル 役員鼎談

柔軟な発想で、磨き続ける。

～本業を進化させ、人・地域・未来をつなぐ2030ビジョン～



専務取締役 (兼)COO	代表取締役社長 (兼)CEO	常務取締役 (兼)CFO (兼)CHRO
古澤 孝之	安池 慎一郎	安藤 大樹

「本業を磨く」ことがTOAらしい

安池
事業を持続的に発展させていくために、私が最も重視しているのは、本業を磨き続けることです。祖業である再資源化事業の技術力や品質、安全性、サービスをさらに進化させ、その競争力を高めていくことこそが、TOAシブルの成長を支える最大の強みになると確信しています。
そのための戦略やきっかけとなるのが、BWFの有価販売やJ-クレジットの創出、環境教育、コンサルティング事業など、新たな事業領域への展開や価値・機会の創出であると考えています。当社は、未来に向けた可能性への挑戦をこれからも積極的に進めていきます。

古澤
私もまったく同じ考えです。現場では、「より安全に」「より高品質に」という視点を常に意識しながら改善を積み重ねています。決して派手な取り組みではありませんが、その一つひとつの積み重ねこそが、会社の競争力を高め、持続的な成長につながるものと考えています。

安藤
人財育成も同様ですね。新たな制度を整備することも大切ですが、それ以上に、一人ひとりが着実に成長できる環境を整えることが重要です。社員一人ひとりの成長が組織全体の力となり、企業価値の向上につながっていくと考えています。

安池
結局のところ、人も技術も、一歩一歩磨き続けることが未来を切り拓く原動力になるということですね。

「安全第一」は会社の未来への投資

安池
私たちの事業を支えるうえで、何よりも優先すべきなのは「安全」です。どれほど優れた技術や設備があっても、安全が確保されていなければ、企業として持続的な成長は実現できません。安全はすべての事業活動の基盤であり、経営において最も重要なテーマだと考えています。

古澤
確かに、そのとおりです。私たちは工場だけでなく、収集運搬など屋外で業務に従事する社員も多く、夏の猛暑や冬の厳しい寒さなど、さまざまな環境の中で仕事をしています。だからこそ、安全は「気を付けよう」という意識だけで守れるものではありません。設備や機械への投資、自動化の推進などを通じて社員の負担を軽減し、安心して働ける環境を整備することが、経営として重要な責務だと考えています。

安池
社員が安心して働ける環境を整えることが、結果としてお客様への安心と信頼につながるということですね。

安藤
採用活動においても、その姿勢は非常に重要です。学生や求職者は、「社員を大切にしている会社かどうか」をよく見ています。働きやすさや安全への取り組みは、企業の魅力を伝える大切な要素になっています。

古澤
安全が確保されてこそ、高い品質が生まれます。既存の再生燃料や各種製品についても、品質をさらに高め、「TOAなら安心」と信頼して選んでいただける企業であり続けたいと考えています。

人が集まり、人が育つ会社へ

安池
会社の未来を考えたとき、最も重要な経営資源は「人」だと考えています。

安藤
私もそのように考えています。近年は学生の皆さんも、「社会に貢献できる仕事に携わりたい」という意識が強まっています。当社は資源循環そのものを事業としているため、その取り組みに共感してくれる学生も着実に増えています。

安池
ただ、共感する人だけを採用するという話ではないですよね。

安藤
はい。さまざまな価値観や経験を持つ人が集まり、共に働く中で会社の理念を理解し、成長していく。そのような組織でありたいと考えています。そのためにも、人財育成や教育制度、働きやすい職場環境の整備には、今後も継続して力を注いでいきます。

古澤
現場においても、若手社員が安心して挑戦し、着実に成長できる環境づくりは、これまで以上に重要になると考えています。

本業を磨き上げることが、新たな価値を創出する

安池
私は、環境教育も決して本業とは切り離された取り組みではなく、本業の延長線上にあるものだと考えています。「シブルの丘」での環境教育や工場見学も、私たちの事業や想いを知っていただく貴重な機会です。その積み重ねが、新たなお客様との出会いやコンサルティングなど、新たな事業機会の創出にもつながっています。本業を磨き続けてきたからこそ、新たな価値が生まれるのだと思います。



古澤
近年では、工場見学をきっかけに「一緒に取り組みませんか」とお声掛けいただく機会も増えてきました。従来の営業活動だけでは得られない、新たなご縁や信頼関係が生まれていることを実感しています。



安藤
そうした活動は採用にも良い影響を与えています。学生の皆さんに当社を知っていただく機会となるだけでなく、社員自身が仕事に誇りを持つきっかけにもなっていますね。

「競争」から「共創」へ

安池
私は、当社だけが成長すればよいとは考えていません。協力会の皆さまをはじめ、行政、学校、地域団体等のステークホルダーの皆さまと連携しながら、新たな価値を共に創り上げていくことが重要だと考えています。環境課題は、一企業だけで解決できるものではありません。

古澤
収集運搬事業においても同様です。M&Aなどを通じてネットワークを広げ、地域全体でより良いサービスを提供できる体制を構築していきたいと考えています。

安藤
地域、お客様、お取引先様、協力会社の皆さま、そして社員とそのご家族。こうした多くの方々との信頼関係がTOAブランドを育み、その信頼が企業価値となり、さらなる成長や新たな挑戦へとつながっていくのだと思います。

2030年、そして100年企業へ

安池
私は、100年企業とは単に売上規模だけで実現するものではないと考えています。人が集い、人が育ち、本業を磨き続ける。その技術と信頼が新たな価値を生み出し、地域や多くのパートナーとの共創へと広がっていく。その積み重ねこそが、地域や業界全体の発展につながり、100年企業への道を切り拓くものではないでしょうか。
そして、その未来は私たちだけで実現できるものではありません。地域の皆さま、お客様、お取引先様、協力会をはじめとするパートナーの皆さま、社員とそのご家族など、多くの方々に支えていただいているからこそ、今日のTOAがあります。
これからも感謝の気持ちを忘れることなく、一つひとつの信頼を積み重ねながら、皆さまとともに持続可能な未来を創造してまいります。

古澤
そうですね。そして、安全と品質を磨き続けることこそが、お客様や地域の皆さまからいただいた信頼に応えることだと考えています。



安藤
人を育て、地域とともに成長し、その積み重ねが100年企業への礎になります。私たちも、その土台づくりを着実に支えていきたいと思います。

安池
「競争」ではなく、「共創」。今日話したことを一つひとつ大切にしながら、本業を磨き、人を育て、地域や多くの皆さまとともに未来を創っていきたいと思います。2030年、そしてその先の100年企業へ。これからも皆で力を合わせて、歩んでいきましょう。

5つの戦略的重要課題

	主なテーマ	今後２～３年の計画	2030年のありたい姿
[1]限りある資源を大切に	▶廃棄物の適正処理 ▶再資源化の推進 ▶省資源化の推進	・稼働率の向上を踏まえた設備改善と生産体制の構築 ・新たな技術開発による再資源化事業の拡大	サーキュラーエコノミーの達成に意欲的に取り組み、廃棄物の適正処理継続によるリサイクル燃料の提供を通じ、マテリアルリサイクルの加速化を推進する会社の実現
[2]地球環境をクリーンに	▶環境汚染のコントロール ▶脱炭素社会の創造 ▶水資源の管理（保護・保全） ▶生物多様性への貢献	・GHG排出量の算出と削減の明確化 ・生物多様性への取り組み拡大と地域の生態系調査実施	カーボンニュートラル達成に積極的に取り組み、イノベーションの継続的な創出と共に、自社だけでなく、地域の課題解決を担う会社の実現
[3]地域社会との共存共栄	▶共に生きるプロジェクト ▶社会貢献活動の推進	・環境教育等、SDGs普及活動の活発化 ・体験の機会の場への認定・登録	誰一人取り残さない地域共生社会の実現
[4]豊かな未来を創る組織の実現	▶有給取得率の向上 ▶残業時間の低減 ▶DXの推進 ▶社員の生活習慣病のリスク低減 ▶社員のメンタルヘルス不調の回避 ▶社員の事故ケガ発生による負傷の回避 ▶ダイバーシティインクルージョン ▶離職率の低減 ▶社員の成長	・女性職員の採用とそれに伴う職場環境改善 ・福利厚生サービスの充実 ・時間外労働の抑止と業務の平準化を目的としたシステムの導入	すべての社員が誇りを持って仕事に取り組み、穏やかな生活を営むことができる会社の実現
[5]揺るがない経営基盤の確立	▶環境におけるコンプライアンスの遵守 ▶社会面におけるコンプライアンスの遵守 ▶財務の健全性 ▶情報セキュリティの管理 ▶サプライチェーンマネジメント ▶コーポレートガバナンス体制の強化 ▶レジリエンス機能の強化	・全社員に対するコンプライアンス研修の定期実施 ・内部統制システムの構築	常に安心・安全を提供できる企業としてステークホルダーから認められる会社の実現

外部環境分析（環境）

テーマ		リスクと機会
気候変動対策の加速化	リスク（移行）	燃料費の高騰により、エネルギー調達コストの増加に伴い、財務を圧迫する恐れがある。
		環境への取り組みに後ろ向きな姿勢は、レピュテーションリスクを生じさせ、企業ブランド価値の低下に繋がる恐れがある。
		炭素税（カーボンプライシング）等、温室効果ガス排出を抑制する政策導入・規制強化が今後想定されることから、対処方針を検討しておかないとオペレーションコストの増加につながる恐れがある。
		カーボンニュートラルが進行していく中で、中長期的に廃棄物の焼却による非エネルギー起源の二酸化炭素に向き合うタイミングが発生し、その対策コストが発生する恐れがある。
	機会	通信体制の整備や代替輸送ルートの検討など、BCP強化により、取引先から選ばれる企業となる。
		再資源化された製品の需要増加による収益の増加が見込まれる。ただし、再生重油については今後の世界の評価を考慮する必要がある。
		施設の省エネルギー推進によるエネルギーコストの低減が期待され、さらなる二酸化炭素排出量削減行動をとることによって、同業他社との差別化につながり、新規顧客獲得機会の増加を見込むことができる。
		再生可能エネルギー事業への需要増大により、エネルギー供給から再資源事業まで、広範にわたる環境ビジネスの市場が拡大する。
サーキュラーエコノミー経済の浸透によるマテリアルリサイクルの加速化、化石燃料需要の減少	リスク	マテリアルリサイクルの見直しでサーマルリサイクルのマテリアルバランスの減少が生じる可能性があり、中長期的に見ると搬入量が落ち込む可能性がある。
	機会	サーキュラーエコノミーに資する処理プロセスの技術開発に注力し、再資源市場を開拓していくことで、リスクで記載した収益の下振れを抑え、上振れへ転換していけるような収益構造を目指す。
地域の生態系保護に対するより一層の対応	リスク	自然環境の悪化が進み、自社が活用する自然資本へのアクセスが難しくなると追加コストが発生する。また、生態系を守る政策から逆行した事業推進をするとステークホルダーの支持を得られなくなりレピュテーションリスクが発生する。
	機会	健全な水循環・物質循環と、それを取り巻く社会・経済活動における循環への貢献と企業価値向上につながる。生物多様性を軸に、地域単位で生態系保全の取り組みを実施することで持続可能なまちづくりを進め、生物との共存共栄を図る。
自然災害・異常気象への対応	リスク	大規模地震や気候変動に伴う豪雨・洪水などの自然災害リスクの高まりを受け、労働安全衛生の強化やBCP（事業継続計画）の強化が求められる。
	機会	・災害廃棄物処理や地域防災への貢献を通じて社会的価値を発揮する機会となる。 ・通信体制の整備や代替輸送ルートの検討など、BCP強化により、取引先から選ばれる企業となる。

外部環境分析（経済）

テーマ		リスクと機会
インフレーション	リスク	物価の高騰により、財務を圧迫する恐れがある。
	機会	生産プロセスを見直して資源投下の抑制に成功することで、妥当な価格で製品やサービスを提供することを可能にし、市場を確保出来ることが想定される。
戦争	リスク	新施設導入のコスト増加。施設トラブルによる負傷リスクの増大。
	機会	自国におけるエネルギー等の安全保障の強化が求められており、万が一自国の資源調達難が発生した場合、自国内における資源確保の下支えに寄与することができる。
技術革新によるビジネスモデルの変化	リスク	SX（サステナビリティトランスフォーメーション）に向けた次世代技術や新技術を取り入れないと後れを取ってしまう可能性が高くなる。
	機会	革新的なサービスやビジネスモデルの創出・提供・新技術の活用による生産性の向上、サプライチェーン全体の最適化により財務内容の改善や向上につながる可能性がある。

外部環境分析（社会）

テーマ		リスクと機会
人口動態及び労働環境の変化	リスク	時代の潮流に即した労働環境の整備を講じなければ、サービスの質が下がり、顧客満足度の低下につながる可能性がある。
		働き方改革を進めないと特に過剰労働等による従業員の健康被害のリスクが増大する恐れがある。
		少子高齢化、労働人口不足、都市化が進むと人財の確保が難化する恐れがある。
	機会	仕組みや業務効率の見直し、ITなど仕事効率化技術・サービスの発展、残業時間削減の効果を目指すことで生産性向上につながる。
		社員エンゲージメントの向上、ワークライフバランスの強化、様々な背景を抱える人が働きやすい職場への変革を通じて人財の確保及び離職率の抑止につながる。
パンデミック	リスク	適切な人員配置を敷くことができず、通常操業に影響を及ぼす恐れがある。
	機会	多様な働きに資する社内の仕組みを整備し、業務効率の見直しを図ることによって、レジリエンスを高めることができる。
責任ある企業行動の遵守強化	リスク	産廃区分の厳格化やリサイクルの徹底指導等により、処理対応が厳しくなる。また、コンプライアンス遵守が社内に浸透していないと、企業の信用の低下につながる。施設周辺の企業や住民と適切な関係を築けない場合、操業に対する反発が発生する恐れがある。
	機会	信頼できる業者を選定した委託の増加により、廃棄物適正処理の機会が増加することにつながる。地域密着型のCSR活動や環境教育などが、地域社会との信頼構築に貢献できる。
情報漏洩	リスク	個人情報や企業情報を適正に取り扱わないと、企業の信用低下につながる。また、サイバー攻撃の件数が増加している中で、情報流出を防ぐ対策を講じる必要がある。
	機会	信頼できる業者を選定した委託の増加により、廃棄物適正処理の機会が増加することにつながる。

重要課題とバリューチェーンとの関わり

重点取り組みのテーマ	主活動（主に企業において価値を提供する部分）				支援活動（バリューチェーンの主活動の基盤となる部分）			
	社会	収集運搬	中間処理	リサイクル埋立	調達活動	技術開発	人事・労務管理	全般管理
限りある資源を大切に								
廃棄物の適正処理		●	●	●		●		
再資源化の推進		●	●	●		●		
省資源化の推進		●	●	●	●	●	●	●
地球環境をクリーンに								
環境汚染の撲滅		●	●	●				
脱炭素	●	●	●	●	●	●	●	●
再生可能エネルギーの利用促進		●	●	●	●	●	●	●
水資源の管理		●	●	●				
生物多様性への貢献	●	●	●	●				
地域社会との共存共栄								
共に生きるプロジェクト	●							
社会貢献活動の推進	●							
豊かな未来を創る組織の実現								
有給取得率の向上							●	
残業時間の低減							●	
DXの推進		●	●	●	●	●	●	●
社員の生活習慣病のリスク低減							●	
社員のメンタルヘルス不調の回避							●	
社員の事故怪我発生による負傷の回避		●	●	●	●	●	●	●
ダイバーシティインクルージョン							●	
離職率の低減							●	
社員の成長							●	
揺るがない経営基盤の確立								
環境におけるコンプライアンスの遵守	●	●	●	●	●	●	●	●
社会面におけるコンプライアンスの遵守	●	●	●	●	●	●	●	●
財務の健全性	●	●	●	●	●	●	●	●
情報セキュリティの管理	●	●	●	●	●	●	●	●
サプライチェーンマネジメント	●	●	●	●	●	●	●	●
コーポレートガバナンス体制の強化	●	●	●	●	●	●	●	●
レジリエンス機能の強化	●	●	●	●	●	●	●	●

赤 負のインパクト最小化　青 正のインパクト最大化

重要課題とSDGsへの貢献

重点取り組みのテーマ	SDGsのゴール															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
限りある資源を大切に																	
廃棄物の適正処理												12.4 12.5					
再資源化の推進			3.9			6.3	7.3					12.4 12.5					
省資源化の推進							7.3					12.5	13.1				
地球環境をクリーンに																	
環境汚染の撲滅			3.9			6.3 6.4 6.6						12.4	13.1	14.3	15.2		
脱炭素							7.2										
再生可能エネルギーの利用促進			3.9									12.4	13.1	14.3	15.2		
水資源の管理						6.3 6.6						12.4		14.1			
生物多様性への貢献															15.5		
地域社会との共存共栄																	
共に生きるプロジェクト			3.3 3.4 3.8	4.7							11.5	12.8		14.1			17.16
社会貢献活動の推進　※文脈により貢献しうる				4							11						
豊かな未来を創る組織の実現																	
有給取得率の向上					5.1 5.4			8.5									
残業時間の低減								8.5 8.8									
DXの推進								8.5 8.8									
社員の生活習慣病のリスク低減			3.4														
社員のメンタルヘルス不調の回避			3.4														
社員の事故怪我発生による負傷の回避			3					8									
ダイバーシティインクルージョン					5.5			8.5 8.6		10.3							
離職率の低減					5.1			8.5 8.6		10.3							
社員の成長				4.3 4.4 4.5	5.1			8.2 8.5 8.8		10.3							
揺るがない経営基盤の確立　※多岐に貢献するための基盤																	
環境におけるコンプライアンスの遵守	サステナビリティ領域におけるインパクトを発揮するための基盤																
社会面におけるコンプライアンスの遵守																	
財務の健全性																	
情報セキュリティの管理																	
サプライチェーンマネジメント																	
コーポレートガバナンス体制の強化																	
レジリエンス機能の強化																	

赤 負のインパクト最小化　青 正のインパクト最大化

外部からの評価・その他外部団体への加入状況

1986年3月
・再資源化貢献企業賞受賞
財団法人クリーンジャパンセンターより

1993年6月
・地方優良事業所賞受賞
社団法人全国産業廃棄物連合会より

1996年6月
・優良事業所賞受賞
社団法人全国産業廃棄物連合会より

2008年1月
・循環型社会形成推進功労者等賞 環境大臣表彰
環境省より

2012年10月
・3R推進協議会会長賞受賞
3R推進協議会より

2012年12月
・千葉県知事感謝状
・千葉県環境生活部長感謝状
千葉県廃棄物適正処理推進大会より

2023年4月
・やちよサービス大賞 大賞受賞
千葉県八千代市より

2024年1月
・千葉のちから「中小企業・小規模企業表彰」受賞
千葉県より
・ESJ AWARD 2023「最優秀賞」受賞 エコスタッフ・ジャパンより

2026年2月
・千葉県循環型社会形成推進功労者等表彰 千葉県廃棄物適正処理推進大会
・千葉県男女共同参画・多様性社会推進事業所表彰 奨励賞 千葉県
・関東経済産業局長表彰 関東経済産業局

重要な役割を担う団体のリスト

団体・機関名	団体・機関の概要	団体・機関上の要職	名前	当社における所属・役職
一般社団法人 千葉県産業資源循環協会	産業廃棄物の適正処理及び再生利用の普及、拡大及び定着の促進、資源循環の推進による産業の健全な発展並びに公衆衛生の向上、生活環境の保全による循環型社会の構築	副会長	安池　慎一郎	代表取締役社長兼CEO
全国オイルリサイクル協同組合	再生重油の共同受注および相互融通の斡旋、再生重油等の原料の共同調達、斡旋、試験分析および新製品の共同開発　他	理事長	安池　慎一郎	代表取締役社長兼CEO
千葉県産業資源循環協同組合	産業廃棄物の適正処理支援・調査等	専務理事	安池　慎一郎	代表取締役社長兼CEO
エコスタッフ・ジャパン株式会社	廃棄物処理関連教育研修・検定実施・廃棄物適正処理支援・廃棄物コンサルティング（各種調査）	取締役	古澤　孝之	専務取締役兼COO
クリーントウキョウ協同組合	産業廃棄物処理支援・調査	理事	古澤　孝之	専務取締役兼COO
八千代市防災協会	防火・防災に関する講習、民間防火・防災組織の育成・活動推進	理事	庄田　篤史	生産本部　本部長
八千代市工場協議会	市内企業の地域間ネットワーク構築・課題解決	役員	安藤　大樹	常務取締役 （兼）CFO（兼）CHRO
上高野工業団地工場協議会	市内企業の地域間ネットワーク構築・課題解決	役員	安藤　大樹	常務取締役 （兼）CFO（兼）CHRO
一般社団法人 千葉県環境保全協議会	環境保全に関する知識と、技術の普及啓蒙、工場、事業場等公害防止、管理の円滑な遂行	理事	茂家　貴志	営業本部　本部長

	登録、積極的な関与をしている業界団体、会員制団体、国内外の提言機関	認定を受けている制度
限りある資源を大切に	● 一般社団法人千葉県産業資源循環協会 ● 一般社団法人東京都産業資源循環協会 ● 首都圏廃棄物事業協同組合 ● エコスタッフ・ジャパン 認定企業 ● 全国オイルリサイクル協同組合 ESJ ECO STAFF JAPAN	● ISO14001（北関東営業所/メンテナンス事業は除く） ● 産廃エキスパート ASR ANAB ISO14001 2022.4～2025.3 収集運搬業（積替え保管を除く）産廃 エキスパート 認定番号 5-21-A0075 産業廃棄物処分業許可優良認定 ● 特別管理産業廃棄物処分業許可優良認定 ● 産業廃棄物収集運搬業許可優良認定 ● 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可優良認定
地球環境をクリーンに	● 30by30アライアンス登録 ● 生物多様性ちば企業ネットワーク ● ネイチャーポジティブ宣言 ● 再エネ100宣言 RE　Action 30by30 ネイチャーポジティブ宣言 supported by J-GBF 再エネ100宣言 RE Action	● SBT イニシアチブ「Business Ambition for 1.5℃」の認定 SCIENCE BASED TARGETS DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION ● $CO_2$$CO_2$スマート宣言事業所登録
地域社会との共存共栄	● ちばSDGsパートナー登録 ちばSDGs ちばSDGsパートナー 1017号	● ESJ優良ドライバー認定（ブロンズ・シルバー） ● 千葉県「社員いきいき！元気な会社宣言企業」登録 社員いきいき！元気な会社！宣言企業 ● ちば家庭・学校・地域応援企業登録制度 教育CSR 取り組んでいます
豊かな未来を創る組織の実現	● ちばダイバーシティ宣言 ちば ダイバーシティ 宣言企業 千葉県マスコットキャラクター チーバくん	● 経済産業省「健康経営優良法人」認定 2025 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health
揺るがない経営基盤の確立		● 経済産業省「事業継続力強化計画」認定 令和5年度 認定 経済産業省 ● SECURITY　ACTION（二つ星）登録 SECURITY ACTION 二つ星 セキュリティ対策自己宣言

戦略的重要課題
[1]限りある資源を大切に

環境方針

当社は、関東近郊にわたる産業廃棄物の収集運搬、中間処理の許可を有し、廃棄物の無害化処理やリサイクル製品の製造及び、環境配慮商品の流通を通じ持続可能な社会の形成に貢献しています。しかしながら、その過程においては、環境への負荷を与えていることを認識し、環境目標を定め直すとともに汚染の予防に努め、構築した環境マネジメントシステムを継続的に改善します。また、関連する法律、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

私たちは、以下の項目を重点テーマとして活動を行います。

1.環境保全に向けたさらなる技術革新により、再生重油、再生混合燃料、再生固形燃料の製造などを主体とするリサイクル事業を発展させ、再資源化を推進します。
2.低炭素社会の構築のため、CO_2低減に役立つ製品の製造及び設備機器導入を促進することにより、CO_2の実質的削減を目指します。
3.当社の販売網を通して環境保護に貢献できる商品を積極的に情報収集し、仕入れ、販売を行います。
4.環境負荷を低減するための未然防止活動を通じて、事故・災害・苦情を撲滅します。

この環境方針は全従業員に周知するとともに、外部からの要求に応じて公表いたします。

サステナビリティ中期目標と実績（廃棄物の適正処理）

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度	評価	ありたい姿
12.4/12.5	受け入れから処理までの管理	廃棄物処理量の増大	廃棄物の処理量(t)	産廃 31,627(t/年) 有価 16,306(t/年) 合計 47,933(t/年)	産廃 32,743(t/年) 有価 17,165(t/年) 合計 49,908(t/年)	産廃 28,828(t/年) 有価 16,785(t/年) 合計 45,613(t/年)	○	予算達成に基づく数値
		廃棄物返品数量の削減	廃棄物返品数量(t)	産廃:45(t/年) 有価: 1 (t/年) 合計:46(t/年) 禁忌品確認 1回／月実施 対象顧客への周知実施	産廃:27(t/年) 有価: 4 (t/年) 合計:31(t/年) 禁忌品確認 1回／月実施 対象顧客への周知実施	産廃:16(t/年) 有価: 6 (t/年) 合計:22(t/年) 禁忌品確認 1回／月実施 対象顧客への周知実施	○	返品なし(0t/年)
		処理工場稼働率の向上	稼働率	39% (50,397t/年)	42% (53,228t/年)	38% (49,057t/年)	×	100% (127,684t/年)

再資源化・省資源化

搬入内訳	数値
燃え殻	118t
汚泥	7,587t
廃油	11,016t
廃酸	400t
廃アルカリ	1,901t
廃プラスチック類	1,813t
紙くず	1,161t
木くず	1,653t
繊維くず	387t
動植物性残さ	50t
ゴムくず	0t
金属くず	38t
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	8t
鉱さい	0t
ばいじん	0t
特管廃油	2,395t
特管廃酸	89t
特管廃アルカリ	151t
特定有害産業廃棄物 汚泥（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	0t
特定有害産業廃棄物 廃油（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	61t
特定有害産業廃棄物 廃酸（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	0t
特定有害産業廃棄物 廃アルカリ（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	0t
	28,828t

(仕入)搬入内訳	数値
支払仕入　廃油(油水分離)	11,904t
支払仕入　溶剤(混合)	4,881t
合計	16,785t

エネルギー	数値
電力	1,736,678kWh
ガソリン	17,907L
軽油	272,989L
都市ガス	13,243㎥
水使用量	17,558㎥

中間処理	数値
焼却	10,027 t
混合	6,735 t
セメント固化	16,313 t
油水分離	12,539 t
切断	0 t
合計	45,613 t

再資源化	数値
燃え殻	118t
汚泥	4,998t
廃油	7,673t
廃酸	0t
廃アルカリ	106t
廃プラスチック類	1,746t
紙くず	1,161t
木くず	1,653t
繊維くず	387t
動植物性残さ	50t
ゴムくず	0t
金属くず	0t
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	0t
鉱さい	0t
ばいじん	0t
特管廃油	874t
特管廃酸	0t
特管廃アルカリ	36t
特定有害産業廃棄物 汚泥（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	0t
特定有害産業廃棄物 廃油（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	0t
特定有害産業廃棄物 廃酸（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	0t
特定有害産業廃棄物 廃アルカリ（1,4-ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る）	0t
合計	18,802t

埋め立て	数値
焼却残渣：ばいじん	119t

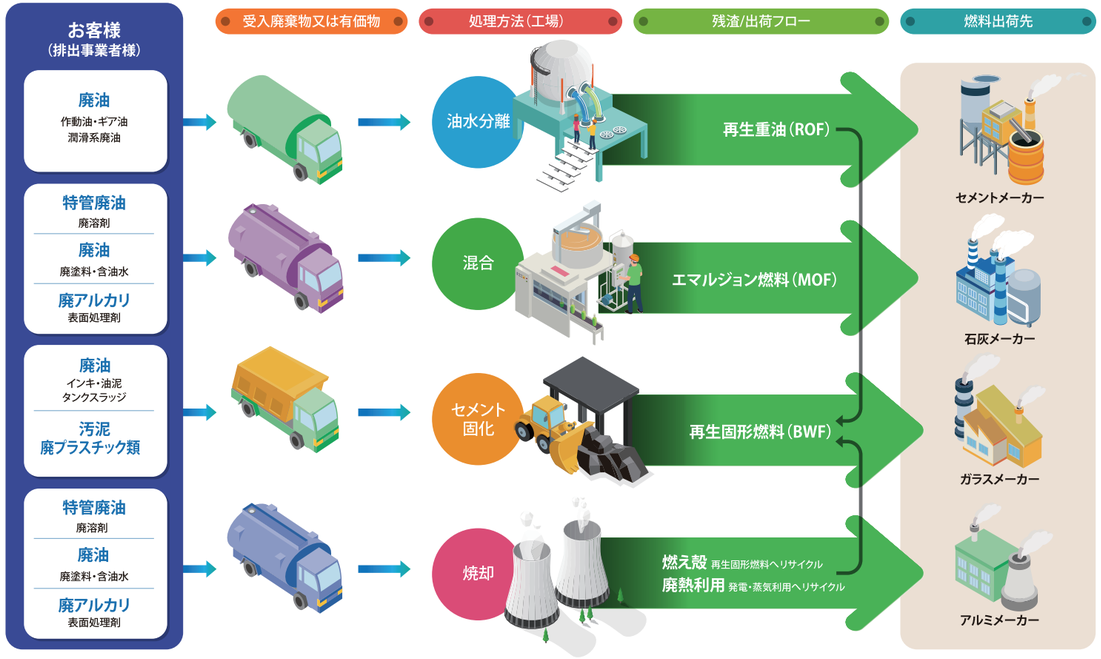
詳細については、優良産廃処理業者認定制度に係る公表事項における
「産業廃棄物の最終処分終了までの一連の処理の行程」を参照
https://www2.sanpainet.or.jp/index_u5.php?Param1=8&Param2=04323&Param0=&menu=2

2025年度の実績と今後の方針

当社は中間処理業者として、責任と明瞭性を持った適正処理を徹底し、リサイクル効率の向上を通じて循環型社会の実現に貢献してまいります。当社には「油水分離」「混合」「セメント固化」「焼却」の4つの高度処理施設があり、これらを連携させることで多種多様な廃棄物の再資源化が可能です。特に、自社の焼却施設から発生する燃え殻や、製造過程で生じるスラッジ・固形物についても、自社施設内で再投入・リサイクルを完結させる独自の体制を構築しています。これにより、外部への廃棄を最小限に抑え、極めて高い再資源化率を実現しています。一方で、2025年度は返品数量が2024年度と比較して減少したものの、真摯に受け止めてさらなる改善に努めます。今後は検収体制の強化とともに、処理困難物の積極的な受け入れと適正処理を推進いたします。処理量の増大と再資源化の質的向上を両立させ、社会の期待に応える資源循環のプロフェッショナルを目指します。



廃棄物処理における当社のビジネスモデル



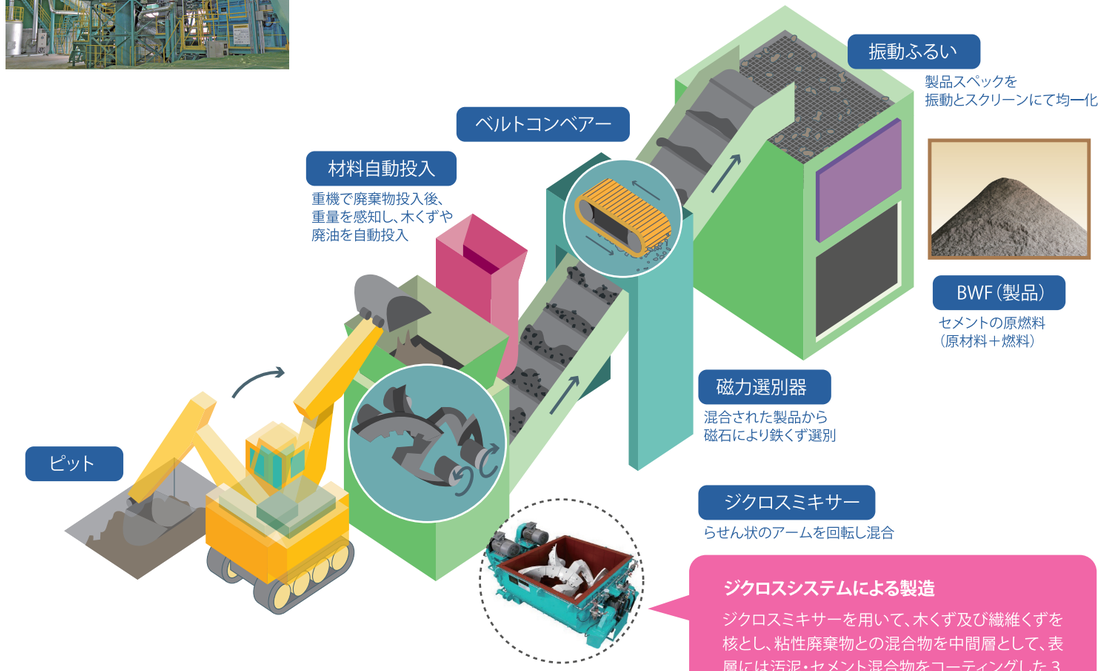
廃棄物の適正処理

セメント固化

Biomass Waste Fuel



- カロリーや性状などお客様の利用環境に合わせた製品にカスタマイズ可
- 石炭の代替燃料として、石炭使用時より18%のCO_2排出量削減
  ※環境省CO_2排出係数対比による
- 万全の安全対策により安定供給可能



処理能力　500 m³／日

ジクロスシステムによる製造

ジクロスミキサーを用いて、木くず及び繊維くずを核とし、粘性廃棄物との混合物を中間層として、表層には汚泥・セメント混合物をコーティングした3層構造をもつBWFを製造するシステムです。このジクロスシステムを活用し、異なる多種類の混合物の均一な加工を短時間で実現しました。

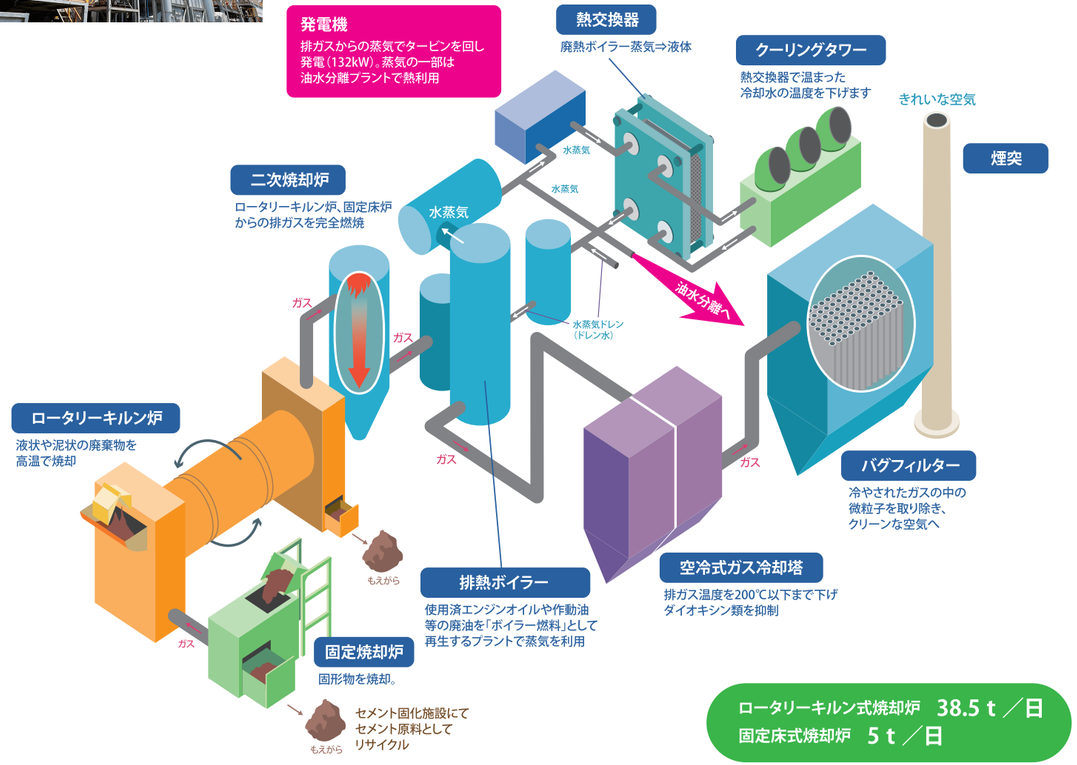
廃棄物の適正処理

焼却

Birther Waste Steam Electric



- 焼却燃料はバージン燃料を使用しない為CO_2削減に寄与
- 再生重油の水分除去に焼却エネルギーを利用
- 燃え殻はセメント固化施設にて製品のべたつき防止剤として再利用
- 工場内で排出される蒸気発電でサーマルリサイクル



ロータリーキルン式焼却炉　38.5 t ／日
固定床式焼却炉　5 t ／日

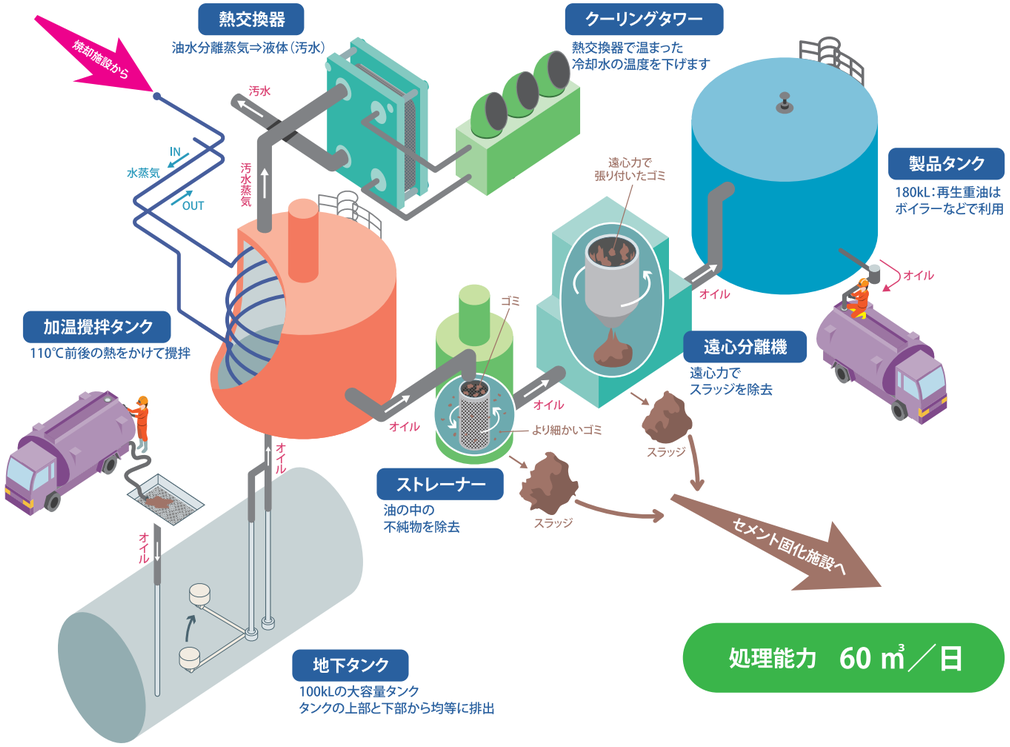
廃棄物の適正処理

油水分離

Reco Oil Fuel



- 地球温暖化対策推進法（温対法）では、再生重油は排出量報告時、「報告対象外」となり、CO_2排出実質ゼロとなる
- B重油の代替品
- A重油との比で4%、C重油との比で15%のCO_2削減効果
  ※環境省CO_2排出係数対比による
- JIS規格（水分1%以下・硫黄分1%以下）をクリアした高品質製品を製造
  →当社規格：水分0.3%～0.5%以下・硫黄分0.5%以下



処理能力　60 m³／日

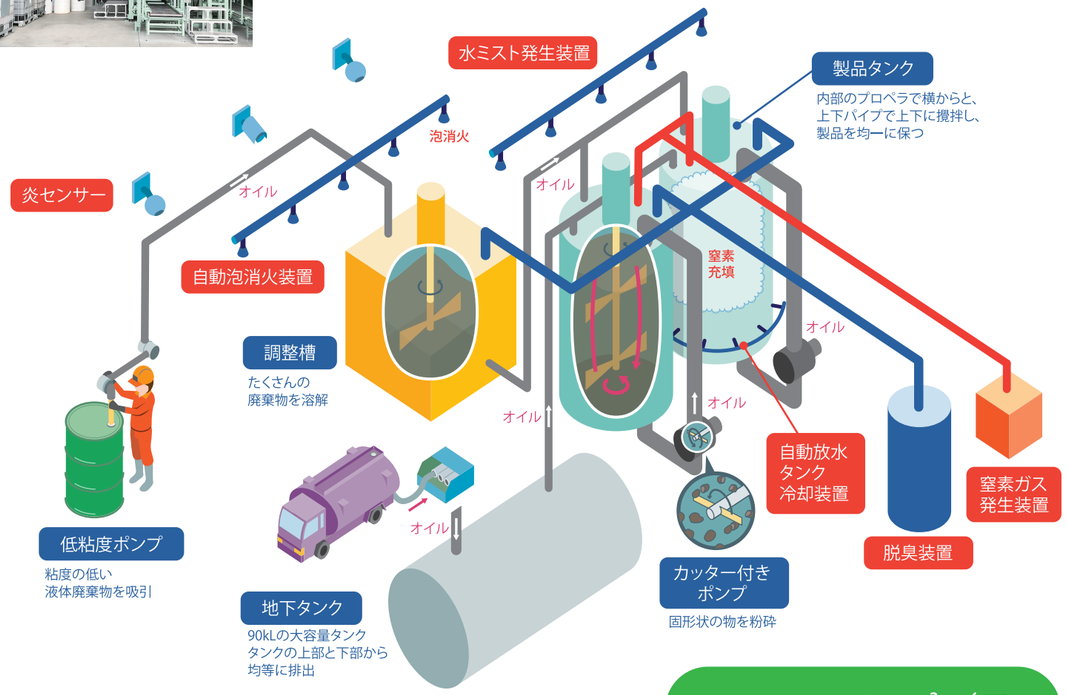
廃棄物の適正処理

混合

Mixible Oil Fuel



- 石炭の代替燃料として石炭使用時より21%のCO_2排出量削減
  ※環境省CO_2排出係数対比による
- 廃棄物処理施設では、類を見ない徹底した安全設備
- カロリーや性状などお客様の利用環境に合わせた製品にカスタマイズ可



赤枠は安全装置の説明

処理能力　74 ㎥／日

サステナビリティ中期目標と実績（再資源化の推進）

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度	評価	ありたい姿
3.9/6.3/12.4/12.5	マテリアルリサイクル	廃棄物再資源化率の向上	再資源化率	80%	79%	77%	×	100%
3.9/6.3/7.3/12.4/12.5	サーマルリサイクル	①排熱利用蒸気により発電量の向上 ②ボイラーガス利用の削減	①発電量 ②ボイラーガス利用量	①311,006(kWh/年) ②22,492(Nm³/年)	①429,757(kWh/年) ②20,604(Nm³/年)	①373,054(kWh/年) ②19,720(Nm³/年)	×	①950,400(kWh/年) ②15,000(Nm³/年)
7.3/13.1	省エネルギー（電気・ガス・燃料）	使用するエネルギーの削減削減率の向上	エネルギー使用量削減率 （2020年度からの増加分割合 4,566(t-CO_2/年)）	4,597(t-CO_2/年) 1%増加	7,453(t-CO_2/年) 39%増加	7,674(t-CO_2/年) 40%増加	×	25%減(3,424 t-CO_2/年)
12.5	省資源（紙・プラ）	使用する紙・プラ製品の削減削減率の向上	使用量削減率	紙：削減量1.65(t/年) 削減率17.3% プラ：保留	紙：削減量1.55(t/年) 削減率22.3% プラ：保留	紙：削減量1.56(t/年) 削減率22% プラ：保留	○	紙の使用をゼロにする プラスチック利用の削減

2025年度の実績と今後の方針

マテリアルリサイクルの推進

再資源化の効率を追求するなかで、当社は製品（リサイクル燃料等）の品質向上に向けた技術革新を継続しています。特に「返品件数の削減」は、輸送エネルギーのロスを減らすだけでなく、受け入れた廃棄物を確実にマテリアルリサイクルへ繋げるための重要な指標と捉えています。供給先とのマッチング精度を高め、仕様不適合による返品を最小限に抑えることで、資源が滞りなく循環する体制を強化しています。今後もリサイクル可能な領域を拡大し、より多くの廃棄物を付加価値の高い資源へと再生することで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。


マテリアルリサイクルの推進

省エネルギーの徹底（電気・ガス・燃料）

当社ではエネルギー使用の削減のため、以下の取り組みを推進しています。

・休憩時間の消灯、ブラインドを上げ太陽光の採光、残業時間削減による電力使用量の削減
・自然エネルギーの活用
・太陽光パネルを使用したＥＶ車両の充電器の導入による、モバイル等の充電
・クールビズ、ウォームビズ実施によるエアコン温度の調整や着衣の調整による

電力使用量削減これらの取り組みによりCO_2排出量を、2020年実績から2030年までに25%削減することを目指します。


フォークリフトのEV化


自然エネルギーの活用


太陽光パネル設置

省資源化（紙・プラ）

・昨年に引き続き、紙使用量の削減推進を実施しています。
・工場の作業前安全チェックリストを紙からタブレットへ移行しました。
・事務作業だけでなく工場も紙の省資源化に取り組んでいます。

プラスチックの削減に関しては、使用済みクリアファイルの再利用や、リサイクルの徹底、マイボトルの推進等実施しています。今後は、社内報や掲示物を活用し削減効果を社内で共有することで、さらなる削減を目指してまいります。


用紙の分別

サーマルリサイクル

ボイラーガス利用の削減を目指しておりますが、2025年度はガスの使用量が2024年度に比べて減少しました。今後も、焼却炉定修修繕期間の短縮や、耐火材を変えるなど実証実験を行い、さらなる技術革新を推進し、サーマルリサイクルに貢献してまいります。


再資源化の向上


株式会社ニッペコ 代表取締役社長
日本グリース協会 会長

山口 芳基 様

Third Party

㈱ニッペコは1933年（昭和8年）に創業し、今年で93年を迎えるグリースの総合メーカーです。鉄鋼設備、産業機械、自動車部品、精密機器など多様な分野に高性能なグリースを提供し、国内屈指のグリースメーカーとして確固たる地位を築いています。長年の研究開発に支えられた独自の処方技術により、高性能製品を開発・製造し、あらゆる環境下でも安定した性能を発揮しています。当社のグリースは、機械の摩擦を低減しエネルギー効率を向上させることでCO_2排出削減に寄与しています。また、メンテナンスコストの削減や資源の有効活用も支援し、産業分野における持続可能な成長と環境負荷の軽減を促進しています。これらの取り組みはSDGs（持続可能な開発目標）達成にも大きく貢献しています。
また、環境保全にも積極的に取り組んでおり、産業廃棄物処理では貴社と適正かつ継続的な取引を行っています。主に廃棄グリースや廃棄溶剤の定期的な回収を依頼しており、法令遵守や厳格な管理はもちろん、環境への配慮や継続的な改善活動にも積極的に取り組まれているため、安心して廃棄物処理をお任せできています。さらに、貴社は廃棄物のリサイクルや再利用を推進し、環境負荷を最小限に抑える循環型社会の実現にも貢献しており、当社もその取り組みに共感しています。こうした姿勢は当社に良い影響を与え、信頼できるパートナーとして関係をより一層強固なものとしています。
このような信頼関係を背景に、当社のSDGs推進プロジェクトの一環として、貴社のご協力のもと『SDGsカードゲーム』を実施。社員一人ひとりがSDGsの意義を深く理解し、持続可能な社会づくりに向けた具体的な行動につなげるための学びを深めています。おかげさまで社員の環境意識や社会的責任感は大きく向上し、日々の業務の中でもSDGsの視点を取り入れた取り組みが自然と広がっています。その結果、職場全体の連携強化や新たな改善提案が活発化し、持続可能な企業活動の実現に向けて着実に歩みを進めています。また、貴社の環境保全や持続可能な社会づくりに対する取り組みを参考に、当社ホームページに『サステナビリティ』ページを新設いたしました。今後も貴社の模範となる姿勢を学びながら、さらなる環境保全活動の充実を図ってまいります。
『潤滑の技術で未来を支える』という企業理念のもと、当社は今後も革新的なグリース製品の開発と普及に努めるとともに、環境保全と社会的責任の遂行を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。


営業本部 本部長

茂家 貴志

Xible's Voice

私たちは、廃棄物を「不要なもの」ではなく、「新たな価値を生み出す資源」と捉えています。営業本部の役割は、単に廃棄物の処理方法をご提案することではありません。お客様との日々の対話を通じて社会のニーズや環境課題を捉え、資源循環の価値を共有し、ともに持続可能な社会の実現を目指すことが使命です。
近年、お客様からは適正処理に加え、資源循環や脱炭素など環境経営に関するご相談が増えています。当社では、再生燃料の開発・改良を重ね、品質と付加価値を高めてきました。その成果の一つがJ-クレジットの創出です。廃棄物に新たな環境価値を生み出し、お客様の脱炭素経営にも貢献しています。また、培ってきた技術力を生かし、環境コンサルティングの視点から最適なご提案を行えることも当社の強みです。
こうした価値は営業だけで実現できるものではありません。工場では「一つでも多くの廃棄物を資源へ」という想いのもと技術や品質の向上に努め、ドライバーは安全・確実な運搬で資源循環を支えています。管理部門を含め、すべての社員がそれぞれの役割を果たすことで、お客様へ安心と信頼をお届けしています。
営業本部では若手社員も数多く活躍しています。若手とベテランが互いに学び合い、提案力を高めるとともに、「限りある資源を大切に」するという想いを次の世代へ受け継いでいます。
資源循環は一人の力では成し遂げられません。これからも全社員が一丸となって人間力、技術力、創造力を磨き、新たな価値を創造しながら、循環型社会の実現に貢献してまいります。

戦略的重要課題
[2]地球環境をクリーンに

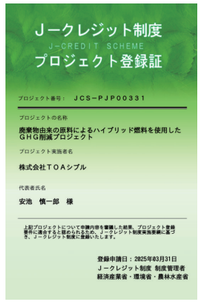
脱炭素社会の実現に向けた取り組み

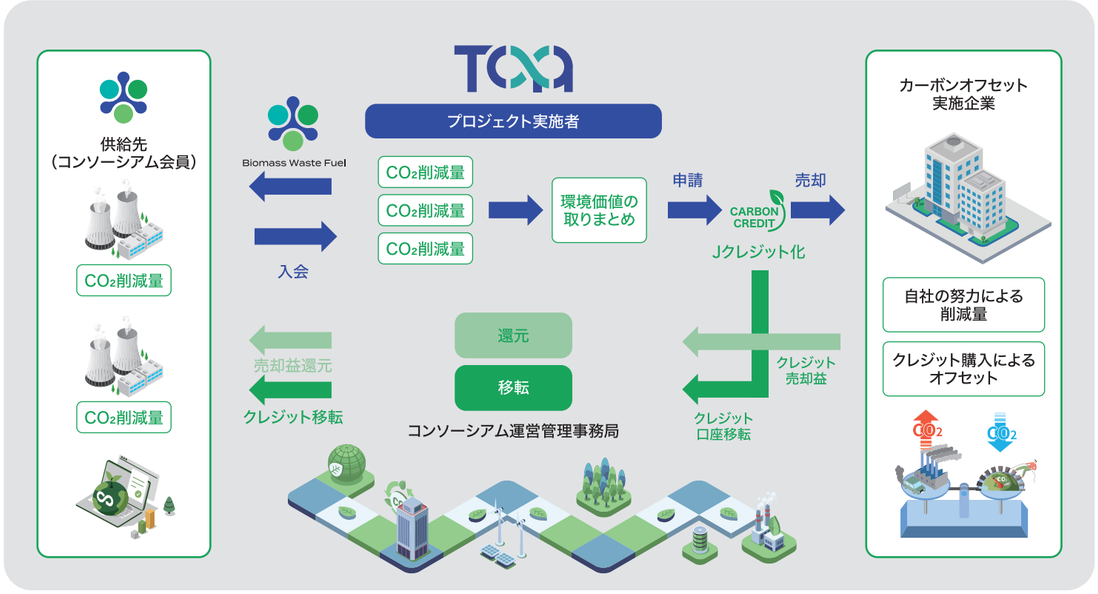
J-クレジット制度とは

J-クレジット制度は、省エネルギーや再生可能エネルギーの利用などによるCO_2排出削減量を「環境価値」として国が認証する制度です。認証されたクレジットは、企業の脱炭素経営やカーボン・オフセットなどに活用され、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた重要な仕組みとなっています。当社では、この制度を活用し、脱炭素社会の実現に貢献するとともに、循環型社会の形成に向けた取り組みを推進しています。

廃棄物由来燃料の利用を通じ、化石燃料や系統電力の使用を抑え、温室効果ガスの排出削減に貢献

当社のJ-クレジットプロジェクトは、国内初のプログラム型プロジェクトとして登録され、J-クレジット方法論「EN-S-019」を採用しています。お客様にもご参加いただける仕組みにより、CO_2排出削減の環境価値を創出するとともに、省エネ法の定期報告における非化石エネルギー使用割合の報告にも活用できるなど、脱炭素社会の実現を支える取り組みとして推進しています。



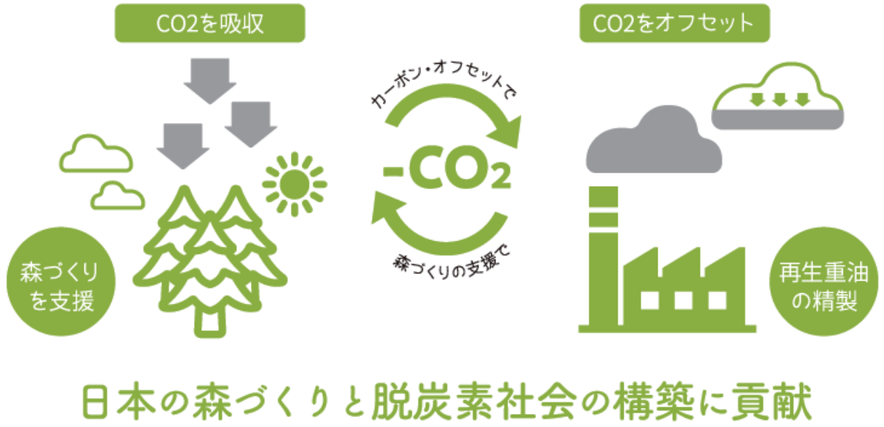


「再エネ100宣言 RE Action」に参加　再生可能エネルギー100%を目指して

当社は、企業・自治体・教育機関などが参加する「再エネ100宣言 RE Action」に参加しました。RE Actionは、事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーへ転換することを目指す取り組みです。
脱炭素社会の実現に向けて、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの活用を進めるとともに、事業活動を通じた環境負荷の低減に継続して取り組んでまいります。

廃油リサイクルから、未来の森へ

当社代表が理事長を務める全国オイルリサイクル協同組合では、「森とアースへのECO-プロジェクト」を展開しています。廃油のリサイクルを通じて日本各地の森林保全や地球温暖化防止活動を支援する取り組みであり、「資源を循環させることが、未来の自然を守ることにつながる」という考えのもと活動を続けています。



TOAシブルでは、気候変動への対応を重要課題の一つと位置付けています。Scope1・2に加え、Scope3排出量の算定を実施し、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を可視化しました。排出量の把握を起点に、J-クレジット制度の活用や再生可能エネルギーの利用拡大（再エネ100宣言　RE　Action）、さらに森林保全活動「森とアースへのECO-プロジェクト」を通じて、排出量の削減と吸収源の保全の両面から脱炭素社会の実現に貢献しています。

環境汚染のコントロール・脱炭素社会の創造

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシプルの具体的なコミットメント	TOAシプルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度	評価	ありたい姿
3.9/6.3/(6.4)/(6.6) 12.4/(14.3)/(15.2)	大気水質などの影響管理	環境汚染の撲滅	自社基準の運用による法令基準の遵守（法令基準の80%を閾値としてモニタリング）	自社基準値クリア	自社基準値クリア	自社基準値クリア	○	継続
3.9/12.4/13.1 (14.3)/(15.2)	エコドライブの推進	社用車（営業・業務）のCO_2削減	n/a	EV1台 PHEV3台導入 低公害車1台導入	EV0台 PHEV0台導入	HV4台 PHEV0台導入	×	営業車：ガソリンエンジン車両0台 運輸車：低公害車100%
7.2	再エネ100宣言に挑戦	再エネ使用	再エネ使用	100%（内自社での太陽光発電8% 7.2%削減）	100%（内自社での太陽光発電8% 21.6%削減）	100%（内自社での太陽光発電6% 21.4%削減）	○	再エネ電力利用：100%
3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	SCOPE1における二酸化炭素削減に寄与する取り組み推進	CO_2排出量	CO_2排出量	10,275 (t-CO_2/年)	13,461 (t-CO_2/年)	13,429 (t-CO_2/年)	×	焼却による自社排出CO_2：42%削減
3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	SCOPE2における二酸化炭素削減に寄与する取り組み推進	CO_2排出量	CO_2排出量	0t-CO_2/年（ロケーション基準 684t-CO_2/年）	0t-CO_2/年（ロケーション基準 1,003t-CO_2/年）	0t-CO_2/年（ロケーション基準 942t-CO_2/年）	○	電力使用による自社排出CO_2：42%削減
3.9/12.4 13.1/(14.3)/(15.2)	リサイクル燃料の供給に寄与	CO_2削減量（BWF・ROF・MOFを石炭・石油代替燃料としてカウント）	CO_2排出量	113,650 (t-CO_2/年)	117,797 (t-CO_2/年)	106,897 (t-CO_2/年)	×	2025年度 133,300(t-CO_2)削減

2025年度の実績と今後の方針

当社は、持続可能な事業活動の基盤として、大気への排出および排水の管理を最重要課題の一つと捉えています。法令で定められた基準を遵守するにとどまらず、法令基準の80%値を「自社管理基準」として設定。より厳格な監視体制を敷くことで、環境リスクの未然防止に努めています。管理体制においては、専門部署による定期的な測定に加え、工場部門長と業務管理課によるダブルチェック体制を構築。データの客観性と信頼性を担保し、徹底したコントロールを行っています。2025年度においても、すべての分析項目で自社基準をクリアしており、周辺環境に影響を与えることなく操業いたしました。今後も、継続的な監視と測定を通じて、地域社会の皆さまが安心できる環境保全に取り組んでまいります。

環境汚染のコントロール

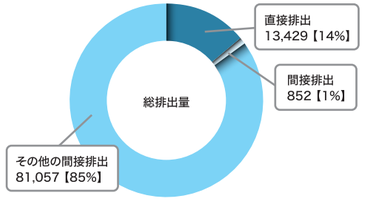
(例)焼却炉(煤煙測定および排ガス中のダイオキシン類)

項目	実施頻度	数値	自社基準値	排出基準値
ばいじん(g/㎥N)	年2回	0.004未満	0.20	0.25
硫黄酸化物排出量(㎥N/h)	年2回	0.31	7.38	9.22
窒素酸化物(ppm)	年2回	54	200	250
塩化水素(mg/㎥N)	年2回	75	560	700
CO(ppm)	年2回	20	—	—
ダイオキシン類(ng-TEQ/㎥N)	年1回	0.0028	2.4	3.0
水銀(μg/㎥)	年2回	0.04	40	50

※2026/3/19までの測定値※各測定項目の数値は分析測定会社に測定してもらった結果を開示しています。※数値は直近に計測したものです。尚、測定機会2回とも基準値に対して「適合」を得ています。※焼却炉のスペックによって、基準値が異なっていますが既存の焼却炉、新規焼却炉ともに「適合」を得ています。

温室効果ガス排出量(Scope1・2・3)

サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を算定し、排出実態の把握と削減に向けた取り組みを進めています。



Scope
①直接排出
②間接排出
③その他の間接排出

Scope1 燃料使用
Scope2 購入電力
Scope3 原料調達・輸送など

Scope	排出量	構成比
1)直接排出	13,429	14%
2)間接排出	852	1%
3)その他の間接排出	81,057	85%
総計	95,338	100%

Scope 3の算定に着手

これまでScope 1・2を中心に温室効果ガス排出量の把握に取り組んできましたが、今年度より、サプライチェーン全体における温室効果ガス排出量(Scope 3)の算定にも着手しました。自社の事業活動だけでなく、原材料の調達や輸送、従業員の移動、廃棄物処理など、事業活動に関わるさまざまな排出量を把握することで、排出源をより広い視点から捉え、今後の効果的な削減施策につなげていきます。

脱炭素社会の創造

当社は、循環型社会の実現と脱炭素社会の構築に向け、廃棄物由来のリサイクル燃料の供給を事業の柱として推進しています。各燃料の導入は、従来の化石燃料と比較して確実なCO_2排出削減効果をもたらします。具体的には、再生重油の導入によりA重油比で4%、C重油比で15%の削減を、またBWFおよびエマルジョン燃料を石炭の代替として使用することで、それぞれ18%、21%の削減を実現しています。加えて、また焼却炉では化石燃料由来の焼却燃料を使用しないため、CO_2の排出削減に大きく寄与しています。2025年度の実績として、これらのリサイクル燃料（再生重油、BWF、エマルジョン燃料）による化石燃料代替効果は、年間106,897t-CO_2の削減に相当します。今後もリサイクル燃料の出荷拡大を通じて、お客様の環境経営を支援するとともに、地球環境への負荷低減に邁進してまいります。

※環境省CO_2排出係数対比による



再生燃料の供給

CO_2年間削減量 ※2020年度固有値との差で算出

エリア	処理工程	算定対象範囲		単位	2020年度	2023年度	2024年度	2025年度	2020年度固有値 (t-CO_2/1000t)	2023年度固有値 (t-CO_2/1000t)	2024年度固有値 (t-CO_2/1000t)	2025年度固有値 (t-CO_2/1000t)	年間削減量 (t-CO_2)
千葉工場	油水分離	電力使用量		(MWh)	957	0	0	0					
				(t-CO_2)	483	0	0	0					
		天然ガス使用量		(㎥)	26,381	32,474	16,479	13,243	37	5	2	2	35
				(t-CO_2)	59	64	32	27					
		処理量		(t)	14,651	13,506	13,100	12,539					
	混合	電力使用		(MWh)	0	0	0	0					
				(t-CO_2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		処理量		(t)	0	5,303	7,172	6,735					
	セメント固化	電力使用量		(MWh)	311	0	0	0					
				(t-CO_2)	157	0	0	0					
		軽油使用量		(kL)	63	70	75	71	19	9	10	11	8
				(t-CO_2)	162	184	196	187					
		処理量		(t)	16,641	20,023	19,371	16,313					
	焼却（非エネルギー起源除く）	電力使用量		(MWh)	319	0	0	0					
				(t-CO_2)	161	0	0	0					
		仕入燃料使用量		(t)	1,081	1,126	2,097	2,232	273	327	539	588	(315)
				(t-CO_2)	2,843	2,974	5,535	5,892					
		処理量		(t)	10,996	9,101	10,266	10,027					
	廃油の焼却（非エネルギー起源含む）	エネルギー起源							273	327	539	588	
		非エネルギー起源CO2	2.93		1	1	1	1	2,920	2,930	2,930	2,930	
		非エネルギー起源CH4	0.0000040		25	28	28	28	0.014	0.112	0.112	0.112	
		非エネルギー起源N2O	0.000062		298	265	265	265	2,920	16,430	16,430	16,430	
		合計							3,196.1	3,273.3	3,485.8	3,534.0	
	廃プラスチックの焼却（非エネルギー起源含む）	エネルギー起源							273	327	539	588	
		非エネルギー起源CO2	2.56		1	1	1	1	2,550	2,560	2,560	2,560	
		非エネルギー起源CH4	0.0000080		25	28	28	28	0.000	0.224	0.224	0.244	
		非エネルギー起源N2O	0.000015		298	265	265	265	50,660	3,975	3,975	3,975	
		合計							2,873.8	2,890.9	3,103.4	3,152.0	
	破砕	処理量		(t)	0	0	0	0					
				(t-CO_2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広域	収集運搬	軽油使用量		(kL)	240	223	211	202					
				(t-CO_2)	620	585	552	529	0.18	0.18	0.17	0.19	0
		輸送距離		(km)	1,314,678	1,248,524	1,206,076	1,071,675					

エネルギー消費量（燃料）

開示事項		単位	2023年度	2024年度	2025年度
非再生可能エネルギー源に由来する総燃料消費量	ガソリン	ℓ	21,550	19,851	17,907
	軽油	ℓ	293,476	285,342	272,989
	都市ガス	㎥	32,474	16,479	13,243
エネルギー原単位（廃棄物処理1tあたりのエネルギー使用量）	ガソリン	ℓ/t	0.45	0.40	0.39
	軽油	ℓ/t	6.12	5.72	5.98
	都市ガス	㎥/t	0.68	0.33	0.29
エネルギー総消費量（発熱量ベース）		GJ	13,264	12,182	11,505

エネルギー消費量（電気）

開示事項		単位	2023年度	2024年度	2025年度
電気消費量		kWh	1,738,023	1,602,457	1,736,678
発電量	太陽光発電	kWh	148,434	139,309	102,466
エネルギー原単位（廃棄物処理1tあたりの電力使用量）		kWh/t	36.26	32.11	38.07

GHG排出量

開示事項	単位	2023年度	2024年度	2025年度
GHG Scope1総量（①+②）+GHG Scope2（マーケット基準）総量	t-CO_2	10,275	13,461	13,429
GHG Scope1総量（①+②）+GHG Scope2（ロケーション基準）総量	t-CO_2	11,030	14,163	14,164
①購入した燃料の燃焼に伴うGHG排出量	t-CO_2	3,855	6,362	6,676
②非エネルギー起源GHG排出量	t-CO_2	6,420	7,099	6,754
GHG Scope2総量		マーケット基準		
	t-CO_2	0	0	0
		ロケーション基準		
	t-CO_2	754	702	735
CO_2原単位排出量（廃棄物処理量1tあたりの二酸化炭素排出量）GHG Scope2（マーケット基準）	t-CO_2/t	0	0	0
CO_2原単位排出量（廃棄物処理量1tあたりの二酸化炭素排出量）GHG Scope2（ロケーション基準）	t-CO_2/t	0.016	0.014	0.016

※算定範囲は株式会社TOAシブルの全事業拠点としています。
※GJ=ギガジュール
※ジュールの換算出典：環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」
※排出係数の出典：環境省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」
※原単位排出量（処理量あたりの排出量及び売上あたりの排出量）はすべて株式会社TOAシブル全体の数値となっています。
※過年度の掲載数値を再計算し一部修正しています。

水資源の管理（保護・保全）・生物多様性への貢献

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度	評価	ありたい姿
15.1	水資源の保全	水資源の有効利用	使用量	25,686㎥	20,857㎥	17,558㎥	○	使用量削減
	生態系の保全	保全活動	実施件数	計画中	1件	3件	○	2030年までに自然共生サイト登録

2025年度の実績と今後の方針

自社車両やお客様車両（ダンパー車・アームロール車など）の洗浄に多くの水を使用しているため、水使用量の把握・管理に努めるとともに、節水意識の向上を図っています。
また、事業活動で発生する排水については、法令や自主基準を遵守し、適切な処理を実施しています。定期的な排水の水質モニタリングや設備の点検・維持管理を継続し、周辺環境への影響を未然に防ぐ体制を整えています。
今後は、車両洗浄方法の見直しや節水設備の活用を進めるとともに、水使用量の継続的なモニタリングを実施し、さらなる使用量の削減に取り組みます。また、雨水の有効活用についても検討を進め、車両洗浄や散水などへの利用可能性を検証することで、水資源の循環利用を推進してまいります。
あわせて、排水設備の適切な維持管理や定期的な水質モニタリングを継続し、法令を遵守した適正な排水管理を徹底することで、地域の水環境保全に努めてまいります。

データ元	単位	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計
2023年水消費量	㎥	2,351	2,648	3,010	2,058	2,861	2,611	2,222	2,596	1,017	457	1,772	2,083	25,686
2024年水消費量	㎥	2,489	1,799	2,283	2,716	2,115	1,419	1,817	1,501	1,036	1,146	1,137	1,399	20,857
2025年水消費量	㎥	1,217	1,309	1,437	1,541	1,511	1,817	1,004	1,683	1,246	1,549	1,413	1,831	17,558



2030年までに自然共生サイト登録

自然と人がつながるフィールド「シブルの丘」

TOAシブルでは、「自然と共に生きる未来を創造する」というVISIONのもと、本社敷地内に自然共生フィールド「シブルの丘」を整備しています。
　シブルの丘は、生物多様性の保全、環境教育、地域交流を実践する拠点です。ビオトープや在来植物、蜜源植物の植栽、ミツバチの養蜂などを通じて、多様な生きものが暮らせる環境づくりを進めています。
　また、「体験の機会の場」として認定されたフィールドとして、学校や企業、地域の皆さまへ環境学習の機会を提供し、人と自然が共に育つ場を目指しています。

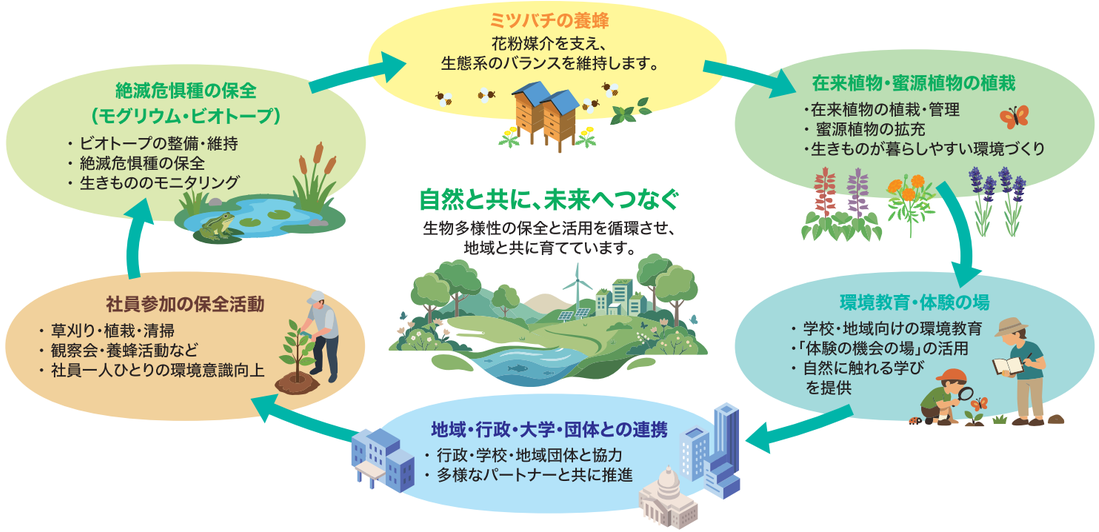


地域の豊かな自然環境を次世代へつなぐため、八千代市が整備する「ほたるの里」の環境整備活動に参加しています。

「ほたるの里」は、ホタルをはじめとするさまざまな生きものが生息する貴重な自然環境です。活動では、草刈りや清掃などの環境整備を行い、生きものが暮らしやすい環境を守るとともに、地域の皆さまが自然に親しめる場づくりに取り組んでいます。







ネイチャーポジティブの実現　資源循環事業と自然共生を両立させ、地域の豊かな自然を未来につなぎます。

養蜂プロジェクト

～ミツバチとともに考える、自然と資源の循環～

当社は、本業を通じて資源循環に取り組む一方、シブルの丘でミツバチの養蜂を通じて自然環境への理解を深め、生物多様性の保全や環境教育、地域とのつながりを育む活動を行っています。ミツバチは、農作物や野生植物の受粉を支える重要な存在です。ミツバチが元気に暮らせる環境は、多様な生きものが生息できる豊かな環境にもつながります。資源を循環させることと、自然や生態系の循環を守ることは、決して切り離して考えることはできません。養蜂活動を通じて自然と向き合うことは、社員一人ひとりが生物多様性や環境とのつながりを学び、本業で取り組む資源循環への理解を深める機会にもなっています。
さらに、採蜜やはちみつの販売、地域イベントへの参加を通じて、社員と地域の皆さまとの対話も生まれています。







千葉大学環境健康フィールド科学センター三輪正幸助教の養蜂に関する技術指導のもと、社員自らがセイヨウミツバチを飼育しています。

養蜂プロジェクトメンバーの声



サステナビリティ推進室
成田　光

養蜂活動を通じて、環境の「今」を知る

当社では、社員が中心となり三輪正幸助教の細やかなご指導のもと、セイヨウミツバチを育てています。はちみつは、ミツバチが活動する地域の環境によって、味や香りに違いが生まれます。また、近年では気候変動などの影響により、日本全体ではちみつの採蜜量が減少するなど、ミツバチは私たちに環境の「今」を教えてくれる存在でもあり、日々ミツバチから学ぶものが多くあります。

また、八千代市の自然の恵みから生まれた「純粋はちみつ」の販売をきっかけに、市内のイベントへの出店など、新たな地域とのつながりも生まれています。はちみつを通じた会話や交流は、当社の取り組みや自然環境について知っていただく機会にもなっています。

これからも養蜂活動を通じて自然と向き合い、地域の皆さまとの対話を大切にしながら、人と自然がともに豊かに暮らせる未来につながる活動を続けてまいります。



純粋はちみつ「XIBLE HONEY」八千代市内にて販売開始

純粋はちみつ「XIBLE HONEY（シブルハニー）」（150g）を八千代市内にて販売開始いたしました。
八千代市周辺に咲く花々とミツバチが紡いだ、国産・農薬残留分析済・加熱処理や添加物を一切加えない純粋はちみつを販売しています。

地域との対話 2025年度トピック

また、八千代市内のイベントへの出展や地域のお祭りでのワークショップ、献血活動への協賛などを通じて、はちみつの試食・配布やミツバチに関するお話を行っています。こうした活動をきっかけに、地域の皆さまと直接対話する機会が生まれ、養蜂や生物多様性への理解を深めていただくとともに、当社が本業として取り組む資源循環についても知っていただく機会が広がっています。



八千代どーんと祭にて当社事業紹介やはちみつのお渡し



八千代市源右衛門祭にて当社の事業にまつわるワークショップやはちみつの試食会



八千代市内のイオンで献血活動への協賛をし、献血を受けられた方々に当社社員がはちみつをお渡し



絶滅した水草を、もう一度印旛沼へ



「モグリウムとは？」

沼の環境変化により一度は姿を消した「モグ（水草）」を再生するための取り組みです。印旛沼の泥の中に眠る「埋土種子（長い年月を経ても発芽する種子）」を採取し、他の種子と混ざらないよう管理した特別な水槽で発芽・育成しています。現在は4種の希少な水生植物の保全・増殖に取り組んでいます。

当社は新川流域に事業所を構える企業として、その先に広がる印旛沼の環境保全は自社とも深く関わる重要なテーマと考えています。かつて豊かな自然を育んだ印旛沼では、水質悪化などの影響により多くの水草が失われました。私たちは、失われた水草を再生することが、生態系の回復や水環境の改善につながると考え、この活動を推進しています。

Column

水草は「沼の森」

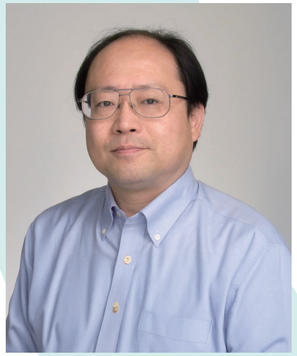
水草は魚の産卵場所になり、プランクトンを育み、水を浄化し、 多くの命を支えています。だから水草がなくなると、沼全体の生態系が弱ってしまいます。



一杯のお茶から始まるSDGs。SUSTEAの導入



サステナブルなお茶「SUSTEA」（サスティー）を導入しました。SUSTEAは、Blue Farm株式会社が提供するCO_2や耕作放棄地の削減や環境保全をめざした飲料サービスです。当社は緑豊かな明日を創るため、限りある資源を大切にし、地球環境への負荷削減をめざし、取り組みを推進しています。その一環としてプラゴミの削減やCO_2排出の低減を実現するSUSTEAを導入しました。



特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所
主席研究員（工学博士）

松原 弘直様

Third Party

「自然と共に生きる未来を創造する」というビジョンのもと、75年を超える資源循環の歴史を礎に、サステナビリティ経営を強力に推進している姿勢を高く評価します。

自社の温室効果ガス（GHG）排出量をスコープ1、2、3に整理し、領域ごとに特色ある脱炭素化を展開しており、スコープ1ではリサイクルに伴う熱需要増大という環境産業特有の課題に対しキルン改修による燃料原単位引き下げやプロセス全体の省エネ化に挑む姿勢が評価でき、スコープ2では屋上太陽光の設置に加えて再エネ電力100%導入によりマーケット基準での排出量「ゼロ」を達成している点が先駆的で、再エネ100宣言RE Actionでの取り組みや将来的な「再エネ自給自足」を掲げるロードマップは地域の模範となります。また、スコープ3では物流子会社の統合による輸送効率化や、独自の廃棄物由来燃料（BWF®等）が国内初のJ-クレジット新規方法論として承認されたことはサプライチェーン全体の脱炭素化を促すモデルとして極めて重要です。

さらに、2024年に「ネイチャーポジティブ宣言」を掲げ、自然資本の回復へ踏み出している点は非常に先進的であり、千葉大学との産学連携による都市養蜂「XIBLE HONEY」ではミツバチを工場の安全性を語る生きた指標（バイオマーカー）として機能させ、手作業で整備した「シプルの丘」が千葉県の「体験の機会の場」に民間一般法人として初認定されたことも特筆に値します。「印旛沼モグリウム」での在来植物保全や「ほたるの里づくり」など、水系保全と環境教育を体験プログラムに昇華し、地域共生の循環モデルを体現している点も客観的に高く評価できます。

今後は再エネ100%に向けた自家消費太陽光の拡大や熱利用技術の深化に期待するとともに、これらの先進知見を環境コンサルティング事業等を通じて社会に広く普及し、脱炭素と自然共生を牽引するトップランナーであり続けることを期待しております。



生産本部　事業開発室
係長

中条 拓也

Xible's Voice

現代社会において、当社が目指す真の「クリーン」とは、単なる美化ではなく、廃棄物を次の循環への資源と捉え直す、負を生み出さない仕組みの構築です。この実現に向け、当社はこれまでの常識を疑う水平思考を原動力に、一方通行型の経済モデルからの転換を図っています。その核心となるのが、産業廃棄物を高品質な代替燃料へと昇華させる「技術への意志」です。

木材や樹脂、油分といった異なる出自の素材を分子レベルで分析・精密配合し、化石燃料に匹敵するリサイクル固形燃料の開発を目指し、数ppm単位での厳格な品質管理により、環境負荷を最小限に抑えることを目指します。

さらに当社は、複雑化する環境規制やCO_2排出量計算の厳格化を事業のブレーキとは捉えません。

ルールを、自らの技術を次のステージへと押し上げるイノベーションの羅針盤と捉え直し、規制を遥かに超越するプロセスを構築しています。

現場発の知恵と厳しい社会規範をクリエイティブな挑戦の場に変えながら、当社は技術の限界に挑み、資源が美しく巡り続ける濁りのない地球を次世代へと引き継いでまいります。

戦略的重要課題
[3]地域社会との共存共栄

共に生きるプロジェクト・社会貢献活動の推進

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度	評価	ありたい姿
11.5	CSRの推進	避難訓練の実施	避難訓練実施回数	年5回	年3回	年5回	○	維持継続
3.3/3.8/17.16		エコキャップ活動によるポリオワクチン活動	ポリオワクチン提供人数	218.5人	189人	166.2人	×	200人
14.1		近隣美化活動	参加人数	103人	109人	127人	○	維持継続
3.4		献血活動	参加人数	124人 ※近隣企業含	121人 ※近隣企業含	155人 ※近隣企業含	○	維持継続
4.7/12.8		SDGs普及活動	実施件数	社外向け9件 社内向け2件	社外向け15件 社内向け3件	社外向け19件 社内向け3件	○	10件
17.16		スポーツ振興支援の実施 支援に関わった団体 スポーツ振興	スポーツ振興支援の実施 支援に関わった団体	ユース支援 開始	学校訪問 パートナー	キャリア体験 プログラム	—	さらなる連携支援
17.16		寄付による 社会課題の解決	寄付活動の実施	継続	継続	継続	—	継続



近隣企業やお取引先からエコキャップを集め、リサイクルによる収益をワクチン支援につなげています。資源の有効活用と社会貢献を通じて、地域とともに未来を支える活動を続けています。



身近な地域の環境を自分たちの手で守る活動を通じて、地域への感謝と環境美化への意識を高めています。

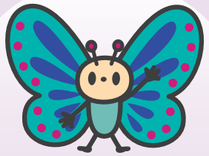

献血
献血
献血

SDGs普及活動の推進

SDGsを「知る」から「行動する」へ

SDGsは、特別なことではなく、私たちの日々の暮らしや仕事の中にあるものです。当社では、環境教育やシブルの丘での体験学習、養蜂活動、地域イベントへの参加などを通じて、SDGsを楽しみながら学べる機会づくりを進めています。「資源を循環させること」「自然を守ること」「地域とつながること」。こうした身近な体験が、一人ひとりの行動につながり、未来を変える力になると考えています。これからも多くの人とともに学び、考え、行動する機会を広げ、持続可能な社会づくりに貢献していきたいです。

「環境を守ることは、小さなことから始められる」そんな想いを伝えるために誕生したのが、当社公式キャラクター「ユーリさん」「シブルん」です。環境教育やイベント、養蜂活動、SNSなどで活躍し、子どもたちに親しみやすい存在として、人と自然をつなぐ役割を担っています。



ユーリさん

特徴 きれいなところが好き
べんきょうかで頼れる存在

由来 幸せの青い蝶「ユリシス」
「自然と人をつなぐ案内役」



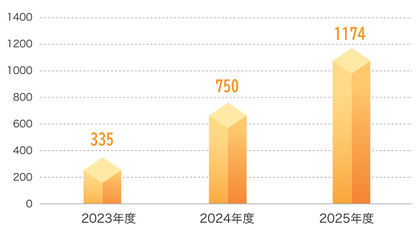
シブルん

特徴 きれいなところが好き
行動力があるはたらきもの

由来 シブルの丘で暮らすセイヨウミツバチ
「現場と地域をつなぐ働き者」













環境授業

環境問題を「自分ごと」として考えてもらう機会を届けています。廃棄物や資源循環、生物多様性など、当社の事業や取り組みを題材に、ゲームや体験を交えながら楽しく学ぶ環境授業を実施。地域や学校と連携し、持続可能な社会を次世代とともに考えています。



出前企業講話

八千代市内の中学校で行われた「やちよ未来プロジェクト」で、企業としての取り組みや仕事を通じて大切にしていることについて講話を行いました。講話後には、生徒の皆さんと「これからの八千代市をどんなまちにしたいか」をテーマに意見を交わし、地域の未来を一緒に考える機会となりました。



中学生職場体験受入

地域の学生を受け入れ職場体験を実施しました。実際の仕事に触れながら、働くことの意義や社会とのつながりを学んでもらう機会として、さまざまな業務を体験していただきました。



「発見たんけん千葉県」への掲載

小中学生のキャリア教育を支援する副教材「発見たんけん千葉県」に、当社を掲載いただきました。廃棄物のリサイクルを通じて資源を循環させる仕事や、環境を守る取り組みを紹介しています。子どもたちが地域の企業や仕事に興味を持ち、未来の社会について考えるきっかけとなることを目指しています。



企業研修登壇

企業向けに、SDGsカードゲームやサステナビリティ研修を実施しました。社会・環境・経済のつながりや、持続可能な社会を実現するために必要な視点を体験的に学び、講話や対話を通して理解を深めました。



生物多様性・SDGs関連セミナーへの登壇

生物多様性やSDGsをテーマとしたセミナーに登壇し、当社の取り組みや、事業活動と環境・社会課題とのつながりについて紹介しました。自社での実践事例を共有するとともに、参加者の皆さまと持続可能な社会の実現に向けた課題や可能性について考える機会を創出しています。

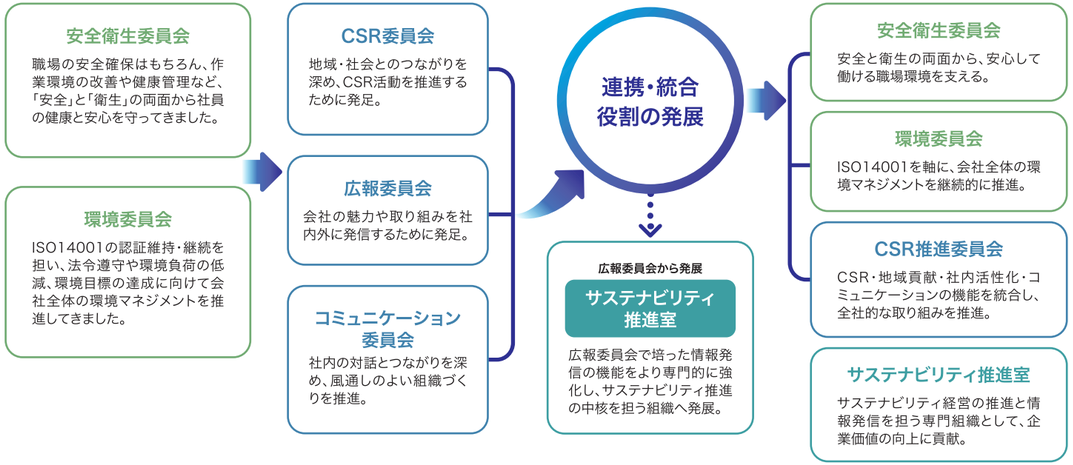
TOAシブルの委員会活動

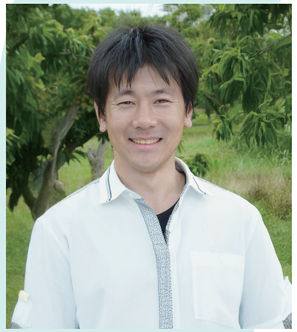
当社には委員会活動があります。これは、会社から与えられた業務ではなく、社員一人ひとりが主体となって会社をより良くしていくための取り組みです。
安全、健康、職場環境、地域社会、そして環境保全。時代とともに活動の幅は広がり、現在ではそれぞれの委員会が連携しながら、TOAグループのサステナビリティ経営を支えています。
来期から、全社員参加型の委員会に深化していきます。これからも社員の挑戦と対話を原動力に、新たな価値を創造し、持続可能な未来の実現に貢献していきます。

委員会活動は、会社の進化そのもの

当社の委員会活動は、委員会制度が整備される以前から活動していた安全衛生委員会と環境委員会を礎として歩んできました。
安全衛生委員会は、労働災害の防止だけでなく、社員の健康管理や快適な職場環境づくりにも取り組み、「安全」と「衛生」の両面から働く環境を支えてきました。
環境委員会は、ISO14001の認証維持・継続を担う中核組織として、法令遵守や環境負荷の低減、環境目標の達成に向けた活動を推進し、会社全体の環境マネジメントを支えてきました。
その後、社会から企業に求められる役割が広がる中で、2020年頃にはCSR委員会、広報委員会、コミュニケーション委員会が発足しました。地域社会とのつながりや企業価値の向上、社内外への情報発信、社員同士のコミュニケーション活性化など、それぞれの目的に応じた活動を展開しました。
各委員会は活動を続ける中で役割を見直し、連携や統合を重ねながら発展してきました。その結果、現在ではCSR・広報・コミュニケーションの機能を融合したCSR推進委員会へと進化しています。また、広報委員会で培われた情報発信の機能は、現在のサステナビリティ推進室へと受け継がれ、サステナビリティ経営の推進と企業価値向上を担う組織へと発展しました。
委員会活動は、時代ごとの経営課題や社会課題に応えながら、その役割や形を変えてきました。しかし、「社員が主体となって会社をより良くする」という想いは変わることなく受け継がれています。これからも委員会活動を通じて、持続可能な企業づくりと地域・社会への貢献を進めていきます。

委員会制度以前からの土台	2020年頃	活動の中で見直し・連携・統合を重ねる	現在の体制
法令遵守と、会社の基盤を支え	社会の変化に対応し、新たな委員会が誕生	それぞれの強みを活かし、役割を見直しながら進化	連携することで、より大きな価値を創出





千葉大学
環境健康フィールド科学センター 助教

三輪 正幸様

Third Party

筆者は千葉大学でミツバチの研究に取り組んでいます。ミツバチは、食料・環境問題といった日本が抱える社会的な課題を解決するためには必要不可欠な存在で、多くの恩恵を我々人間にもたらしてくれます。例えば、道端や畑などに咲いている植物の花の蜜は、自然状態では朽ちて利用されることはありませんが、ミツバチが回収して巣箱に持ち帰ることで、ハチミツという利用価値の高い食料を生み出すことができます。貴社が行っている廃油等の廃棄物回収も同様で、ともすれば邪魔者扱いされてしまう未利用な廃棄物を回収しつつ、手を加えて新たな価値を生み出すことが可能で、資源の乏しい日本にとっては不可欠な業種です。そのため、街角で見かける貴社の紫色の廃油回収車（タンクローリー）が、筆者にとっては季節の花から懸命にハチミツを集めるミツバチの姿に重なって見えます。ミツバチも廃油回収車も、社会からは注目されることが少ないものの、未利用資源に付加価値をつけて有益な商品を作り出すという点で同じなのです。化石燃料供給は依然として不安定な状態で、その価格は高騰したまま収束する目途が立っていません。貴社の事業の価値や評価は、今後益々高まっていくことでしょう。
貴社が行っている養蜂を通じた社会貢献事業(CSR)についても高く評価できます。近年、自社の敷地内でミツバチを飼育して、環境保全や地域貢献、社員教育などに繋げる活動を行う企業が増加しています。貴社でも2025年度から本格的にセイヨウミツバチの飼育を開始し、生物多様性の保全、地域コミュニティの活性化、採れたハチミツの福祉利用、社内コミュニケーションの活性化などに活用されており、筆者も学術指導という形で間近でお支えしています。近隣の小中学生向けの養蜂見学・採蜜体験会の実施や、地域のお祭りでのハチミツ試食会の開催、社員に福利厚生としてハチミツを配布する活動など、多岐に渡る貴社の養蜂関連事業は、全国でもモデルケースになりうる先進的な取り組みといえます。
以上のように、貴社の活動とミツバチはリンクしている部分が多く、「自然と共に生きる未来を創造する」という企業理念についても、ミツバチがシンボルとして介在することで地域社会にとって理解度が高まり、より浸透していくのではないかと筆者は考えます。養蜂とはこうした魅力がある一方で、手間のかかる大変な作業ともいえますが、貴社の養蜂活動がサステナブルな形で実施されることを期待しています。



CSR 推進委員会

浅井真弓・庄田篤史・五十嵐萌



Xible's Voice

テーマ「CSR活動って、誰のためにやるの？」

庄田：最初は「会社のため、社員のため」という意識が強かったですね。近隣清掃や献血なども、まずは「会社として何をするか」に向き合うことから始まりました。ただ、私たちは地域の方の理解あってこそ企業活動ができるという思いがありました。なので、何かあった時だけではなく、普段から地域の方と顔の見える関係をつくることが大切だと考えていました。
浅井：委員会活動が発足して6年でしょうか。地域清掃や挨拶運動など試行錯誤を繰り返しながら一緒にやってきましたよね。そうした活動が少しずつ広がり、今では社内全体のコミュニケーションにもつながっていますよね。
五十嵐：私も昨年から委員会活動に参加しましたが、普段関わることの少ない部署の方と交流できることはこの活動のよいところだと思っています。顔を知っているだけで、仕事でも声をかけやすくなりました。
庄田：五十嵐さんは入社してすぐから参加してくれていますよね。最初は「やらされている」と感じた社員もいたかもしれません。でも、活動を続け、社外から評価していただくことで、「やってきてよかった」と感じられるようになってきたと思います。
五十嵐：お客様から「御社はこういう活動を頑張っていますね」と言っていただく機会もあり、会社への信頼にもつながっていると感じます。歴史のあるこの活動に参加できてとても嬉しいです。
浅井：そう言ってもらえると嬉しいですね。これからは、社内だけでなく、地域や取引先、さらにその先へと活動を広げていきたいですね。
庄田：そうですね。CSR活動は、地域のためだけでも、会社のためだけでもありません。社員一人ひとりが活動の意味を感じ、それを家庭や地域に持ち帰ることで、少しずつ社会全体に広がっていく。そんな循環をつくることが、これからの目標です。
浅井：自分が参加した活動を家族や友人に話したり、身近なところから広げたり。そういう小さな積み重ねが大切なんだと思います。
庄田：地域のため、社員のため、会社のため。そのすべてがつながり、循環していくことが、私たちが目指す「共存共栄」なのかもしれません。

戦略的重要課題
[4]豊かな未来を創る組織の実現

企業が持続的に成長していくためには、「人財」は欠かすことのできない重要な基盤であると考えています。当社では、時代や社会の変化に応じた変革が必要であるとの認識のもと、さまざまな取り組みを進めてまいりました。
今後も、性別や立場に関わらず、すべての従業員が安心して働ける環境づくりと人財育成の両面から、一人ひとりが能力を発揮できる職場づくりを推進してまいります。

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度	評価	ありたい姿
3.4	健康経営	生活習慣病低下	生活習慣病発生件数	0件	0件	0件	○	取り組みの強化
		メンタルヘルス不調休務者数	メンタルヘルス不調休務者数	0人	1人	1人	×	0件を維持
3.4	労働安全衛生	事故怪我の件数低減	度数率・強度率	0件	0件	0件	○	0件を維持
5.1/8.5/8.6/10.3	ダイバーシティ推進	女性管理職の増員（課長以上※役員除く）	管理職における女性の割合	0.0%	13.04%	14.3%	○	5%
		女性社員の増員	女性社員の割合	・営業本部全体 28名 ・女性9名 32.1% ・業務本部2% 環境作りは継続的に実施 ・経営管理本部 50.0%	18%	22%	○	25%

令和7年度「千葉県男女共同参画・多様性社会推進事業所表彰」
男女共同参画部門 奨励賞 受賞





本表彰は男女共同参画の推進や多様性が尊重される社会づくりに積極的に貢献する事業所を対象としたもので、女性の積極採用や仕事と家庭生活の両立支援、誰もが働きやすい職場環境づくりを継続的に進めてきた点が評価されました。

千葉県マスコットキャラクター チーバくん
「ちばダイバーシティ宣言」に賛同しています。

主な取り組み

①女性の積極採用・職域拡大

男性比率の高い製造業において、性別に関わらず能力を発揮できる職場を目指し、女性の積極的な採用を進めています。
工場や運輸部門においても、マニュアル整備や職場環境の改善を行い、女性が安心して働ける体制づくりに取り組んでいます。
また、令和6年度には、当社で採用後キャリアを積み重ねてきた女性の従業員が初めて役員に就任するなど、女性の登用・職域拡大を着実に進めています。

②仕事と家庭生活等との両立支援

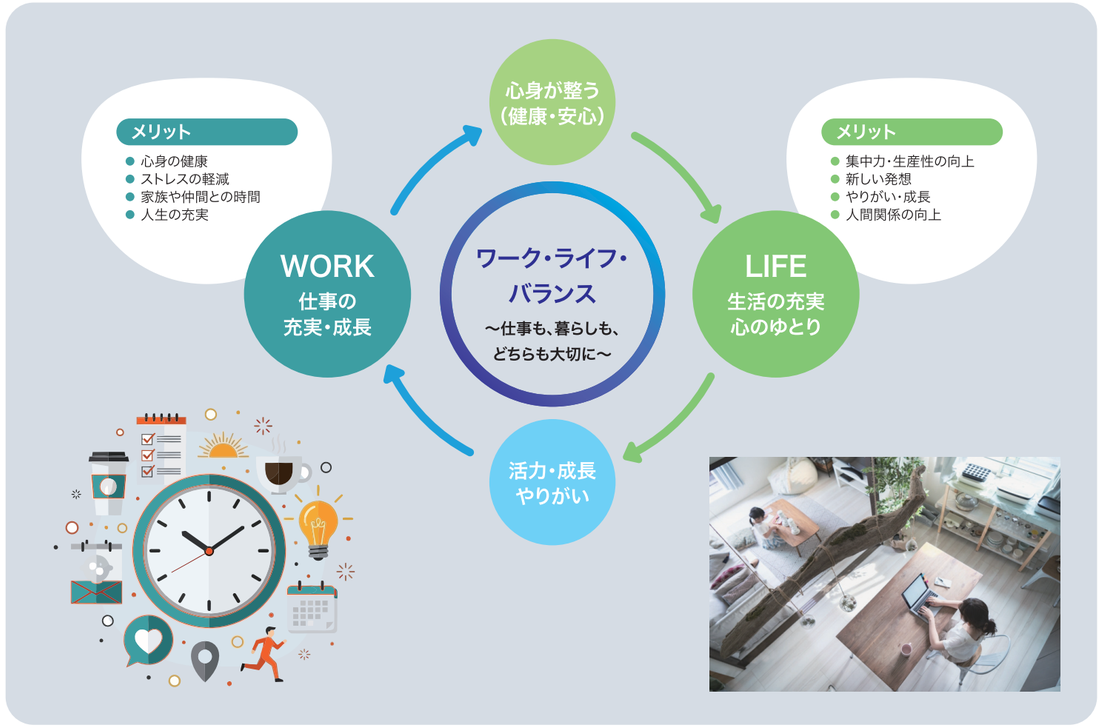
従来は無給扱いとしていた子の看護休暇および介護休暇について、令和6年度から有給化いたしました。
あわせて、時間単位での有給休暇取得を可能とするなど、複数の制度を柔軟に組み合わせて利用できる環境を整備しています。
また、育児休業については、2025年度に男性3名、女性1名が取得しており、仕事と家庭生活等を両立しやすい職場環境づくりを進めています。

③誰もが働きやすい職場環境づくり

委員会を設置し、CSR活動や従業員エンゲージメント向上に向けた取り組みを実施しております。
部署や性別を超えたコミュニケーションの創出を通じて、職場環境の改善だけでなく、従業員一人ひとりが働きがいを感じられる組織づくりを進めています。

ワークライフバランス

より柔軟な勤務制度の導入を通じて、社員が健康を維持し、働きがいを持てる職場環境を整備することを目的とし、以下制度の運用を開始しております。



【取り組み例】

時間外労働の削減①　ノー残業デーの設定

毎週水曜日をノー残業デーに設定し、朝礼や社内放送で啓蒙活動を行っています。仕事の優先順位や段取りを事前に考えるなど、会社で効率的に働くための工夫をする社員が増えています。

時間外労働の削減②　シャットダウンシステムの導入

労働時間の適正化に向け、残業・休日出勤の「事前申請制」を徹底し、上司がメンバーの業務量を適切にコントロールしています。また、パソコンの「自動シャットダウンシステム」も本格導入し、メリハリのある働き方を推進することで、無駄な時間外労働の削減に努めています。

一時間単位の有給休暇取得制度導入

通院や介護、学校行事への参加などにあわせて、より柔軟に休暇を取れるよう時間単位での有給休暇の取得が可能です。

フレックスタイム制の導入

家族の看護等で、定型での終業時間では不都合がある社員を対象に、フレックスタイム制を導入しています。

子の看護等休暇・介護休暇制度

「子の看護等休暇」や「介護休暇」について、当社では社員の生活と家族を守るため、全日「有給」にて取得できる独自の制度を整えています。家族の急な病気や介護に直面した際も、収入減少を心配することなく心から寄り添えるよう、一歩進んだ安心の環境を整備しています。

65歳定年延長

働く意欲に応えるため、従来の60歳定年を65歳へ延長。処遇の不利益なく安心して働くことができる仕組みを整えることで、長年培った技術や知識を次世代へ継承しながら、安心して長く活躍できる体制を築いています。

リモートワークの推奨

自然災害時の安全確保のみならず、移動を減らすことによる業務全体の効率化、そして子育て世帯の両立支援を目的としてリモートワークを推進しています。急な家庭都合にも柔軟に対応できる環境を整えることで、特に育児中の社員を中心に、時間と場所を有効に活用した「持続可能な働き方」が定着しています。

ボランティア休暇の導入

地域・社会貢献活動、自然・環境保護活動、災害復興支援活動などに積極的に参加し、社員の人的成長や実務能力、コミュニケーション力等の向上を推進しています。

完全週休2日(土日祝休み・年間休日124日)の導入

業界に先駆け、土日に加え祝日もすべて休みの「年間休日124日」を確立。一般的なカレンダー通り以上の休日数を確保し、部門間の休日格差も解消することで、全社的に高い水準のワークライフバランスを実現しています。

	2023年度	2024年度	2025年度
①労働者の1ヵ月当たりの所定内労働時間 ※事業所の就業規則で定められた始業時間と終業時間との間の実労働時間数	160.7時間/月	160.7時間/月	160.7時間/月
②労働者の1ヵ月当たりの平均所定外労働時間 ※早出、残業、臨時の呼出、休日出勤等の実労働時間数	36.0時間/月	27.3時間/月	32.4時間/月
③労働者の1ヵ月当たりの実際の労働時間 ①+②ー(有給休暇を消化した時間)	190.6時間/月	181.5時間/月	185.1時間/月
④労働者の1年の実際の労働時間	2288時間/年	2177時間/年	2221時間/年

離職率の低減

当社では、多様な人財や価値観を受容し、それぞれが個々の能力を最大限に発揮できる環境づくりに努めています。具体的なワークライフバランス支援として、定型の就業時刻では不都合のある社員を対象としたフレックスタイム制の導入や、通院・介護・学校行事など個々のライフスタイルに合わせて柔軟に使える「1時間単位の有給休暇取得制度」を整備しています。さらに、性別に関わらず育児休業を積極的に取得し、復職後も仕事と育児を両立できる仕組みを確立。多様なバックグラウンドを持つ人財の採用も強化しており、女性社員の割合も年々増加しています。また、昨年度より本格始動した新卒採用に合わせ、初期キャリアを支える充実した研修制度のさらなる拡充と、若手社員が安心してステップアップできる組織風土の醸成にも注力しています。今後も多様性を尊重し、互いに支え合いながら持続的に成長できる環境を創り続けてまいります。

各段階における仕事と育児の支援制度

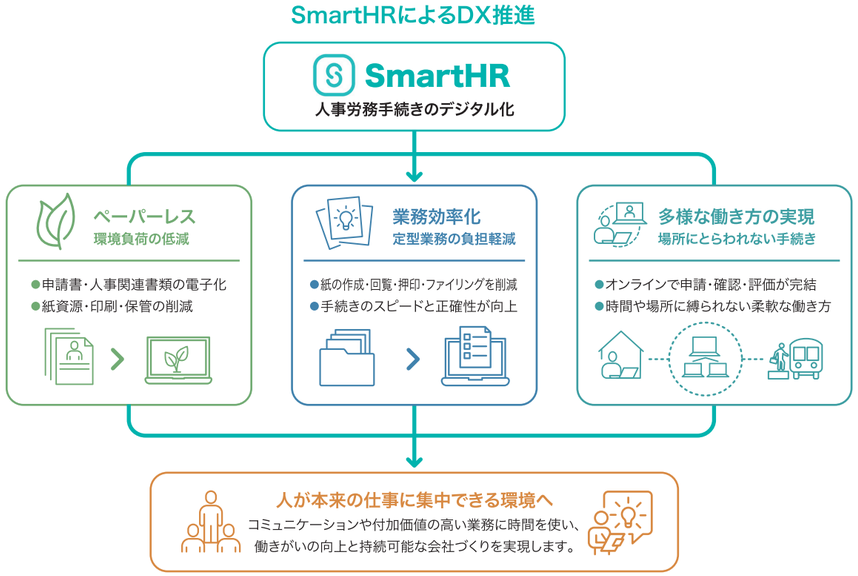
	結婚	妊娠中	出産	育児休業	育児と仕事の両立
勤務制度	結婚休暇	母性健康管理措置 短時間勤務制度 フレックスタイム制度	産前休暇（6週間） 産後休暇（8週間）	育児休業（1歳まで） ※～2歳まで延長可	・フレックスタイム制度　・深夜業の制限 ・時間外労働の制限　・子の看護休暇 等 ・所定外労働の制限
	在宅勤務制度	在宅勤務制度			在宅勤務制度
経済支援		傷病手当金	出産育児一時金	育児休業給付金	
			出産手当金		
			家族手当※扶養者		
			出産祝金		

		単位	2023年度	2024年度	2025年度
育児休業 社内育児・介護働き方制度 利用者数	全体	人	該当なし	5人	4人
	男性	人	該当なし	4人	3人
	女性	人	該当なし	1人	1人
復職率		%	該当なし	100	100

DX化がもたらす『ペーパーレス』と『多様な働き方』の実現

当社は、環境負荷の低減および従業員がより本質的な業務に集中できる環境づくりのため、人事労務プラットフォーム「SmartHR」を導入しました。
入退社手続き、人事評価、各種申請などの一連の手続きをデジタルへ移行したことで、大幅なペーパーレス化（資源保護）を達成するとともに、場所を選ばないスマートな申請・評価プロセスが実現しました。このDX推進を通じて、環境配慮と「働きがいのある労働環境の整備」を同時に進め、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

デジタル化によって、社員が場所にとらわれず必要な手続きを行える環境が整いました。これまで「紙を提出するために出社する」「担当者が書類を確認するまで待つ」といった時間を必要としていた業務も、よりスムーズに進めることができます。
DX化は、単に業務を効率化するためのものではありません。定型的な事務作業に費やしていた時間を、本来注力すべき業務や人とのコミュニケーション、より付加価値の高い仕事に振り向けることで、従業員一人ひとりが能力を発揮しやすい環境づくりにもつながります。
当社は今後も、デジタル技術を活用しながら業務プロセスを見直し、「環境に配慮した業務」と「多様な働き方」を同時に実現していきます。DXを単なる省力化ではなく、働く人の可能性を広げ、持続可能な会社づくりにつなげるための重要な取り組みとして推進してまいります。



人材育成による事業貢献度の向上

当社では、社内外での研修や業務に関わる資格取得支援などを通じて、社員一人ひとりがより活躍できる環境づくりを目指しています。社内では業務に関する講習会や事業活動の理解を深めるための勉強会を定期的に実施しており、社員はキャリア形成を見据えた資格取得にも積極的にチャレンジしています。今後も一貫した教育体制を整え、研修や資格取得の補助制度をさらに充実させることで、人材育成の環境づくりを推進してまいります。


社外セミナー受講

社内・社外研修の活用　資格取得支援

項目	人数
普通自動車第一種免許	14
準中型自動車免許	19
中型自動車免許	44
大型自動車第一種免許	35
大型特殊自動車免許	6
けん引免許	8
普通自動二輪免許	25
大型自動二輪免許	16
二級ガソリン自動車整備士	8
二級ジーゼル自動車整備士	7
フォークリフト運転技能講習	65
玉掛け技能講習	33
小型移動式クレーン運転技能講習	25
床上操作式クレーン運転技能講習	3
車両系建設機械(整地・運搬・積込・掘削)運転技能講習	38
車両系建設機械(解体用)運転技能講習	10
高所作業車運転技能講習	14
はい作業従事者技能講習	5
有機溶剤業務従事者安全衛生教育	8
特定化学物質等作業主任者技能講習	4
地下タンク等に係る定期点検技術者講習	6
アーク溶接等特別教育	25
ガス溶接特別教育	22
自由研削といし特別教育	22
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	50
テールゲートリフター特別教育	29
粉じん作業特別教育	15
振動工具取扱作業者安全衛生教育	1

項目	人数
低圧電気取扱業務特別教育	8
ダイオキシン類業務特別教育	3
酸素欠乏危険作業特別教育	31
足場の組立て等特別教育	3
除染等業務特別教育	3
産業ロボット特別教育	2
シャー作業・紙断裁機特別教育	1
車両系建設機械(解体用)特別教育	1
小型車両系建設機械特別教育	2
クレーン運転特別教育	22
玉掛け作業特別教育	13
はい作業主任者	2
有機溶剤作業主任者	26
特定化学物質等作業主任者	2
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	40
乾燥設備作業主任者	2
特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者	2
鉛作業主任者	1
危険物取扱者甲種	2
危険物取扱者乙種第1類	1
危険物取扱者乙種第2類	1
危険物取扱者乙種第3類	3
危険物取扱者乙種第4類	74
危険物取扱者乙種第5類	3
危険物取扱者乙種第6類	3
危険物取扱者丙種	11
一般毒物劇物取扱者	4
高圧ガス製造保安責任者(丙種化学)	2

項目	人数
高圧ガス販売主任者(第一種販売)	1
第一種電気工事士	1
第二種電気工事士	3
一級ボイラー技士	2
二級ボイラー技士	7
第一級陸上特殊無線技士	1
第二級陸上特殊無線技士	2
第三級陸上特殊無線技士	1
一級電気工事施工管理技士	1
第一種衛生管理者	4
安全管理者選任時研修	7
安全衛生責任者教育	1
職長教育	14
職長・安全衛生責任者教育	11
KYT(危険予知訓練)	1
甲種防火管理者	5
監督者教育	1
防災管理者	1
監理技術者	1
産業廃棄物焼却施設技術管理士	4
産業廃棄物中間処理施設技術管理士	4
環境カウンセラー(市民部門)	1
炭素会計アドバイザー3級	1
産業廃棄物処理検定	6
英国CMI認定サステナビリティ(ESG)プラクティショナー	2
日商簿記検定1級	1
日商簿記検定2級	4
日商簿記検定3級	7



ESJ優良ドライバー検定「ゴールドクラス」を取得

業務本部 業務部 業務課 係長　安永 昌弘

資格取得支援制度を活用し、日本でも取得者がまだ少ないドライバー検定に挑戦しました。学んだことを早速現場で実践し、安全や品質の向上につなげられていることにやりがいを感じています。これからも知識と技術を磨き、より安全で信頼される仕事を目指していきます。



上級救命講習

万が一の緊急時にも適切に対応できる体制を目指し、全社員の上級救命講習修了に向けた取り組みを開始しました。一人ひとりが「命を守る力」を身につけ、安全・安心な職場づくりを推進していきます。

従業員一人当たりの研修受講時間

	2023年度	2024年度	2025年度
※男性	5.5時間	6.4時間	12.5時間
※女性	5.5時間	6.2時間	12.5時間



項目	人数
全商簿記検定1級	2
全商簿記検定2級	1
全経簿記検定2級	1
日商簿記検定・原価計算初級	1
ファイナンシャル・プランニング技能士2級	1
ファイナンシャル・プランニング技能士3級	1
公認会計士	1
行政書士	1
宅地建物取引士	1
社会保険労務士	1
中小企業診断士	1
運行管理者(貨物)	3
運行管理者(旅客)	1
内部監査士認定証	1
MOS Excelエキスパート	3
MOS Excelスペシャリスト	5
MOS Wordエキスパート	2
MOS Wordスペシャリスト	3

項目	人数
MOS PowerPoint	1
MOS Access	2
ITパスポート試験	3
情報セキュリティマネジメント試験	1
基本情報技術者試験	1
応用情報技術者試験	1
システム監査技術者試験	1
CAD利用技術者試験1級	1
P検3級	1
パソコン技術認定試験3級	1
日本語ワープロ検定2級	1
日本語ワープロ検定3級	2
Oracle JAVA SE8 Silver	1
PHP技術者認定初級	1
Python 3 エンジニア認定基礎	1
アジャイルソフトウェア開発技術者検定 Lv1	1
情報処理表計算3級	1
実用英語技能検定2級	3

項目	人数
日本漢字能力検定2級	1
秘書技能検定準1級	1
秘書技能検定2級	5
秘書技能検定3級	1
サービス接遇実務検定2級	2
サービス接遇実務検定3級	1
マナー・プロトコール検定3級	1
証券アナリスト	1
メンタルヘルス・マネジメントⅡ種	1
全国書道検定試験3級	1
硬筆書写技能検定3級	1
調理師免許	1
食品技術管理専門士	1
食育インストラクター	1
食品衛生責任者	2
アシスタント・ブライダル・コーディネーター検定	1
2030 SDGsファシリテーター	2

業務上労働安全衛生、重大事故・災害ゼロ活動

安全衛生委員会が中心となり「安全第一企業を目指す」という考えのもと、安全衛生年間計画を策定しています。工場の定期点検やリスクアセスメント、研修や行事を計画的に実施し、社員一人ひとりが安心して働ける職場環境を整えています。こうした取り組みは事故や災害を防ぐだけでなく、社員の健康意識や主体性を高め、組織全体の力を引き出します。結果として職場の雰囲気が明るくなり、協力し合う文化が育ち、会社全体の持続的発展を支える土台となります。安全衛生活動は、未来に向けてより強い組織を築くための重要な投資です。

安全衛生方針

当社は、安全衛生活動を企業の絶対的責任と捉え、労働災害・事故の防止を企業の存続と発展にとっての最重要課題とする。安全で健康な職場形成に努め、すべての従業員および地域社会の安全と健康を最優先するとともに安全衛生管理を徹底し、「安全第一企業」を目指すことで業界の魅力向上に貢献する。

私たちは、以下の項目を重点テーマとして安全衛生活動を行います。
1.安全衛生に係る関係法令及び自主基準を遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
2.労働災害ゼロを目指し、全従業員参加による安全衛生活動を実施し、より快適な職場作りを推進します。
3.従業員の健康障がいやメンタルヘルスによる健康被害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、健康意識の向上を目指します。
4.従業員とのコミュニケーションを図り、社員教育及び社内広報活動を通じて、安全衛生意識の高揚に努めます。

この安全衛生方針は全従業員に周知するとともに、外部からの要求に応じて公表いたします。

TOAシブル安全衛生管理組織



頻度	該当する部門	具体的な内容
年間	安全衛生委員会	▶前期のマネジメントに関する評価 ▶前期の教訓（マネジメントレビュー）を踏まえた見直し計画の策定 ▶安全衛生に関する教育訓練計画の策定 ▶安全衛生年間計画書の策定
月間	安全衛生委員会	▶ヒヤリハットの抽出、リスクアセスメントの対応 ▶安全パトロール ▶衛生管理者による職場内巡視
	各部署	▶教育訓練の実施 ▶指摘事項に関する具体的な対策の検討および改善の実行
週間	各部署	▶同業他社の事故やケガに関するニュースの共有 ▶安全目標の共有と確認
日間	社員全員	▶安全に留意した事業運営の推進
随時	各部署	▶法令改正に伴う各種要求事項の実施ならびに管理状況等について把握

主なリスクの特定	具体的に対策を強化した内容
火災が発生した際に、迅速に消火させる仕組みが必要であると判断。	実際に火災が起こる事を想定し、定期的に防災訓練、また消防との合同訓練を行い緊急時に備えている。
近年、夏場の気温が高く熱中症のリスクが高くなっていると判断。	熱中症予防として、飲料水や塩分補給できる食べ物を支給し、水分休憩の時間を設けて、熱中症対策を行っている。
飲酒運転による事故のリスクがあると判断。	業務開始前後には必ずアルコールチェッカーによるアルコールチェックを行い、酒気帯びの有無を確認している。
場内作業中に事故や漏洩のリスクがあると判断。	作業ごとに作業内容を確認するチェックリストを用いて、一つずつ安全を確認しながら作業を行い事故や漏洩を防ぐよう努める。


ドライバー研修会



安全宣言


安全パトロール


アルコールチェッカー

安全衛生年間行事予定

重点事項	取り組み項目・行事	目標 年間実行回数等	年間(年度)スケジュール 5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	実施項目	実施上の留意点
年間の安全衛生行事計画	保護具点検整備月間	1	○												各部署内で使用する保護具の整備及び使用期間の確認	使用期限が切れる保護具等は早めの交換、使用期限前でも不具合が見られたものも交換
	全国労働安全及び衛生週間準備期間	2		○			○								社内の安全・衛生大会の各部署ごとの週間計画に基づく活動の作成	安全・衛生に対しての活動準備
	全国労働安全及び衛生週間（1～7日間）	2			○			○							社内の安全・衛生大会の実施 各部署ごとの週間計画に基づく活動の実施	実施することによる作業環境の改善、維持に役立てる
	作業環境測定	2			○						○				作業者の作業環境の粉じん、有機溶媒の測定	実施することによる安全・衛生に対しての意識の高揚
	定期健康診断の実施	1						○							全社員の健康診断による健康管理	健康診断結果より各人の生活改善に役立てる
	交替勤務者の健康診断（夜勤労働者）	2	○						○						不規則勤務体制者の健康管理	早期による健康災害の発見に役立てる
	有機溶剤、特定化学物質	2					○						○		業務に従事する社員の健康管理	早期による健康災害の発見に役立てる
	インフルエンザ予防接種	1						○							インフルエンザの集団感染予防	予防接種による業務支障予防
	メンタルヘルス診断の実施	1						○							全社員の健康診断時にメンタルヘルス診断実施	診断結果より各人のメンタルヘルス改善に役立てる
	セーフティドライバーズ2025参加	1			←			→							千葉県安全運転管理協会主催の無事故・無違反運動	期間中の無事故・無違反を目指す事で意識の向上
	3・ライト運動	1						←	→						運動を通じて夕暮れ時から夜間の交通事故防止	夕暮れの早め点灯・歩行時の反射材等使用・右からの歩行者注意
	八千代消防防火訓練参加	1				○									防火災害時の迅速な対応訓練	実際の火災を想定しての行動確認を図る
	自社防災・防火訓練	1		○			○			○			○		防災・防火災害時の迅速な対応の実施	実際の防災・防火活動を想定して行動確認する
	定期4S・5Sの強化月間	3		○				○				○			社内全体の4S・5Sに対しての意識向上	4S・5Sの実施による改善点の見直し
	全国火災予防運動（春期、秋期）	2							○					○	火災予防運動の参加	乾燥期に起こる火災に対しての認識の向上
	熱中症対策によるスポーツドリンク等の支給	1		←			→								熱中症対策に対しての実施	各人の体調管理を的確に行わせる
	年末年始無災害運動	1								←	→				社内の年末年始の無災害運動の実施	過渡期に対しての体調管理の徹底
	年末年始交通事故防止運動	1								←	→				社内の年末年始の交通事故防止運動の実施	過労、飲酒運転等を行わないよう社員に周知徹底させる
	TOAシブル安全大会	1												○	全社員から安全標語を募集し、優秀作品の発表	全社員への安全に対する意識の向上を図る

主な訓練内容

内部実施
防火・避難訓練
作業手順書を用いた現場における教育訓練
重機作業
プラント作業
車輌ごとの特性の理解・車輌操作マニュアル教育
自主訓練（初期消火、避難、誘導、AED心肺蘇生）

外部実施
安全運転管理者講習
ESJ労働安全衛生研修会
ESJ優良認定ドライバー研修
危険物取扱者保安講習
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習
有機溶剤取扱い作業主任者講習
フォークリフト運転技能講習

※上記以外の訓練についても随時実施しています。


自主訓練の実施

	ポイント	2023年度	2024年度	2025年度
記録対象となる事故やインシデントの件数	件	5	2	7(○2)
労働関連の傷害による死亡者の件数	件	0	0	0
度数率	ポイント	0	0	0
強度率	ポイント	0	0	0
不休災害度数率	ポイント	0	0	8.18
全度数率	ポイント	0	0	8.18

※インシデントとはヒヤリハットやポヤ等の重大な事故につながるケースを指します。
※全社員を数値の対象範囲としています。
※(○数字)は、不休災害の件数、(●数字)は休業1日以上の労働災害を指します。
※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、災害発生の頻度を表したものを指します。尚、労働災害による死傷者数は、休業1日以上又は身体の一部若しくはその機能を失う労働災害による死傷者数を指します。※強度率は、1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものを指します。 ※不休災害度数率は、100万延べ実労働時間当たりの不休災害による傷病者数をもって、不休災害発生の頻度を表したものをいいます。 ※公益社団法人全国産業資源循環連合会安全衛生委員会によると、令和3年度の一般・産業廃棄物処理業の度数率は7.36、強度率 は0.17ポイントです。


消防との合同訓練

安全大会を開催

当社では、社員一人ひとりの安全意識の向上を目的として、年に一度「安全大会」を開催しています。
今年度は、消防署および警察署のご担当者をお招きし、災害時の対応や交通安全に関する講話を実施しました。専門的な知見に触れることで、安全に対する理解を深め、日々の業務における事故・災害の未然防止につなげています。



安全大会

作業環境における健康被害防止

当社は社員の健康被害を防止するための対策、モニタリングを実施しています。作業環境中に有害な物質が存在する場合、それを除去あるいは一定限度までの低減を行います。これらの対策のみでは労働者のばく露を十分に防止できない場合、保護具の支給・着用の義務付け、場内清掃を徹底するとともに、臭気性のある廃棄物を滞留させないなど、業務上管理上での対策にも取り組んでいます。
また、労働安全衛生法にしたがって作業環境測定を定期的に実施して社員の健康被害リスクを確認し、対策を推進しています。

測定場所	項目	頻度	評価	作業員を保護するための取り組み
焼却施設	水銀	年2回	2回とも第一管理区域（適切）	▶環境保護具の支給 ▶環境保護具の着用の義務付け ▶こまめな場内清掃の徹底
焼却施設	ダイオキシン	年1回	第一管理区域（適切）	▶環境保護具の着用の義務付け ▶こまめな場内清掃の徹底
焼却施設、セメント固化施設	粉塵	年2回	2回とも第一管理区域（適切）	▶マスクの着用 ▶破砕機の散水による粉塵飛散の抑止 ▶こまめな場内清掃や集塵機活用による粉塵の除去
セメント固化施設、混合施設、分析室	有機溶剤	年2回	第一管理区域（適切）セメント固化施設、混合施設、分析室 第二管理区域（改善の余地あり）BWF出荷ヤード	▶環境保護具の支給 ▶環境保護具の着用の義務付け ▶臭気性のある廃棄物を滞留させないように処理
焼却施設、セメント固化施設、混合施設	臭気	年2回	2回とも第一管理区域（適切）	▶臭気性のある廃棄物を滞留させないように処理

各項目の分析結果は、分析測定会社の測定結果を開示しています。

健康経営
- からだの健康
- こころの健康
- 働きやすい職場

- 定期健康診断・人間ドック受診率100%
- 時間外業務の削減
- 休暇制度の活用促進
- メンタルヘルスチェック
- 適度な運動習慣※社内モルック等
- 特定保健指導※対象者
- 健康器具の設置
- 水素水の導入
- インフルエンザ等予防接種補助

労働関連の疾病・体調不良	
2023年度	0人
2024年度	2人
2025年度	2人

健康経営

「会社は人で成り立つ」という想いのもと、社員の健康を最優先に考えています。福利厚生代行サービスの活用や年1回のストレスチェック、体重計・血圧計などの健康器具設置を行い、日常的な健康管理をサポートしています。さらに、生活習慣病ゼロを目指し、特定保健指導の対象者には専門的な指導を実施しています。来期以降、様々な健康測定会を社内で実施し、社員一人ひとりの健康意識向上に繋げます。社員が心身ともに健やかであることが、会社の力そのものです。今後も健康経営を推進し、活力ある職場づくりに取り組んでまいります。

健康診断の定期実施

全員対象	性別・年齢別		追加検査項目
一般健診 ・診察等 ・問診 ・身体計測 ・血圧測定 ・尿検査 ・便潜血反応検査（検便） ・血液検査 ・心電図検査 ・胸部X線検査 ・胃部X線検査（バリウム）	男性	～39歳	
		40歳～	前立腺がん検査（前立腺がん）
			眼圧検査（緑内障）
			腹部超音波検査
	女性	～39歳	子宮がん検査 ※子宮頸部細胞診
		40歳～	子宮がん検査 ※子宮頸部細胞診
			甲状腺機能検査（甲状腺）
			眼圧検査（緑内障）
			乳がん検査※（乳腺超音波）





ベジチェックで健康づくりをサポート

社員の健康増進を目的に、毎月1回「ベジチェック」を始めました。野菜摂取レベルを手軽に測定することで、自身の食生活を見直すきっかけづくりにつなげています。測定結果を継続的に確認することで、日々の食生活への意識が高まり、健康行動につながっています。



健康経営認定

今年度も健康経営優良法人認定を取得することができました。「健康でなければ、安全な仕事も、質の高いサービスも実現できない」という視点から、健康経営の取り組みをさらに発展。健康診断やストレスチェックといった基本的な施策に加え、健康増進イベントや職場環境の改善、禁煙推進、働き方改革など、多角的な取り組みを進めています。

社員構成

		2023年度	2024年度	2025年度
全社員	合計	114	114	115
	男性	98	93	90
	女性	16	21	25
正社員	合計	106	107	110
	男性	91	87	86
	女性	15	20	24
有期雇用	合計	7	7	5
	男性	6	6	4
	女性	1	1	1
障がい者雇用	合計	1	1	1
	男性	1	1	1
	女性	0	0	0
役職者の人数	合計	20	23	21
	男性	20	20	18
	女性	0	3	3
女性の役職者比率（※課長以上）		0.0%	13.04 %	14.3%
平均年齢（正社員）	合計	40.5	40.0	40
	男性	42	43	43
	女性	39	37	37
勤続年数（正社員）	合計	8	8	8.5
	男性	10	11	11
	女性	6	5	6

社員年代構成

	2024年4月30日時点（人数）						2025年4月30日時点（人数）						2026年4月30日時点（人数）					
	男性		女性		合計		男性		女性		合計		男性		女性		合計	
20代	10	9%	2	2%	12	11%	9	8%	4	4%	13	11%	12	10%	6	5%	18	16%
30代・40代	62	54%	11	10%	73	64%	56	49%	14	12%	70	61%	53	46%	15	13%	68	59%
50代以上	26	23%	3	3%	29	25%	28	25%	3	3%	31	27%	25	22%	4	3%	29	25%
計	98	86%	16	14%	114		93	82%	21	18%	114		90	78%	25	22%	115	

※このデータは基準日を変更したため、2023年度版のTOAサステナビリティレポートの数値と異なります

項目	2023年度		2024年度		2025年度	
男女比	男性 86%	女性 14%	男性 82%	女性 18%	男性 78%	女性 22%
外国人の割合	0%		0%		0%	
障がい者雇用	0.88%		0.88%		0.87%	
役職者のうち八千代市出身の割合	13（65%）		19（83%）		8（38%）	
終身雇用の社員に支給され、有期雇用の社員に支給されない手当	退職金		退職金		退職金	

項目		2023年度		2024年度		2025年度	
離職率	全体	11人	10%	22人	19%	11人	10%
	男性	11人	11%	21人	23%	10人	11%
	女性	0人	0%	1人	5%	1人	4%

採用者内訳

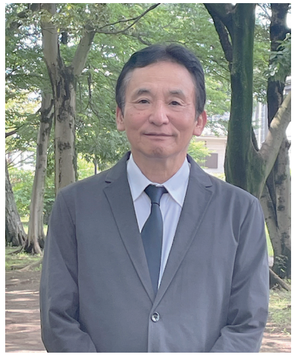
	2023年度						2024年度						2025年度					
	男性		女性		合計		男性		女性		男女合計		男性		女性		男女合計	
20代	1	5%	2	10%	3	14%	5	24%	4	19%	9	43%	7	58%	2	17%	9	75%
30代・40代	13	62%	3	14%	16	76%	8	38%	3	14%	11	52%	1	8%	1	8%	2	17%
50代以上	2	10%	0	0%	2	10%	1	5%	0	0%	1	5%	1	8%	0	0%	1	8%
計	16	76%	5	24%	21		14	67%	7	33%	21		9	75%	3	25%	12	

退職者内訳

	2023年度			2024年度			2025年度		
	男性	女性	合計	男性	女性	男女合計	男性	女性	男女合計
20代	1	0	1	3	1	4	1	0	1
30代・40代	7	0	7	13	0	13	6	1	7
50代以上	3	0	3	5	0	5	3	0	3
計	11	0	11	21	1	22	10	1	11

自己都合退職者内訳

	2023年度			2024年度			2025年度		
	男性	女性	合計	男性	女性	男女合計	男性	女性	男女合計
20代	1	0	1	3	1	4	1	0	1
30代・40代	7	0	7	12	0	12	5	1	6
50代以上	3	0	3	1	0	1	2	0	2
計	11	0	11	16	1	17	8	1	9



コスモ石油ルブリカンツ株式会社
企画部　プロジェクトグループ

中田 健也様

Third Party

貴社とコスモエネルギーグループは長年にわたり、系列特約店ならびに関連取引先に格別のご支援を賜り謹んで御礼申し上げます。中でもコスモ石油ルブリカンツは、潤滑油事業を通じ多大なるご支援を賜っております。
2026年2月末以降の中東情勢の緊迫化は日本経済にも大きな混乱をもたらし、燃料のみならずプラスチック、シンナー、潤滑油など幅広い石油製品の供給に深刻な影響を及ぼしました。コスモエネルギーグループでは、原油調達の多様化により安定供給の継続に注力するとともに、今後も透明性のある情報提供に努めてまいります。本稿が掲載される頃には、事態が平和裏に解決していますことを切に願います。
日本にとってエネルギー安全保障は重要な課題の一つです。1970年代のオイルショックや今般の中東情勢緊迫化を教訓として、エネルギー産業において、安定供給と持続可能な社会の実現を同時に果たすことが強く求められています。
貴社とコスモエネルギーグループは、単なるエネルギー供給者にとどまらず、多様な資源を組み合わせて持続可能な社会を牽引するという責務を共有しています。とりわけ、貴社が推進される再生重油、再生混合燃料、再生固形燃料などの再資源化事業は、幅広い産業への貴重なエネルギー供給と、CO_2削減・資源循環に多大な貢献をするものです。また、「廃棄物由来燃料によるJ-クレジット」は持続可能社会に向け極めて重要な施策と言えます。さらに、使用済潤滑油は循環資源として再生ベースオイルへの活用も可能であり、その価値は一層高まっています。
これら再生資源は、国内で確保できる“地政学的リスク・ゼロの資源”としてエネルギー安全保障上極めて重要であり、同時に“持続可能社会”の鍵を握ることから、貴社への期待は日々高まっていると感じています。
貴社は、事業の安全と社員の健康を守るという絶対的責任のもと、安全第一・労災ゼロの取り組みを強力に推進されています。地域消防との連携訓練や自主防災訓練を重ねることで、地域と共に災害への備えを強化されている姿勢に深い敬意を表します。加えて、社員一人ひとりとの対話、社内外における啓発活動を通じて地域・産業社会に広く貢献されているそのお取り組みは、まさに模範となるものです。
今後さらに、貴社を中心に各業界・各企業・地域社会が垣根を越えて連携し、新たな価値が創出されますことを切に期待いたします。コスモ石油ルブリカンツも、エネルギー産業の一員として引き続き力を尽くしてまいります。



経営企画室兼サステナビリティ推進室
室長

杉山 博章

Xible's Voice

「豊かな未来を創る組織」を実現するためには、社員一人ひとりが安心して働き、誇りを持って成長できる環境づくりが不可欠だと考えます。資源循環事業は、社会インフラを支える重要な仕事である一方、現場にはさまざまな危険や身体的負担が伴います。
だからこそ、安全衛生を最優先とし、事故や災害を未然に防ぐ仕組みを強化していく必要があります。設備や作業手順の改善に加え、現場の気づきやヒヤリハットを共有し、社員同士が声を掛け合える風土を育てることが、安全衛生の質の向上につながります。
また、私たちの事業そのものが、資源循環や環境保全に貢献するSDGs活動です。廃棄物を適正に処理し、再資源化を進めるだけでなく、地域社会への環境教育や清掃活動などを通じて、持続可能な社会づくりへの理解を広げていきたいと考えます。日々の業務がSDGsのどの目標に結びついているのかを社員が実感できれば、仕事への誇りや行動意欲もさらに高まるはずです。
さらに、年齢、性別、国籍、障がいの有無、経験や価値観の違いを尊重し、多様な人財が活躍できるダイバーシティの推進も重要です。異なる視点を持つ社員が互いに認め合い、意見を出し合うことで、業務改善や新たなサービスの創出につながります。誰もが公平に挑戦でき、成長機会を得られる組織を目指します。
健康経営の面では、身体の健康だけでなく、メンタルヘルスやワーク・ライフ・バランスにも目を向けます。健康診断後の支援、相談しやすい体制、適切な休暇取得、働き方の見直しを進め、社員が長く安心して働ける環境を整えます。
安全・環境・多様性・健康は、別々の取り組みではなく、持続的な成長を支える一つの基盤です。社員の声を経営に反映し、現場と経営が一体となって改善を重ねることで、社員、地域、取引先、そして社会から信頼される会社を築いていきます。それが、私たちが目指す「豊かな未来を創る組織の実現」だと考えます。
これらの意識が社員に浸透、定着するために、組織横断的な委員会活動を推進しております。

戦略的重要課題
[5]揺るがない経営基盤の確立

環境におけるコンプライアンスの遵守

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度	評価	ありたい姿
3.9/6.3/6.6/12.4 14.1/15.1/16.3/16.10	労働安全衛生活動	ISO環境目標 騒音・臭気 漏洩事故・苦情	発生件数	騒音・臭気・苦情 0件 漏洩7件	騒音・臭気・苦情 0件 漏洩1件	騒音・臭気・苦情 0件 漏洩4件	×	0件
3.6/16.3		交通事故 違反件数	交通事故 違反件数	事故：3件 違反：2件	事故：4件 違反：1件	事故：4件 違反：2件	×	0件

2025年度の実績と今後の方針

当社では労働安全衛生徹底のため、現場では手順書教育を行い、定常作業・非定常作業に関わらず危険予知（KY活動）を継続して実施しています。また、工場員全員を対象として安全パトロールを実施し、リスク見直しを定期的に行っています。2025年度は漏洩事故が4件発生しました。廃油回収作業中にタンク上部より油が漏洩したもの、切削油の回収作業中に手順の誤りにより床面に漏洩したものです。いずれも周辺地域への影響はございませんでした。原因究明と再発防止策を講じ、安全作業の徹底に努めてまいります。また、業務作業中の交通違反が2件、業務中の怪我が2件発生しました。法令遵守の意識向上を図るため、運転者への定期的な交通法規教育、作業環境の見直しと危険予知活動のさらなる徹底を図るとともに、ヒヤリハット事例の収集・共有等を通じて未然防止に取り組んでまいります。事故違反・労働災害ゼロを目指し、教育訓練の継続実施と現場の体制強化により、労働安全衛生への対策をさらに推進してまいります。



月1回の安全パトロール実施



定期的な設備点検

社会面におけるコンプライアンスの遵守

最も関連するSDGsのターゲット	TOAシブルの具体的なコミットメント	TOAシブルのコミットメントの解説	活用する数値	2023年度	2024年度	2025年度
16.5・6	コンプライアンス経営の推進	コンプライアンス経営の推進	違反件数	0	1	1
		コーポレートガバナンスの強化	コンプラ研修の回数	0	1	1


社内規定の整備


社員へのヒアリング

2025年度の実績と今後の方針

当社は本年度、重要課題の一つとして「コンプライアンス経営の推進」を掲げ、内部通報制度の運用や体質改善に加え、全社員を対象としたコンプライアンス研修や役職者を対象としたハラスメントセミナーを実施してまいりました。しかしながら、期中にコンプライアンス違反が1件発生してしまいました。この事実を重く受け止め、未然に防げるような内部統制のさらなる強化、リスクコンプライアンス委員会の機能向上、教育・研修の内容見直しと徹底に取り組んでまいります。再発防止のため、内部通報後の対応フローを短縮化し、現場の声を迅速に反映できる体制を整えると同時に、このようなトラブルが起こらないよう、「話しやすい職場環境」づくりに注力します。そのためには、上長・役員層が率先して意識を切り替え、これまで以上に対話と傾聴を重視する文化を浸透させることが不可欠と考えています。透明性の高い経営と自律的な行動が根付く企業風土の醸成に向け、今後も継続的に取り組んでまいります。

重要課題	特に細心の注意を払うべき法律のリスト
限りある資源を大切に	▶廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ▶道路運送車両法 ▶八千代市環境基本条例 ▶資源有効利用促進法（各種リサイクル法） ▶循環型社会基本法 ▶千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例 ▶化学物質排出把握管理促進法 ▶化学物質排出把握管理促進法 ▶千葉県県外産業廃棄物適正処理に関する指導要綱 ▶電気事業法 ▶千葉県環境基本条例 ▶高度化法（エネルギー供給構造高度化法） ▶建設業法
地球環境をクリーンに	▶地球温暖化対策推進法 ▶NOx・PM法 ▶PRTR制度 ▶高度化法（エネルギー供給構造高度化法） ▶フロン排出抑制法 ▶大気汚染防止法 ▶ダイオキシン類対策特別措置法 ▶千葉県大気汚染緊急時対策特別要綱
地域社会との共存共栄	▶悪臭防止法 ▶湖沼水質保全特別措置法 ▶騒音規制法 ▶水質汚濁防止法 ▶土壌汚染対策法 ▶都市緑地法
豊かな未来を創る組織の実現	▶労働基準法 ▶男女雇用機会均等法 ▶健康増進法 ▶障害者雇用促進法 ▶労働安全衛生法 ▶高年齢者雇用安定法 ▶道路交通法 ▶職業安定法 ▶最低賃金法 ▶育児・介護休業法 ▶消防法 ▶労働施策総合推進法
揺るがない経営基盤の確立	▶会社法 ▶暴力団等排除条例 ▶民法、刑法 ▶サイバーセキュリティ基本法 ▶金融商品取引法 ▶個人情報保護法 ▶特許法 ▶電子署名及び認証業務等に関する法律 ▶取適法（中小受託取引適正化法律） ▶建築基準法 ▶著作権法 ▶計量法 ▶不正アクセス禁止法 ▶特定電子メール法 ▶千葉県廃棄物処理施設の設置及び維持管理に関する指導要綱 ▶再資源化事業等高度化法（資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律）

機密情報の取り扱いについて

「情報セキュリティ管理規程」を設け、高い情報セキュリティレベルを維持する体制を構築し事業の安定継続を保っています。当社情報システム室には、資格を持った社員が常駐し、常に全社員のパソコンの監視をしています。また、ソフトウェアを常に最新の状態に管理し、不正アクセスを防いでいます。さらに全パソコンにウイルス対策を導入することや、記憶媒体の持ち出しに関するルールを設定する等、情報漏洩対策を図っています。個人情報については「個人情報保護規程」に従い厳格な管理を行っております。

マイナスのインパクトの是正プロセス

ステークホルダーの皆さまからのお問合せやご相談、苦情等については、当社ホームページのお問合せ窓口とお電話にて承っています。お客様から頂いたご意見やご要望は、すべて社内のデータベースに集約し、内容を分析し、役職員まで速やかに共有するとともに、社内で検討を行い、企業活動に反映させています。このように一つひとつ真摯に誠実に、かつ迅速に対応することでお客様のニーズをつかみ、新たな価値創造につなげ信頼関係を深めてまいります。

サプライチェーンマネジメント

協力会社・パートナー企業のネットワーク拡充により、信頼関係の構築を図り相互の持続的成長につなげることで、安心・安全の提供を推進しています。今後はサプライヤーの皆さまとの協働をより一層推進させ、事業を通じて社会課題の解決を図り、社会の期待を越える価値を提供してまいります。

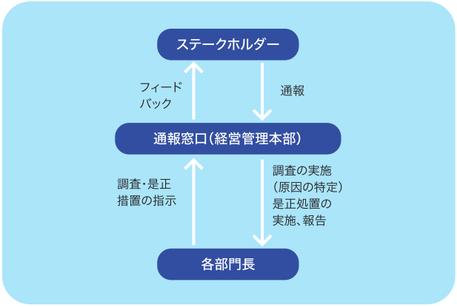
反社会的勢力との関係排除

健全な事業遂行の確保を図るため、定期的に千葉県公安委員会主催の講習に参加しています。契約や取引の際には継続的に反社チェックを実施すること、状況に応じて適切な対応策と外部専門家との連携を取ることにより、リスクの低減と社会的信用の維持を図っています。

社内外の助言を求める制度および懸念を提起するメカニズム

当社が定めるMission(存在意義)には「当社は安全で健康な職場環境を形成するとともに、法令遵守を徹底し、広く地域、産業社会に貢献いたします。」と定めています。コンプライアンスに関する相談や不正行為等の通報の窓口として、社内の窓口と社外の弁護士を直接の情報受領者とする外部窓口を設置しております。これにより、通報者の保護を徹底した運用が可能です。通報のあった案件については調査を行い、通報対象者や案件への個別の対応だけでなく、社内のコンプライアンス・リスク管理委員会に報告をあげ全社的な再発防止策の検討を行っています。





	2023年度	2024年度	2025年度
環境違反罰金回数	0回	0回	0回
環境違反罰金額	0円	0円	0円
社会経済分野の法規制の違反	0回	0回	0回

社員や、取引先企業等ステークホルダーからの懸念や苦情を受け入れる窓口を用意しています。当社HPのお問合せ窓口のフォームへの記入又はお電話をご利用いただけます。いただいた情報は厳重な管理のもと、経営管理本部に提出され、各部門長に伝達されます。その後ガイドラインに基づきヒアリングを行い、是正処置を実施します。そして、相談者・通報者が容易に特定されるのを避け、不利益を被らないよう、『公益通報者保護法』に則って適切に対処いたします。今後はよりガバナンス機能を強化するための組織体制づくりを推進していきます。



ハラスメント研修

役職者を対象にハラスメント防止研修を実施しました。グループでケーススタディに取り組み、実際の職場を想定しながら対応方法や管理職としての役割について議論を行いました。対話を通じて理解を深めることで、ハラスメントの未然防止と、誰もが安心して働ける職場づくりへの意識向上につなげています。



セキュリティ訓練メール

標的型攻撃メールを想定したテストメールを配信し、社員の情報セキュリティ意識を確認しました。結果をもとにフィードバックと教育を実施し、不審メールへの対応力向上と情報資産の保護に努めています。



「広報優秀事業者表彰大賞」を受賞

千葉日報社主催「千葉県広報研究会」において、「広報優秀事業者表彰大賞」を受賞しました。社名変更に伴うリブランディングをはじめ、環境啓発活動や地域との取り組みなど、当社の事業や社会貢献活動について継続的な情報発信を行ってきました。こうした活動が評価され、今回の受賞につながりました。



自衛消防隊初期消火活動競技大会　準優勝

毎年参加しているこの大会では、万が一の火災発生時に迅速かつ的確な初期対応ができるよう初期消火の3つの競技を通じて、対応のスピードや手順の正確さを競います。今年度は、準優勝という結果を収めました。昨年度は優勝を果たしており、2年連続で上位入賞となりました。



経営管理本部
財務経理部 部長

木原 謙介

Xible's Voice

企業が持続的に成長し、100年企業を目指していくためには、収益を確保するだけでなく、社会やお客様から信頼される経営基盤を築くことが何より重要です。財務・経理部門は「会社の数字を管理する」というイメージを持たれがちですが、その役割は集計作業だけにとどまりません。適正な会計処理や法令遵守、内部統制の強化、リスク管理などを通じて、健全で透明性の高い経営を支えることも、私たちの大切な使命です。
当社では、「揺るがない経営基盤の確立」をマテリアリティの一つに掲げ、コンプライアンスの徹底やハラスメント防止、適切なガバナンス体制の構築を進めています。また、環境関連法令の遵守と継続的な改善活動を実践し、環境リスクの低減と環境パフォーマンスの向上にも取り組んでいます。こうした日々の積み重ねが、お客様や地域社会からの信頼を育み、企業価値を支える盤石な基盤になると確信しています。
近年、ESG経営や情報開示への期待が急速に高まる中、当社ではScope3排出量の算定やJ-クレジットの創出をはじめとする、新たな挑戦にも着実に取り組んできました。財務・経理部門としても、企業活動を財務面から支えるだけでなく、透明性の高い情報開示を通じて信頼される経営を後押ししていきたいと考えています。これからも、健全な財務基盤と強固なガバナンスのもと、社員一人ひとりが安心して挑戦できる企業づくりに貢献してまいります。



弁護士法人芝田総合法律事務所
代表弁護士

芝田 麻里 様

Third Party

株式会社TOAシブルの「サステナビリティレポート2025」を拝読した。
非常に読み応えのある内容であり、拝読しながら、時代の流れ、現在の社会情勢、今後の社会の在り方などを考えさせられた。

まず、最初に印象的であったのが、トップメッセージにおける「社会課題の解決と企業価値の向上」を両立する経営を推進するという同社のスタンスである。
2024年に国家戦略としての資源循環戦略が打ち出され、従来の資本主義を牽引してきた「線形経済（リニアエコノミー）」、すなわち、資源の採掘から製品の大量生産、大量消費、大量廃棄といった経済構造から、「循環経済（サーキュラーエコノミー）」、すなわち、最小限の資源から製品を作り、長く使い、廃棄する際には再資源化し、新たな製品へと生まれ変わらせていく経済構造へと社会がパラダイムシフトを迫られている中、社会は未だ「資源循環」が今後の経済成長の新たな鍵になるとする考え方（「第五次循環型社会形成推進基本計画」）に半信半疑である。従来型の線形経済が日本のみならず世界の資本主義社会を牽引してきたのであり、資源循環は経済成長とは背反するものであるという感覚が抜けないのである。
ところが、同社は、資源循環を牽引する企業として、「社会課題の解決」と「企業価値の向上」という一見、相反するように見える理念を両立するものと考え、経営方針としている。そして、「社会課題の解決」の中に、資源循環業を営む企業として、当然のことながら「循環型社会の実現」を含んでいる。すなわち、同社は、同社の企業風土の中でごく自然に「循環型社会の実現」に向けて歩みを進めており、すでにその成果が本レポートにも随所に記されている（P.31～40等）。今後も循環経済を牽引していく存在として期待したい。
また、そのような文脈において、同社が一般貨物運送事業を展開する企業をグループに迎え、物流機能を強化し、さらには、産業廃棄物収集運搬ネットワークを拡充していこうとする試みは、収集運搬を効率化することによって再資源化高度化法の趣旨にも合致し、脱炭素にも資するものとして期待したい。
一方、同社の社内に目を向けると、有給消化率が73.2%であること、離職率の低減に取り組み、その一環としてはたらきやすい職場環境を整え（P.59～64）、人材育成のための制度の充実を図っていること（P.65～66）などが記されており、社員ひとりひとりが安心して仕事に取り組むことができる環境を作ろうとする姿勢が見て取れる。
社員が会社を好きになり、安心して仕事ができる環境を作ることこそ、会社がサステナブルであるためには必須であろう。
さらに、同社の非財務ハイライトとして同社において献血を行った献血活動人数155人と紹介されている（P.14）。そして、同社の目指すべき方向性の重要テーマとして地域社会との共存共栄があげられ（P.17～18）、地域社会との共存に関する活動が紹介されている（P.53～58）。資源循環事業を営む企業として、地域社会の理解を得ていくことはときに困難であるものの非常に重要である。地域社会の理解を得ることができる資源循環企業がひとつでも増えていくことが業界全体のイメージアップや循環経済そのものの理解にも資するものと考える。
現在、プラスチック資源循環促進法、再資源化高度化法をはじめとして、循環型経済の実現に向けた様々な法律、施策が打ち出されている。同社がこの流れに乗ることにより、より一層の成長と循環経済への貢献を期待したい。
なお、廃棄物を焼却する際に廃棄物に含まれる廃プラ等の化石由来の廃棄物が燃焼することによって発生する「非エネルギー起源GHG」の排出は、廃棄物処理そのものから発生するものとして避けがたいものである。この削減は技術的革新によって可能であるのだろうか。本レポートには同社の理想としての「ありたい姿」として「焼却による自社排出CO2 42%削減」とある（P.43～44）。
この点、トップメッセージにおいて、自社事業の活動に関連する他社の排出にかかるScope3排出量の算定に着手したこと、J-クレジットの創出に取り組んでいること、さらには将来的な焼却炉の廃止を視野に入れた事業ポートフォリオの転換を進めていることが述べられている。これは、排出量の可視化を自社の枠を超えてサプライチェーン全体に広げるとともに、焼却という処理方法そのものへの依存を見直そうとする姿勢の表れであり、「非エネルギー起源GHG」という構造的な課題に対する中長期的な回答になり得るものと受け止めた。この転換がどのように進んでいくのか注視していきたい。

グループ会社紹介

株式会社 アールズファクトリー



当社は、リサイクルの推進とCO_2排出削減を目指し、産業廃棄物の収集運搬から処理、スクラップの再資源化などの事業を通して、資源循環型社会と低炭素社会の構築に向け一層の努力を続け、お客様と共に「環境」を創造する工場をさらに発展させてまいります。

取得認定
・エコアクション21（登録番号:0012650）
・ちばSDGsパートナー（登録番号:2892）

Overview 会社概要

社　　名	株式会社 アールズファクトリー
代 表 者	富田　聡
所 在 地	〒277-0872　千葉県柏市十余二230-14
事業内容	産業廃棄物の収集運搬及び中間処理 非鉄・鉄スクラップの買取及び加工製品の販売
創　　立	2012年（平成24年）6月
創　　業	2012年（平成24年）8月
資 本 金	1,000万円
加入団体	エコスタッフ・ジャパン株式会社
従業員数	30人（2026年4月現在）
売 上 高	5.8億円





Top Message トップメッセージ



株式会社 アールズファクトリー
代表取締役社長　富田　聡

当社は創業15年を迎えました。創業以来、掲げ続けてきたのは、「廃棄物に新たな価値を吹き込む」という目標です。廃棄物のリサイクルには、効率だけでは成し遂げられない領域があります。当社では、手間と時間を惜しまず、人による手選別と、機械だけでは捉えきれない細部まで人の目で見極める緻密な分別を一貫して行ってきました。一つひとつの廃棄物と向き合い、分別の精度を高めることで、リサイクル率の向上と資源の有効活用に努めています。
また、私たちが大切にしているのが「Put Customer First（お客様最優先）」の姿勢です。お客様がいつでも気軽に相談できる関係を築き、処理が難しい廃棄物に関するお悩みや課題にも、一つひとつ真摯に向き合ってきました。廃棄物を適正に処理するだけでなく、お客様とともに最適な方法を考え、安心と信頼につなげていくこと。それもまた、私たちの重要な使命だと考えています。
環境負荷の低減と脱炭素社会の実現に向けた取り組みも進めています。太陽光発電の活用に加え、14期には蓄電池を導入しました。夜間においても再生可能エネルギー由来の電力を活用できる環境を整え、エネルギーの有効利用とさらなる環境負荷低減を目指しています。
これから私たちが目指すのは、さらなる分別精度の向上です。これまで「kg」の世界で捉えてきたリサイクルを、さらに細かな「g」の世界へ。より緻密な分別によって、一つでも多くの資源を循環させることで、廃棄物の可能性をさらに引き出していきたいと考えています。同時に、働く社員にとってより良い環境をつくることも、持続的な成長には欠かせません。これからも社員一人ひとりの声に耳を傾けながら、近年の異常気象にも対応できる作業環境の改善と安全確保に取り組みます。大規模修繕をはじめとする設備・環境の整備を進め、安心して働くことのできる職場づくりを推進してまいります。
そして、TOAグループの一員として、グループ各社との連携をさらに深め、それぞれの強みを掛け合わせることで、新たな価値を生み出していきます。資源循環を軸に、環境負荷の低減、脱炭素社会の実現に貢献し、持続可能な未来を次の世代へつないでまいります。創業から15年。これまで培ってきた技術と信頼を礎に、私たちはこれからも「廃棄物に新たな価値を吹き込む」という原点を大切にしながら、挑戦を続けてまいります。

◆普通産業廃棄物処分業
◆特別管理産業廃棄物処分業
- 破砕施設　2基
- 圧縮施設　2基
- 油水分離施設　2基
- 切断施設　1基
- 溶融固化施設　2基

◆普通産業廃棄物収集運搬業
◆特別管理産業廃棄物収集運搬業
◆鉄・非鉄金属の買取(古物商許可)
◆フロン類回収(第一種フロン類充填回収業者登録)
◆計量証明事業登録(事業の区分:質量)
◆千葉県特定金属類取扱業
◆特定金属くず買受業
◆特管処分業優良認定

◆リサイクル家電処理手続き代行
◆廃棄物分析代行
◆データ破壊代行(PCハードディスク破壊証明)
◆機密書類溶融化処理代行
◆廃棄物処理トータルコーディネート

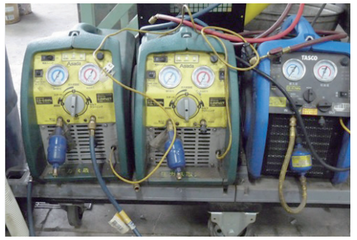
廃棄物におけるアールズファクトリーのビジネスモデル

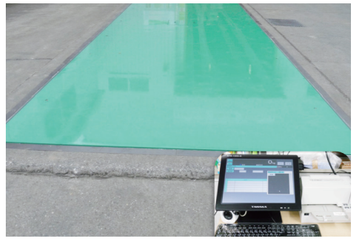
当社は混合廃棄物や複合型廃棄物の処理を得意としており、建設業や設備業からの混合廃棄物や倉庫業からの商品廃棄物、及び学校関係からのイスや机など、様々な業種のお客様より廃棄物処理のご依頼をいただいております。ご依頼いただいた廃棄物は、人の手で種類ごとに分別したのち、当社の処理において中間処理を行っています。中間処理後物につきましては、マテリアルリサイクル・サーマルリサイクルを行っている事業者様へ納めており、リサイクル率の向上を図っております。また、1都7県から優良事業者として、産業廃棄物の収集・運搬の許可を得ており、さまざまなタイプの輸送車両を保有し、お客様の廃棄物種類や規模に応じた最善の収集運搬方法を提供いたします。


普通・特管産業廃棄物処分業


普通・特管産業廃棄物収集運搬業


鉄・非鉄金属の買い取り


フロン類の回収（第一種フロン類充填回収業者登録）


計量証明事業登録（事業の区分：質量）

- リサイクル家電処理手続き代行
- 廃棄物分析代行
- データ破壊代行
  （PCハードディスク破壊証明）
- 機密書類溶融化処理代行
- 廃棄物処理トータルコーディネート

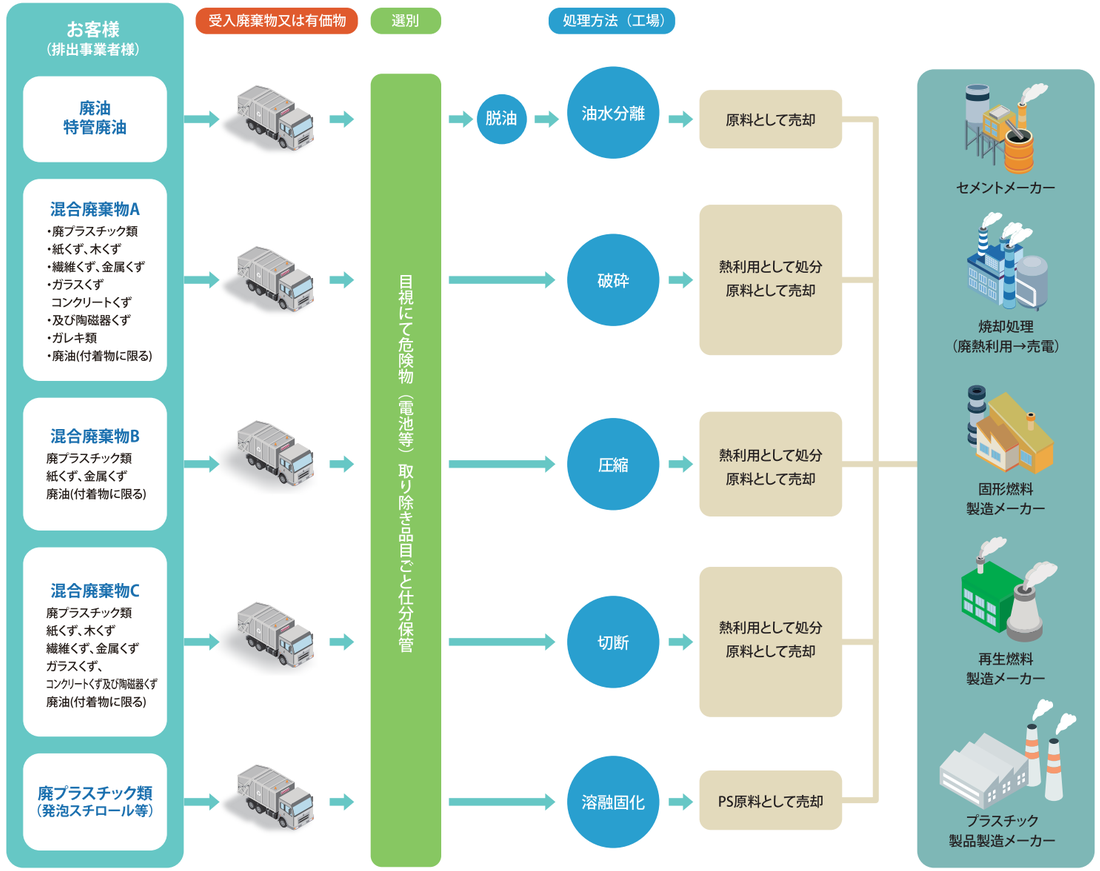
2025年度の実績と今後の方針

2025年度は、各事業所で処分に苦慮している蛍光灯類や充電式を含む電池類の回収・適正処分・処分場までの安全な運搬に注力しました。その結果、多くの企業から信頼をいただき、新規取引先の獲得にもつなげることができました。今後はさらに一歩踏み込み、現在受け入れている廃棄物を「ただ適正に処分する」のではなく、いかにしてマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルへ転用できるかという観点から検討を進めます。これにより、廃棄物の価値を最大限に引き出し、循環型社会の実現に貢献することを目指してまいります。





廃棄物処理におけるアールズファクトリーのビジネスモデル



History

2012

6月 吉中リサイクル設立

7月 ►千葉県柏市において産業廃棄物処分業許可取得(政令都市)
►福島県において産業廃棄物収集運搬業許可取得

8月 ►計量証明事業登録・第一種フロン類充填回収業者登録・古物商許可取得
►東京都・栃木県・群馬県において産業廃棄物収集運搬業許可取得

9月 ►千葉県・埼玉県・神奈川県・茨城県において産業廃棄物収集運搬業許可取得

11月 ►株式会社アールズファクトリーに社名変更



破砕施設(増設分)



溶融固化施設



切断施設



フロン回収機



油水分離施設

2019

1月 ►エコアクション21認証取得

2021

1月 ►破砕施設増設油水分離施設設置許可取得

2022

10月 ►各県にて産業廃棄物収集運搬業許可の優良認定取得

2023

4月 ►切断施設・溶融固化施設設置許可取得

12月 ►ガレキ類処分許可取得

2024

7月 ►太陽光発電設備設置

特管収運許可取得

2024 12月 千葉

2025 1月 東京・埼玉

2025

4月
千葉県
特定金属類取扱業

2026

2月
►ちばSDGsパートナー
►新規圧縮施設の設置

2026

3月
►特管処分業優良認定

社会貢献活動・社内活動等



エコキャップ活動

使用済みペットボトルキャップを回収し、リサイクル資源として活用する「エコキャップ活動」に取り組んでいます。回収したキャップは再資源化され、売却益はワクチン支援など社会貢献に役立てられます。社員だけでなく協力業者の皆さまにも参加を呼びかけ、身近な行動から環境保全と地域貢献を目指しています。



太陽光パネル設置

事業所の屋根全体に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを積極的に活用しています。発電した電力は業務で使用し、CO_2排出削減やエネルギーの自給率向上に貢献しています。限りある資源に頼らない持続可能な事業運営を目指し、再生可能エネルギーの導入を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。



千葉ジェッツ応援自販機

地元千葉で活躍するプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」を応援するため、売上の一部がチーム支援につながる寄付自販機を設置しています。地域の皆さまと共に千葉ジェッツを盛り上げ、スポーツを通じた夢や感動を次世代へつなげていきます。



お取引先様へのおもてなし

廃棄物を持ち込まれる協力業者の皆さまに季節ごとのドリンクをお渡ししています。炎天下や寒冷時に屋外作業が続く中で、少しでも体調管理や安全運転の助けになればという想いから始めました。日頃の感謝を込めたこの取り組みは、業者の皆さまとの信頼関係を深める大切な機会にもなっています。



社員家族とのBBQ

社員とその家族が集まり、定期的にBBQを開催しています。部署や世代を超えて交流できる場として、普段の業務では見られない一面を知るきっかけにもなっています。家族同士のつながりも生まれ、社員が安心して働ける環境づくりや社内の一体感の醸成につながる大切なコミュニケーションの場となっています。



地域清掃活動

定期的に、社員全員で近隣清掃活動を行っています。地域に支えられている感謝を胸に、社員一人ひとりが力を合わせて身近な環境をきれいに保っています。


INAC千葉　CRAVO FCスポンサー


社内SDGsカードゲームの実施



福祉事業所の就労支援



ちばSDGsパートナー



健康な職場づくり宣言

Employees' Voice



私は産業廃棄物の回収業務を担当しています。日々の業務では、交通ルールや収集運搬に関する法令を遵守し、安全かつ適正な作業を心掛けています。また、ドライバーが安心して業務に取り組めるよう、車両や備品の管理も行い、安全運転・安全作業を支える環境づくりに努めています。お客様からお預かりした廃棄物を責任を持って運搬し、信頼に応えられるよう取り組んでいます。
当社の魅力は、従業員同士の仲が良く、部署の垣根を越えて意見交換や情報共有ができることです。困った時には自然と助け合える風土があり、安心して仕事に取り組むことができます。また、健康面や安全面への配慮も充実しており、働きやすい職場環境が整っています。
今後も安全第一を徹底しながら、お客様に信頼されるサービスを提供し続けるとともに、業務の効率化や品質向上にも取り組み、会社の売上向上と発展に貢献していきたいと考えています。

業務部 運輸課　　藤井 幸一



SUSTEA導入


消防訓練



飲酒運転根絶宣言

女性従業員対談：働きやすい職場づくりに向けて

当社では、女性従業員の活躍推進に向け、女性従業員6名を対象にアンケート調査およびヒアリングを実施しました。
調査の結果、入社前は、産業廃棄物や重機、トラックなどの印象から、男性中心で体力を要する職場を想像していたという声がありました。一方、入社後は、職場の清潔さや整理整頓、事務・営業などの幅広い職種、IT化の進展などを実感し、入社前のイメージとのギャップが明らかになりました。
業務では、法令や契約書、廃棄物の品目・処理方法などに関する専門知識が求められます。その一方で、「相談しやすい雰囲気」「男女を問わず意見を言いやすい」「上司や先輩のサポートがある」といった点は高く評価されました。また、有給休暇を取得しやすい点も評価されています。
今後は、業務を複数人で共有・補完できる体制の整備、柔軟な勤務制度や実用的な福利厚生の検討、女性が活躍できる仕事内容や資格取得制度の発信を進めます。性別にかかわらず働きやすい職場づくりと、女性従業員の採用拡大に継続して取り組みます。



女性従業員6名のアンケート結果

【回答者：女性従業員６名（工場課２名　営業課４名）複数回答は延べ人数】

入社前のイメージ・入社後の驚き・職場の雰囲気・ワークライフバランス/福利厚生・周囲の反応(入社時/現在)・社会貢献意識

入社前のイメージ【延べ回答数12名】	
3K（きつい・汚い・危険）	2名
男性中心の職場	3名
体力仕事が多そう	2名
地味・目立たない仕事	0名
社会に必要な仕事	2名
環境・SDGsに関わる仕事	0名
あまりイメージがわかなかった	3名

入社後の驚き【延べ回答数17名】	
思ったより清潔・整理整頓されていた	3名
女性が活躍していた	1名
仕事の種類が多く、IT化・システム化が進んでいた	3名
事務・営業など幅広い職種があった	4名
知識・専門性が必要だと気づいた	5名
社会貢献度の高さを実感した	1名

職場の雰囲気【6名の評価内訳】	
話しやすい・相談しやすい雰囲気	5 1 0
男女問わず意見が言いやすい	4 2 0
チームワークが良い	3 3 0
上司・先輩のサポートがある	5 1 0
女性が働きやすい環境だと感じる	2 3 1

ワークライフバランス/福利厚生【6名の評価内訳】	
休日・休暇の取りやすさ	4 2 0
残業・労働時間のバランス	1 5 0
有給休暇の取得しやすさ	5 0 1
福利厚生の充実度	3 1 2
プライベートとの両立のしやすさ	1 4 1

■とてもそう思う　■ややそう思う　■あまりそう思わない

周囲の反応(入社時)【延べ回答数7名】	
心配された	1名
応援してくれた	1名
驚かれた	2名
特に反応はなかった	3名

周囲の反応(現在)【延べ回答数8名】	
大変そうと言われる	1名
すごい仕事だと言われる	1名
仕事内容を理解してくれている	3名
特に話題にしない・特に話さない	3名

社会貢献意識【延べ回答数6名】	
よく感じる	0名
時々感じる	4名
あまり感じない	2名
ほとんど感じない	0名

アンケート結果サマリー

- 入社前は「男性中心の職場」「あまりイメージがわかなかった」が多く、不安や未知のイメージが見られました。
- 入社後は「専門性が必要」「職種が幅広い」「IT化が進んでいる」など、良い意味でのギャップが多くありました。
- 職場の雰囲気は全体的に良好で、特に「相談しやすい雰囲気」「上司のサポート」が高く評価されています。
- ワークライフバランスや福利厚生は、有給取得のしやすさが高評価でした。
- 社会貢献は「時々感じる」が最多で、仕事を通じた社会への貢献を実感する声が見られました。

グループ会社紹介

株式会社 大池



昭和56年創業当時より、多岐にわたる石油製品（ガソリン、アルコール類及び各種溶剤、各種テスト用燃料、自動車用添加剤等）の配合、製造、充填、小分けを強みとし、これまで培った経験と技術により、多くのお客様から信頼をいただき、現在では幅広い種類の製品を手掛けております。これからも、年々多様化するニーズにお応えしてまいります。

埼玉県
ONE TEAM SAITAMA
SDGsパートナー

Overview 会社概要

社名	株式会社 大池
代表者	澁谷 政明
所在地	〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3224番地
事業内容	石油製品の製造販売 石油化学製品の製造販売 防錆潤滑油の製造販売及び委託加工 各種溶剤の製造販売
創業創立	昭和56年12月8日
資本金	300万円
登録団体	三郷市防火安全協会
従業員数	13人（2026年4月現在）
売上高	8.3億円

2023	TOAシブルが全株式取得。完全子会社化。 同時に有限会社から株式会社に改組。
2023	TOAシブルより化成品事業を譲受。
2025	次世代グリーンCO_2燃料技術組合 （通称：raBit）参画

Top Message トップメッセージ



株式会社大池
代表取締役社長 澁谷 政明

当社は、各種石油製品や溶剤の製造・調合・小分けなどを主な事業として展開しており、3年前にM&AによりＴＯＡグループの一員となりました。創業以来45年の歴史と高い技術や豊富なノウハウが評価され、比較的安定した経営を続けてきましたが、本年は当社の歴史の中でも最大級の試練に直面した年となりました。

具体的には、イラン戦争による石油とその関連製品の供給混乱と価格高騰です。当社は石油製品の製造・調合が主な事業なだけに、その影響が直撃した格好となり、なかでも繁忙期直前の刈払機用混合燃料製造は、原料であるレギュラーガソリンの仕入れ目途がほとんど立たない状態になりました。幸いにも、就任以来取り組んできた仕入先の拡大・強化とともに各部門長の迅速な対応が奏功し、早期に安定した仕入れ体制を確保することができました。さらに、顧客に対して原料の調達状況を包み隠さず報告することで、信頼関係をより強固なものにできたことも貴重な成果となりました。

一方、本年はCO_2削減に向けた社会貢献が加速した年でもありました。昨年より参画している「raBit＝次世代グリーンCO_2燃料技術組合」の活動が本格化するとともに、自動車業界をはじめ他業界や団体からもバイオ燃料など次世代燃料の製造依頼や問い合わせが相次ぎました。こうした当社の取り組みが評価され、埼玉県SDGsパートナー企業に認定されるなど、当社への期待の高さを肌で感じることができる年となりました。

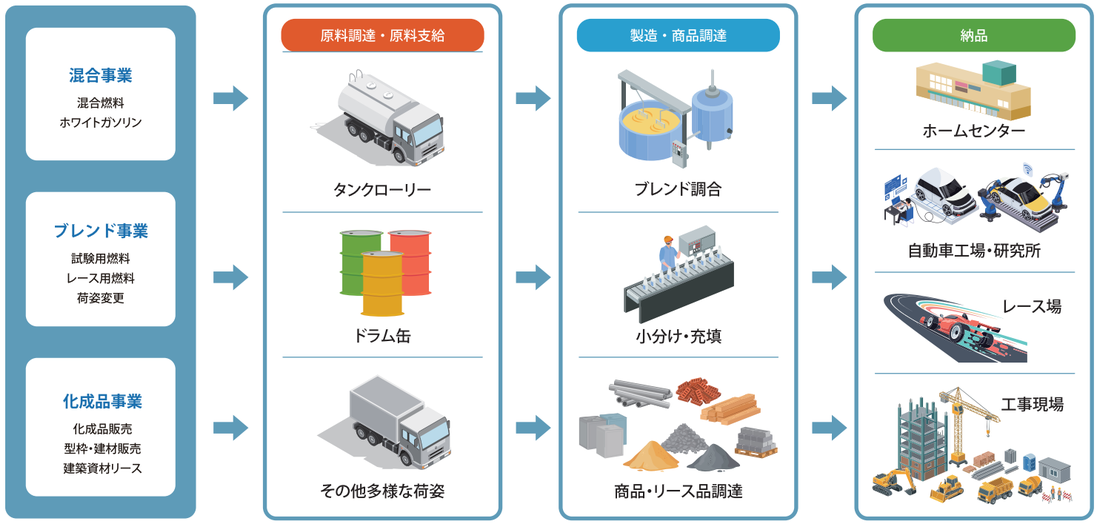
当社では、こうした次世代燃料の製造などを通じたCO_2削減を重要な企業使命として捉えており、本年度より製造能力拡大に向けた設備投資に着手、来期末頃の完了を目指し工事を進めております。併せて、次世代燃料製造など高い技術が求められる事業拡大に向け、より専門性の高い人材育成に向けた教育制度の整備やグループ会社間での人材交流についても積極的に進めてまいります。また、埼玉県の「多様な働き方実践企業」のゴールド認定を受けるなど働き方改革にも注力しており、引き続きより健全な職場環境構築にも取り組んでまいります。

多様な働き方実践企業
埼玉県
KOBATON

事業紹介

①2サイクルエンジン用混合ガソリンの製造
②自動車用テスト燃料の調合・充填
③各種レース用燃料の調合・充填
④アウトドア用ホワイトガソリンの充填
⑤防錆剤や防凍剤等の建設、土木化成品の製造・販売
⑥型枠・仮設材等の建設、土木用資材の販売・リース
⑦その他、ガソリン、軽油、アルコール等、石油製品のブレンド・充填・小分け荷姿変更

大池のビジネスモデル



2025年度の実績と今後の方針

事業の成長と新たな挑戦

今年度は、既存事業の安定的な運営を継続するとともに、将来を見据えた新たな取り組みを進めました。次世代グリーンCO_2燃料技術組合（略称：raBit）に参画し、次世代の燃料技術に関する研究・技術開発に関わることで、脱炭素社会の実現に向けた新たな可能性を探っています。これまで培ってきた技術やノウハウを大切にしながら、社会や環境の変化にも柔軟に対応し、持続的な事業成長につなげてまいります。

社会・地域とのつながりを広げる

事業活動に加え、地域社会の一員として、社会課題の解決や持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めました。埼玉県SDGsパートナーへの登録をはじめ、地域や社会とのつながりを意識した活動にも積極的に取り組んでいます。社会貢献活動への参加など、社員が地域社会と関わり、企業としてできることを考え行動する機会も広げています。今後も、事業活動だけではなく、地域や社会とのつながりを大切にし、企業として果たすべき役割を考えながら、継続的な社会貢献活動に取り組んでまいります。

多様な人財が活躍できる職場づくり

今年度は、「多様な働き方実践企業」としての取り組みを進めるとともに、女性活躍の推進など、多様な人財が活躍できる環境づくりに取り組みました。働き方や価値観の多様化に対応し、誰もが自分らしく能力を発揮できる職場を目指します。社員の働きやすさと成長を支える環境を整えることで、人財の力を会社の持続的な成長につなげてまいります。





福島の復興と持続可能なエネルギーの未来へ
次世代グリーンCO_2燃料技術組合（通称：raBit）への参画

2025年8月、次世代グリーンCO_2燃料技術組合（略称：raBit）に賛助会員として参画しました。

raBitとは？

福島県の復興に寄与したいという想いから福島県大熊町に設置され、第二世代自動車用バイオエタノール燃料の効率的な製造技術の確立をはじめ、製造過程で発生する高濃度酸素や二酸化炭素の回収・活用、自動車への実用化に向けた研究などに取り組んでいます。
第二世代バイオエタノールは、非可食植物などを原料とするため、食料との競合を抑えながら製造できる再生可能エネルギーとして期待されています。

今後の当社の取り組み

今後、創業以来培ってきた燃料の製造・混合・調合に関する技術やノウハウを活かし、持続可能な燃料づくりに向けた研究活動に協力しています。
その取り組みの一環として、2025年10月には、福島県大熊町のraBit生産研究事業所で開催された「持続可能燃料、今走り出す！福島産バイオエタノール」をテーマとした公道走行イベントに参加しました。
イベントでは、大池でバイオエタノールを調合した低炭素ガソリンを市販車の燃料として使用し、実際に公道を走行。
研究段階にある技術を「実際に車を走らせる」という実証につなげる貴重な機会となりました。
研究から実証へ。そして、持続可能な燃料が当たり前に使われる未来へ。
raBitとともに福島の復興と持続可能なエネルギー社会の実現に向けて取り組んでまいります。

raBit



混合事業

刈払機やチェンソーなどに使用される2サイクルエンジン用混合燃料を製造・販売しています。製品は1L・2L・4Lの3種類をラインアップし、主な納品先はホームセンターや農機具メーカーです。需要は春から秋にかけて集中し、多い時には1日あたり18kLを製造しています。燃料には特殊な酸化防止剤や添加剤を調合しており、長期保存が可能であるとともに、排気ガス中のCO_2削減効果も備えています。さらに、大手アウトドアメーカー向けにランタン用燃料も製造し、幅広いニーズに応えています。



ブレンド事業

主に自動車エンジン開発用のテスト燃料を製造しております。繊細な調合が要求され調合後の分析もppm単位で行っております。新規エンジンの耐久性等を確かめるため、特殊燃料で性能調査を行います。また、レースで使う特殊燃料の製造も行っております。近年ではCO_2削減のため、植物由来の燃料に移管するべく、さまざまな特殊燃料の製造依頼を受注しております。



化成品事業

防錆剤や防凍剤など建設・土木向け化成品「サムテックシリーズ」の製造・販売を展開しています。これらの製品は主に道路や橋梁などの施工に活用されています。さらに、新たな事業領域として、型枠資材や仮設建材の販売・リースにも取り組んでいます。

社会貢献活動・社内活動等



エコキャップ回収

TOAグループの一員として、ペットボトルキャップを回収し、リサイクル資源として活用する「エコキャップ活動」に取り組んでいます。社員の家庭や業務中の飲料のエコキャップはすべて回収し、社会貢献に対する社員の意識も向上しています。



年次有給休暇の取得推進

従業員が心身ともに健康で充実した生活を送れるよう、年次有給休暇の取得を推進しています。年間の有給休暇取得日数が業種別平均を上回ることを目標に、休暇を取得しやすい職場環境づくりに取り組んでいます。



地域との交流

地域の皆さまから新鮮な野菜をいただくなど、日頃から温かな交流が生まれています。また、地域の皆さまへはちみつやドリンクをお配りするなど、ささやかな交流を大切にしながら、顔の見える地域とのつながりを育んでいます。



遮熱シートの導入

製造所に遮熱シートを設置しました。近年の気候変動により製造所内の温度上昇が問題になっていました。室内温度上昇を抑えることで、機械や電気設備の負荷低減や、社員の働きやすい環境を提供しています。



多様な働き方を支える制度整備

従業員一人ひとりがライフステージに応じた働き方を選択できるよう、会社規程を整備しています。育児休暇、介護休暇、時短勤務、テレワークなどの制度を設け、仕事と家庭の両立を支援するとともに、誰もが安心して働き続けられる職場環境づくりを進めています。



環境負荷低減に向けた設備転換

環境保全とエネルギー使用の効率化に向け、従来のボイラーを廃止し、ドラムヒーターへ切り替えました。日々の事業活動における設備を見直すことで、環境負荷の低減につなげています。

埼玉県 ONE TEAM SAITAMA SDGsパートナー

埼玉県SDGsパートナー登録完了！

今後は、省エネ活動や地域貢献、社内でもSDGsを意識した取り組みを広げていき、CSR活動をより一層強化していく予定です。

多様な働き方実践企業 埼玉県 KOSAKUSHA

埼玉県多様な働き方実践企業認定取得

仕事と生活の両立を支援し、「働きやすさ」だけでなく「働きがい」「多様な人材の活躍」「生産性の向上」などの面で働き方改革に積極的に取り組む企業として認定されました。

環境

CO_2削減のため、省エネ機器（ドラムヒーター）の導入により、エネルギー使用量を削減する。

社会

近隣の農家の方に猛暑対策として飲料水の提供や、地元のお祭りへの協賛を行う。

経済

通常のガソリンよりCO_2の発生が少ないバイオ燃料の製造に積極的に取り組む。
具体的取り組み→バイオ燃料製造数の増加



Employees' Voice



早いもので当社に入社して11年が経とうとしています。これまでは、従来のやり方を踏襲する仕事がほとんどでしたが、3年前にTOAグループの一員となってからは、常に新しい取り組みと変化を求められるようになりました。特に2年半前に製造部門長を拝命してからは、従来、経験をしたことがないチャレンジの連続となりました。代表的なものとしては、昨年より始まったホームセンター向け混合ガソリンのTC製造（小ロット製造・短納期）への対応、ブレンド案件の急増、高い精度が要求されるレース用バイオ燃料の製造などです。加えて、こうした状況に対応すべく地下タンク増設や製造所・保管倉庫の増強などの設備投資にも着手しました。今後はこうした製造体制の強化だけでなく、5SやKYT（危険予知トレーニング）などの社員教育を実施、安全体制の整備にも取り組んでまいります。

業務部 部長　田口 啓太

グループ会社紹介

Top Message トップメッセージ



エナジートランスポーターは、ガソリン・軽油などの石油関連製品をタンクローリーで地域社会にお届けする一般貨物自動車運送事業の会社です。また、2025年9月よりTOAグループへ参加いたしました浅野運輸は医療用ガスなどを輸送する一般貨物自動車運送事業の会社です。両社ともに設立当初よりご依頼をいただくお客様が多く継続による関係性を築き、信頼にお応えしてまいりました。この信頼を支えているのはプロ意識の高いドライバー職員と、共に働く仲間を大切にする職場環境です。今後も安心して働ける職場環境をより良いものへと発展してまいります。私の基本方針は「共に歩む」社会とともに、社員とともに、お客様とともに、そしてTOAグループとともに持続可能性を追求しつつ、豊かな未来を創造してまいります。私自身は長く営業職に従事してまいりました。お客様が受注を獲得するまでにどれほどのご苦労があるかは熟知するところであります。このお客様の労に報いるためにも社員一人ひとりにはプロドライバーとしての自覚と責任、プライドと誇りをもってハンドルを握っていただきたいと願っています。お客様に心から喜んで対価をお支払いいただけるか。その問いに正面から向き合いながら、これからも信頼と安心を運び、地域社会に貢献してまいります。
今後も、安全・確実な物流を守りつつ、社会や環境への貢献にも力を注いでまいります。まずはエコキャップ回収活動を身近にできる活動から始め、地域とのつながりを大切に育んでいきます。持続可能な未来に向け、一歩ずつ着実に行動し地域社会に貢献する企業を目指します。

株式会社 エナジートランスポーター・浅野運輸 株式会社　代表取締役社長 **栗原　等**

株式会社 エナジートランスポーター



エネルギーを、安全に、確実に。
タンクローリー輸送のプロフェッショナル・ガソリン・軽油などの
石油関連製品を、タンクローリーで地域社会へ届けます。

ETXO ロゴを一新しました！

「エネルギーを、未来へ。」エナジートランスポーターの新しいロゴには、「エネルギーを運ぶ」という社名に込められた使命と未来へ向かって進み続ける企業としての想いを表現しています。「ET」は、Energy Transporter「P」は「Professional」の頭文字です。運送のプロ集団が、様々なつながりの中でエネルギーを未来へ運ぶ姿をイメージしています。TOAシブルの根幹となる「X」を真ん中に取り入れ、右側には無限大(∞)を思わせる形を取り入れました。エネルギーの循環と、持続可能な未来への成長を表現しています。

Overview 会社概要

社　　名	株式会社 エナジートランスポーター
代　表　者	栗原　等
所　在　地	本　　社：千葉県浦安市北栄4-10-11 北関東営業所：栃木県河内郡上三川町大字上三川4489-6
事 業 内 容	ガソリン・灯油・軽油・石油など石油製品の配送

創　　立	2012年（平成24年）9月
資　本　金	300万円
従 業 員 数	20人（2026年4月現在）
車両保有台数	17台

ビジネスモデル

石油製品の専門輸送において、信頼を構築
- ●一般貨物自動車運送業として、安全性と効率性を最優先に多年培うノウハウと技術を通して安定した輸送を実現しています。
- ●主要取引先は大手優良企業

元売り会社 ▶ 商社 ▶ エナジートランスポーター ▶ 納品先

強み

01｜専門性
石油関連製品の輸送に精通した、プロドライバー集団。

02｜安全・確実な輸送
高い責任感とプロ意識を持ち、安心・安全な輸送を徹底しています。

03｜地域を支える輸送力
暮らしや産業に欠かせないエネルギーを、必要な場所へ確実に届けています。

浅野運輸 株式会社 2025年9月よりTOAグループに参入

社会に欠かせないものを、安全に、確実に。半世紀以上にわたり、
産業ガス・特殊化学製品の輸送を通じて、社会と産業の基盤を支えています。
日本全国どこへでも。運ぶものに合わせて、最適な輸送を。多様な車両で応える輸送のプロフェッショナル

当社は、医療用ガスなどの輸送を担う一般貨物自動車運送事業者です。設立以来、多くのお客様から継続してご依頼をいただき、長年にわたる信頼関係を築いてきました。その信頼を支えているのが、プロ意識を持って仕事に向き合うドライバーと、多様な輸送ニーズに応える車両・輸送体制です。産業ガスや石油化学製品は、さまざまな産業の現場で必要とされています。必要なものを必要な場所へ、安全かつ確実に届けること。それが、社会が当たり前に動き続けるための大切な役割です。当社は高度な専門性と安全基準を満たし続けることで、業界内での信頼を築き上げています。



ビジネスモデル

元売り会社 ▶ 浅野運輸 ▶ 納品先

Overview 会社概要

社　　名	浅野運輸株式会社
代　表　者	栗原　等
所　在　地	本　　社：東京都江戸川区篠崎町7-19-6 千葉営業所：千葉県市原市青柳2-5-5
事 業 内 容	一般貨物自動車運送業
創　　立	1968年6月設立
資　本　金	1400万円
従 業 員 数	28名(2026年4月現在)
車両保有台数	24台

強み

01｜多様な車両と対応力
平ボディを中心に、さまざまなサイズの車両を保有。荷物や輸送条件に応じた柔軟な対応が可能です。

02｜専門性の高い輸送
医療用ガスなど、安全かつ確実な取り扱いが求められる製品を責任を持って輸送しています。

03｜長年の信頼と実績
お客様との継続的な関係を大切に、一つひとつの仕事に誠実に向き合ってきました。

GRIスタンダード

利用に関する声明	株式会社TOAシブルは、52期（2025年5月～2026年4月）までの期間について、GRIスタンダードを参照して報告する
利用したGRI	GRI 1 :基礎2021
該当するGRIセクター別スタンダード	該当なし

GRI スタンダード / その他の出典	開示事項	掲載場所
一般開示事項		
GRI 2：一般開示事項 2021	2-1 組織の詳細	P9
	2-2 組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	P9
	2-3 報告期間、報告頻度、連絡先	P2
	2-4 情報の修正・訂正記述	—
	2-5 外部保証	P30
	2-6 活動、バリューチェーン、その他のビジネス関係	P9～12、81～84、89～92、95～96 ※1
	2-7 従業員	P73~74、81、89、95~96
	2-8 従業員以外の労働者	—
	2-9 ガバナンス構造と構成	P15
	2-10 最高ガバナンス機関における指名と選出	—
	2-11 最高ガバナンス機関の議長	—
	2-12 インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	—
	2-13 インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	—
	2-14 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	—
	2-15 利益相反	—
	2-16 重大な懸念事項の伝達	—
	2-17 最高ガバナンス機関の集合的知見	—
	2-18 最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	—
	2-19 報酬方針	—
	2-20 報酬の決定プロセス	—
	2-21 年間報酬総額の比率	—
	2-22 持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	P3～4
	2-23 方針声明	P15
	2-24 方針声明の実践	P16
	2-25 マイナスのインパクトの是正プロセス	P78
	2-26 助言を求める制度および懸念を提起する制度	P78
	2-27 法規制遵守	P76~78
	2-28 会員資格を持つ団体	P29~30
	2-29 ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	P16
マテリアルな項目		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-1 マテリアルな項目の決定プロセス	P17～26
	3-2 マテリアルな項目のリスト	P18、23～24、27～28
【エネルギー】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15、31、38～39、41～46
GRI 302：エネルギー 2016	302-1 組織内のエネルギー消費量	P32、38、46
	302-3 エネルギー原単位	P46
	302-4 エネルギー消費量の削減	P38～39
【水と廃水】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15、31、44、47
GRI 303：水と廃水 2018	303-1 共有資源としての水との相互作用	P47
	303-2 排水に関連するインパクトのマネジメント	P44、47
【生物多様性】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15、25、30、48～51
GRI 101: 生物多様性 2024	101-1 生物多様性の損失を止め、反転させるための方針	P30、48
	101-2 生物多様性へのインパクトの管理	P48～51

【大気への排出】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15、25、31、41～46
GRI 305：大気への排出 2016	305-1 直接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ1）	P43～44、46
	305-2 エネルギー起源の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量（スコープ2）	P43～44、46
	305-3 その他の間接的な温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ3）	P44
	305-4 温室効果ガス（GHG）排出原単位	P45～46
	305-5 温室効果ガス（GHG）排出量の削減	P43、45
	305-6 オゾン層破壊物質（ODS）の排出量	—
	305-7 窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）、およびその他の重大な大気排出物	P44
【廃棄物】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15、31～39
GRI 306: 廃棄物 2020	306-1 廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	P31～37
	306-2 廃棄物関連の著しいインパクトの管理	P31、33～39
	306-3 発生した廃棄物	P32～33
	306-4 処分されなかった廃棄物	P33
	306-5 処分された廃棄物	P32
【雇用】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15、59-64、73～75
GRI 401：雇用 2016	401-1 従業員の新規雇用と離職	P74
	401-2 正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	P74
	401-3 育児休暇	P60、63

【労働安全衛生】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15、59、67～72、76
GRI 403: 労働安全衛生 2018	403-1 労働安全衛生マネジメントシステム	P67～69
	403-2 危険性(ハザード)の特定、リスク評価、事故調査	P68、71、76
	403-3 労働衛生サービス	P67、69、71～72
	403-4 労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	P15、67～68 ※2
	403-5 労働安全衛生に関する労働者研修	P65~66、69～70
	403-6 労働者の健康増進	P61～63、71～72
	403-7 ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と緩和	P86（グループ会社）
	403-9 労働関連の傷害	P70、76
	403-10 労働関連の疾病・体調不良	P71
【研修と教育】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P59、63、65～66
GRI 404：研修と教育 2016	404-1 従業員一人あたりの年間平均研修時間	P66
	404-2 従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	P65～66
	404-3 業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	ー（100%）
【ダイバーシティと機会均等】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P59～63、73～75
GRI 405：ダイバーシティと機会均等 2016	405-1 ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	P73～74
	405-2 基本給と報酬総額の男女比	ー
【地域コミュニティ】		
GRI 3：マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	P15～16、53～58、86～87、93～94
GRI 413：地域コミュニティ 2016	413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	P16、53～58、78、86～87、93～94

※1 詳細は、産廃情報ネットで開示している「優良産廃処理業者認定制度に係る公表事項」を参照。「さんぱいくん TOAシブル」で検索、あるいは以下URLでご覧いただけます。https://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index_u2.php?UserID=005637 ※2 安全衛生委員会の中に社員代表が所属しています。

株式会社 TOAシブル
〒276-0022 千葉県八千代市上高野1728-5
TEL.047-485-7189 FAX.047-482-7090

オフィシャルWEB
toaxible.com

アンケートに
ご協力お願いします

VEGETABLE OIL INK